

— 日本応用心理学会 —

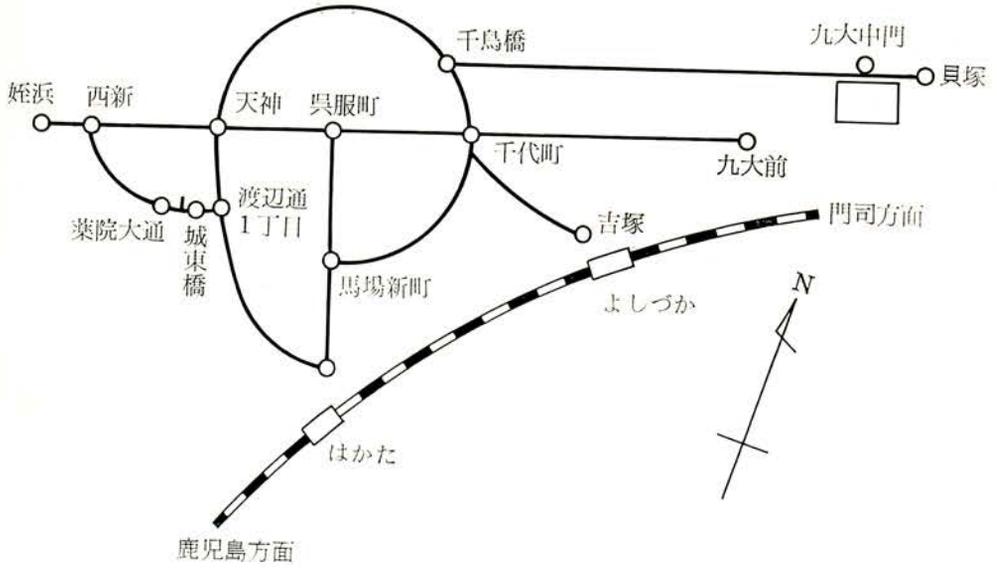
第34回大会発表論文抄録

— 1967年10月 —

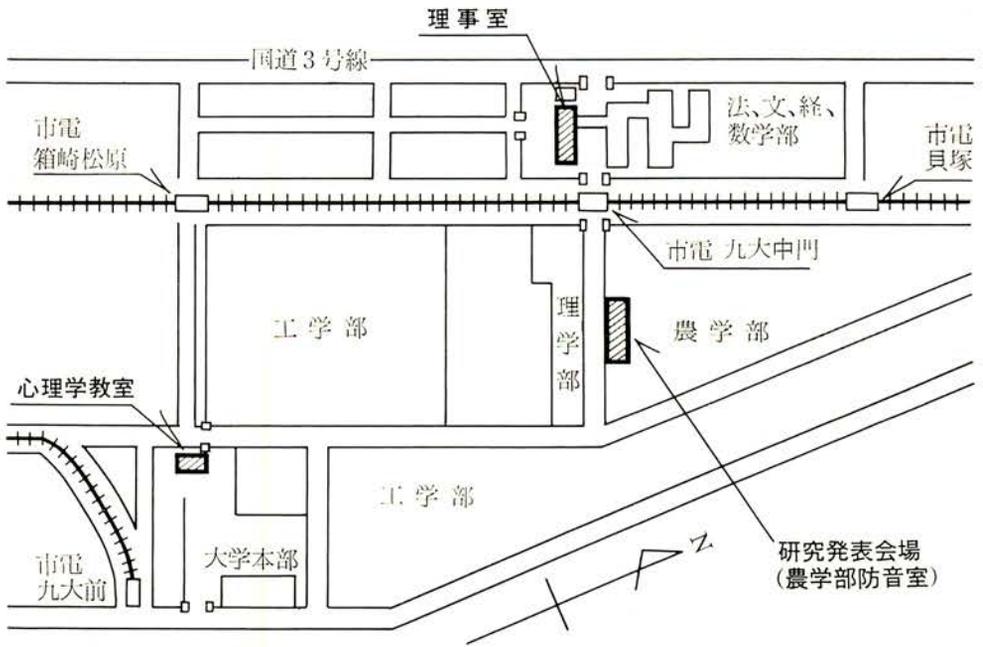


九州大学

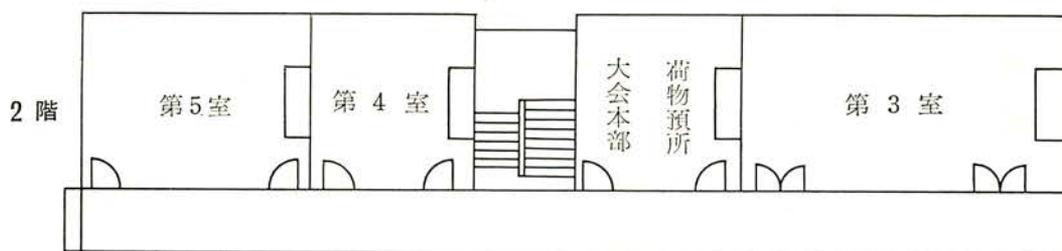
# 市電交通図



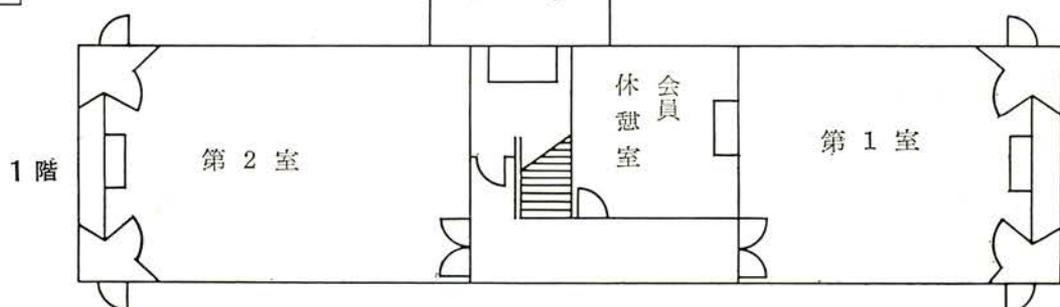
# 会場付近略図



# 大会会場見取図



WC



# 大会日程

1. 大会前日(10月7日土曜) 運営委員会 午後5時から新三浦で
2. 大会日程表

第1日 10月8日(日) 午前		午後				
室	時	(個人発表)		(シンポジウム)		
	9.30	12.30	1.30	4.30	6.00	
1	教育・発達・社会	写真撮影	昼休み	青少年問題		懇親会
2	人格			福祉の問題		
3	臨床・相談			産業安全の問題		
4	検査					
5	産業・職業指導・一般					
第2日 10月9日(月) 午前		午後				
室	時	9.30	11.30	12.30	1.30	4.30
1	応用心理学会の諸課題 (シンポジウムの 総会報告)	特別報告 人間の生き方	昼休み	交通問題公聴会	総会	

### 3. 参会者へのご案内

#### (1) 受付

日時 10月8日(日)・9日(月) 午前9時より受付を行います。

諸費	a. 正会員大会費	800円
	b. 臨時会員大会会費	300円
	c. 学生会員大会会費	200円
	d. 写真(希望者のみ送料とも)	200円
	e. 懇親会費(希望者のみ)	500円

諸費支払は、論文集に挿入された諸費支払票に必要事項を○印で記入の上、受付にお出し下さい。会費支払済の方へ会員章をさしあげますので、会期中必ずつけて下さい。

#### (2) 案内・掲示

大会のご案内は、大会の係員(黄色の胸章をつけています)がいたします。  
必要事項は掲示致します。

#### (3) 会場

(発表会場、会員休憩室、荷物預所、本部)は図示した通りです。

#### (4) 懇親会

会費 500円

10月8日午後6時より龍鳳で行ないます。

会場まではバスでご案内します。

### 4. 発表者へのご注意

(1) 研究発表は、各室ごとに座長の指示により進められます。

(2) 発表時間は、15分、内質問時間3分

(3) 合図は、発表開始後9分に1鈴

発表開始後12分に2鈴(口頭発表終了、質問開始)

発表開始後15分に3鈴(質問終了、演者交替)とします。

(4) 発表者交替の折、つぎの発表者は、次回発表者席について用意して下さい。

(5) 発表資料(図表、プリント、スライド、テープレコーダー)は、各室の発表開始前に、各室準備係にお渡し下さい。(室名、発表番号、氏名を記入のこと)

尚こちらで準備できるテープレコーダーのスピードは9.5cm/sです。

## 第1日(10月8日) 個人発表 午前9.30~12.30

### 教育・発達・社会 第1室 座長 小保内 虎夫、永沢 幸七

9.30	1	特殊児童についての教育評価に関する研究—その7—	東京都目黒区立向原小学校	岸本 英男
9.45	2	音の精神作業に及ぼす影響—自我関与との関係	四国女子大学	岩田 紀
10.00	3	スライドで映写された数字と文字の読みやすさ(Logibility)について	信州大学	柴田 徹
10.15	4	Natives peaker による English class の1年間の観察記録	東京家政学院大	永沢 幸七
10.30	5	思考過程と発達	昭島市立成隣小学校	高橋 哲也
10.45	6	Mcc Baby Test にあられた事例的研究, 小児患者の精神発達を中心に	共立女子大学	高島 正士
11.00	7	幼児期における同一視 I	津田塾大学	八重島建二
11.15	8	課題解決状況における役割の遂行, 小集団活動の研究	お茶の水女子大学	○谷口 佑子
			〃	大堀 優子
11.30	9	図形分割テストから見た幼児の思考	日本大学	○喜田 文子
			〃	小保内虎夫
11.45	10	線図形の象徴性に関する実験的検討	日本大学	○井田 睦美
			〃	小保内虎夫
			〃	浅井 正昭
12.00	11	留守家庭児童の問題 I	筑紫女学園短期大学	柴島 和子
12.15	12	学童の書字における誤りの研究	梅光女学院大学	○岡部 勇
			日本大学	妻倉昌太郎

### 人 格 第2室 座長 瀧永 重次、児玉 省

9.30	1	航空機騒音下における子供の性格像(Ⅲ)	日本女子大学	○首藤 孝子
			東京成徳短期大学	児玉 省
			日本女子大学	平井美知子
			〃	水野恵美子
			〃	藤井 淳子
9.45	2	航空機騒音下における子供の性格像(Ⅳ)	日本女子大学	○平井美知子
			〃	首藤 孝子
			日本大学	水野恵美子
			〃	藤井 淳子
			東京成徳短期大学	児玉 省
10.00	3	認識と行為の関係の一考察	お茶の水女子大学	清水 幸子
10.15	4	Personality の Factors に関する研究	埼玉大学	瀧永 重次
10.30	5	調息調心に関する心理学的研究(73), 禅とカウンセリングに関する心理学的研究(4)	九州大学	古賀 良子
10.45	6	調息調心に関する心理学的研究(74), 信と行に関する心理学的研究(4)	九州大学	川島 啓子
11.00	7	調息調心に関する心理学的研究(75), 情意機能に関する心理学的研究(12)	九州大学	池上竜太郎

- |       |    |   |        |        |
|-------|----|---|--------|--------|
| 11.15 | 8  | 調息調心に関する心理学的研究 (76),<br>精神統御に関する心理学的研究 (16) | 九州大学   | 山岡 哲雄  |
| 11.30 | 8  | ESPと生理的周期との関係について                           | 日本体育大学 | ○長田 一臣 |
|       |    |   | 防衛大学校  | 大谷 宗司  |
| 11.45 | 10 | 残像を Target とした ESP 実験                       | 防衛大学校  | 大谷 宗司  |

### 臨床・相談 第3室 座長 相場 均、生田 博之

- |       |   |  |             |                |
|-------|---|--|-------------|----------------|
| 9.30  | 1 | ロールシャッハ・テストよりみた患者と来談者に関する考察—M・スコアを中心として—   | 福岡県精神衛生センター | ○楠 峰光<br>武藤 直義 |
| 9.45  | 2 | ロールシャッハ法からみた神経症の精神病理学的研究                   | 福岡県精神衛生センター | ○武藤 直義<br>楠 峰光 |
| 10.00 | 3 | 非行少年の心的構造 (V)                              | 九州大学        | 松本 蕃           |
| 10.15 | 4 | 心理テストによる Cinguloctomy の効果の測定—施術適否の指標について—  | 名古屋市立大学     | ○生田 博之         |
|       |   |  | 名古屋大学       | 鈴木 正弥          |
|       |   |  | 守山荘病院       | 川島保之助          |
| 10.30 | 5 | 相談活動における人格変容に関する一考察                        | お茶の水女子大学    | 岩村佳代子          |
| 10.45 | 6 | 文化によってゆがめられる臨床的人格像の一考察—homo arctafus について— | 早稲田大学       | 相場 均           |
| 11.00 | 7 | Process scale による治療過程における人格変容の研究           | 東京農業大学      | 飯倉 銀次          |
| 11.15 | 8 | クライアントの経験に関する意味論的研究 (II)                   | 新潟県立教育センター  | 小川 敏道          |
| 11.30 | 9 | 指先反応法による虚偽発見について                           | 科学警察研究所     | 山下 素邦          |

### 検査 第4室 座長 水口 芳明、玉岡 忍

- |       |   |  |             |  |
|-------|---|--|-------------|--|
| 9.30  | 1 | Farnum Music Notation Test 追試                | 福岡県立朝倉東高等学校 | 関 雅子                                       |
| 9.45  | 2 | 幼児性格行動診断検査について                               | 九州工業大学      | 藤原 元一                                      |
| 10.00 | 3 | 反応時間に関する脳波学的研究 (2)                           | 日本女子大学      | ○杉本 功介<br>岩崎 好子                            |
| 10.15 | 4 | 集団投影人格検査 (GPPI) 標準化の試み                       | 東京家政大学      | ○金平 文二<br>島田 俊秀<br>伊藤 喜子<br>宮田 友子          |
| 10.30 | 5 | 音楽による性格診断テストの作成 (II)                         | 共立女子大学      | 玉岡 忍                                       |
| 10.45 | 6 | パネル・サービスにおける性格検査の試み (IV)                     | 慶応義塾大学      | ○平野 ●<br>大田恒瑞一郎<br>斉藤幸一郎<br>吉田 俊郎<br>山崎 恒夫 |
| 11.00 | 7 | 抽象的態度と具体的態度 (その8),<br>ゴールドシュタインの九種の検査の関係について | 香川大学        | 水口 芳明                                      |
| 11.15 | 8 | 虚偽発見検査における呼吸波の判定についての研究                      | 兵庫県警察本部     | 中尾勢串夫                                      |

## 産業・職業指導・一般 第5室

座長 松本 洋、藤本 喜八

9.30	1	ステーション・イメージに関する因子分析的研究	R.	K.	B	○山本 文夫 金子 信光
9.45	2	白色（光源色）の弁別閾の検討	日	立	中	研 本城 和夫
10.00	3	メントール清涼感の研究（Ⅱ），施光度と清涼感尺度	サ	ン	ス	タ ー 歯 磨 研 究 開 発 部 ○梅沢 伸嘉
			日	本	大	学 浅井 正昭
10.15	4	カラーテレビの色の美しさと購入意欲に関する実験	大	阪	大	学 ○吉田 光雄
						前田 嘉明
						難波精一郎
			万	年	社	小坂 久美
						山本 勝彦
10.30	5	購買動機に関する研究（2）， カラーテレビに関する多重回帰分析	万	年	社	○山本 勝彦
			大	阪	大	学 前田 嘉明
						難波精一郎
						吉田 光雄
			万	年	社	小坂 久美
10.45	6	職業訓練生の選択について	雇	用	問	題 研 究 会 松本 洋
11.00	7	商品のイメージに関する研究 —「中古車」の呼称について—	日	本	大	学 ○村井 健祐
						妻倉昌太郎
			梅	光	女	学 院 大 学 岡部 勇
11.15	8	中学校卒業者の定着過程に働く要因について	立	教	大	学 藤本 喜八
11.30	9	購入選択とパーソナリティ	九	州	大	学 ○佐久間 章
			北	九	州	大 学 金子 信光
11.45	10	工業化過程と価値意識（1）	立	教	大	学 武沢 信一

## 第1日(10月8日) シンポジウム 午後1.30～4.30

### 青少年問題 第1室 司会 遠藤 辰夫

1	大学生の神経症的不適応に関する一考察 —その1 新入学生の不適応—	富	士	短	期	大	学 ○駒崎 勉
							岡村 一成
2	潜在非行とマス・コミの影響（Ⅲ）	埼	玉	大	学		山根 薫
3	農村青年の宗教意識	熊	本	大	学		葛谷 隆正
4	青少年問題	九	圭	大	学		遠藤 辰夫

### 福祉の問題 第2室 司会 松村 庚平

1	集団療法の一方法（その2）	初	声	荘	病	院	○毛呂トシ子
							増野 信子
							藤川美智子

- |                                       |           |        |
|---------------------------------------|-----------|--------|
| 2 三才児の添寝                              | 仙台北保健所    | 大脇三恵子  |
| 3 集団指導における母子関係の発展                     | お茶の水女子大学  | 三宅啓子   |
| 4 臨床場面における人格変容                        | お茶の水女子大学  | 大尻優子   |
| 5 幼児の言語発達に関する研究(第3報)                  | 国立精神衛生研究所 | 桜井芳郎   |
| 6 福祉と矯正と心理とについて                       | 小菅刑務所     | 奥沢良雄   |
| 7 過感情の変調とその治療について<br>一心情質変調治療の研究 第XV報 | 中野刑務所     | 長谷川孫一郎 |

### 産業安全 第3室 司会 太田垣 瑞一郎

- |                        |           |        |
|------------------------|-----------|--------|
| 1 異質連続作業について(作業性格検査35) | 適正研究所     | 板倉善高   |
| 2 傷害事例調査から得たもの         | 鉄道労働科学研究所 | 清宮栄一   |
| 3 事務機械従業者の疲労検査に関する研究   | 関西学院大     | ○中山 信夫 |
|                        | 〃         | 佐野 淳   |
| 4 安全カウンセリングに関する研究      | 三和銀行診療部   | 河津 健   |
|                        | 立教大学      | ○正田 亘  |
|                        | 〃         | 豊原 恒男  |
| 5 疲労自覚症の分析             | 九州大学      | 浜田 哲郎  |
|                        | 慶応義塾大学    | 太田垣瑞一郎 |

### 第2日(10月9日) 午前11.30~12.30

#### 特別報告 第1室 司会 小保内 虎夫

人間の生き方について 九州大学文学部心理学教室 生き方研究班

### 第2日(10月9日) 午後1.30~4.30

#### 交通問題公聴会 第1室 司会 大脇 義一

- |   |           |        |
|---|-----------|--------|
| 1 事故及び優良運転者の因子分析的研究                           | 城西大学      | ○古賀 行義 |
|   | 日本大学      | 浅井 正昭  |
| 2 交通事故対策の心理学的矛盾について                           | 国鉄労働科学研究所 | 清宮 栄一  |
| 3 交通場面における行動を規制する精神活動の指標について<br>一脳波・心博を中心として一 | 大阪大学      | 鶴田 正一  |
| 4 人間モナドの素性相位規制について(第12報告)                     | 久留米大学     | 末永 一男  |
|   | 名古屋市役所    | 正村 史郎  |

# 特殊児童についての教育評価に関する一研究(その七)

岸本英男  
(東京都目黒区立向原小学校)

目的:既に今回までの発表によって、特殊児童についての教育評価は、それぞれの障害の実態と、その克服のプロセスを介入変数とした集団構造一般と、成就値との函数でなければならず、その際集団構造が主変数とならねばならない理由を、教育評価一般の原則の確立という教育社会学的成果より、立証してきた。

つまり、今日の教育評価は、ひつまよう、特殊児童を、よりよく生かすための「選別と価値づけ」ということになり、差異心理学的に見れば、個々の児童の特殊性を明らかにし、教育的に評価するということに外ならず、それを特殊教育と稱するならば、特殊教育即眞の教育というべきであろう。

従って、特殊教育の振興ということは、唯単に、特殊児童の増大の結果による教育行政的措置のエスカレーションということのみでなく、差異心理学的に明らかにされる個々人の特殊性に即した教育を振興することなのであって、とかく進歩発達高度成長の名の下に、画一化形骸化され勝ち普通教育の自然性に対して、フィードバックの機能を果すものとして、その意義と役割は高く評価されねばならない。

しからば、その理念は、現実社会に於て、いかに具現されるべきか、その方法と機能について探索し、何らかの成果を、もたらそうというのが、本研究の目的である。

方法:今日の義務教育一般小中学校では、一学級当りの児童数は、教員の定員定額制によって、機械的に定められている。従って15名以内の子を受もつ特殊学級の担任を、学校の教員定数とする場合、過密学級が増えることになるので、担任は定員の枠外配当とされ、特殊教育担当者として、管理上の区分をされる。つまり、学校運営が高度に専門化され、その機能がフルに働かざると、必然的に、現行の教職員の定員定額制が児童生徒一人一人の個人差に即した教育指導を不可能ならしめることになるわけである。

従って現行の学級編制規程を改善し、一学級当りの児童数をへらすか、或いは担任教師を増やすか、しない限り、眞に教育の名に値する学校教育は、少数の例外はあつても困難である。

而しながら、定員定額制を一挙に改善することはできないわけであるから、現行の枠内で、漸次改善の突破口をあげ、教育の正常化を計りつつあるのが、現状であり、特殊学級は、それに対して容れざる所が極めて多いということになるわけである。

つまり、今日の特殊学級は、教育的に遅れた児童生徒(学業不振)スローラー(境界線級)を編制の主な対象としており、軽度の精薄児を含めて、三層多段階の方向に発展しつつある、その意味に於て、普通学級との距離も次第に縮めつつあるわけである。

結果:本校では、この趣旨に招いて、現在二年と三年に特殊学級を設け、一二年の治療教育を施して原学年に復帰させ、予後の不全を期している。復帰の條件は、国語に見る如く、教科、情緒、体格の面での成就値の向上と、保護者とのカウンセリングによる。

考察:右図に於て、標準化されたテストによるクラス成員各個の得点は、偏差値に換算され、たて軸に表われるから、それぞれの評価項目について得られた得点の偏差値を、到達線として、横軸に表わせば、たて軸の規準線に対して、近接、交叉、超過の形で、個人向及び個人内心誌(サイコグラフ)を容易に把握でき、客観的評価ができるであろう。尚ほ、評価項目の選定と、それを測定する標準テストの信ぴょう性及び、その実施の方法と言ふがそれは、今後の研究課題であろう。

(連絡先)東京都品川区西五反田4の9の12岸本英男

評価項目	偏差値			
	20	40	60	80
教科				
情緒				
体格				

# 音の精神作業に及ぼす影響

— 自我関与との関係を中心に —

岩 田 紀

(四 国 学 子 大)

目的：(1)精神作業に及ぼす音の影響を作業に対する自我関与との関係において検討する。

(2)連想量に及ぼす音の影響を検討する。

(3)連想の非凡さに及ぼす音の影響を検討する。

方法：(1)被験群 本実験に先立って与えられる教示により自我関与の異なる2群が作られる。

高自我関与群(37名) 「本検査では思考力・記憶力などを含む知的能力の一部を測定できます」という教示を与える。

低自我関与群(38名) 「いまからやってもらいますものはこの実験方法がよいか否かを検討するためのものです」と教示を与える。

統制群(39名) 連想に及ぼす音の影響をみるためのもので、作業中には音も教示も与えない。

(2)作業 同音異義語連想、A、A'の2リストとも25個の名詞を含んだ7分作業とし、できるだけ多くの同音異義語を記入させる。A'は先行作業とし、被験群間の等質性を検討するためのもので、数分休息後に後行作業Aをテープに録音した音を再生しながら施行する。A'リストの成績によく極端な者をオミットし、前述の等質な3群が得られる。(3)音 二人の司会者が夫婦を招いて彼らに馴れそめから現在に至るまでの色々な事柄を聞いたり話しあったりするもので、再生時の強さは普通の話し声程度である。

結果：非凡な連想語を決定するためには、本報告とは別に100名のデータにより、刺激語に対する出現頻度が25%以下の

反応語を便宜的に非凡な連想語とする。両自我関与群は表1及び表2の連想語数とワスDにおいてほぼ等

表1 連想語数の結果

	M	SD
高自我関与群	33.3	6.0
低自我関与群	33.7	5.7
統制群	33.5	5.6

しく、自我関与の程度と精神作業に及ぼす音の影響の間には関係がみられない。次に表1において統制群が他の2群とほぼ等

表2 非凡な連想語の数

	M	SD
高自我関与群	9.2	4.1
低自我関与群	10.4	3.4
統制群	9.2	3.5

しい結果を得ていることから、連想量においては音の影響はみられない。表2においても3群がほぼ等しい結果を得ているので、非凡な連想の出現頻度に対する音の影響はみられない。

考察：すべての条件が統制されておれば、一般にある事柄に対する自我関与が強まるにつれて生産性も高まると考えられる。しかしながら本報告では肯定的な結果は得られにくい。その原因の一つにここで用いたような教示方法による自我関与操作の失敗があげられよう。これは被験者の実験後の内省報告においてもうかがうことができ、自我関与操作をもっと工夫する必要がある。さらに音の強度や性質を変えまた異なった作業を用いることによって検討を加えてゆくべきであろう。同音異義語連想においては3群の連想語数及びSDがほぼ等しいことから連想量においては音の影響がみられないといえる。同音異義語連想は創造性の下位因子である思考の流暢性を測定しうる検査であることから、音は思考の流暢性の発現には影響しないものといえよう。また非凡な連想語の数においても3群に差異がみられないことから、創造性の下位因子である独創性の発現に対しても音の影響はないようである。本報告においては、音は創造性の下位因子の働きを阻止する要因としては重要でないようである。

しかしながら創造性に対する音の影響を性急に結論づけるべきでなく今後の検討を待つ必要がある。

徳島市 応神町 東貞方

# スライドで映写された数字と文字の読みやすさ (1)

柴田 徹  
(信州大学教育学部)

目的: スライドで映写された数字や文字の読みやすさ (legibility) についての第一回の報告として、今回は暗い映写幕 (表面はビニール) の上に一定の照度  $4.0 \text{ lx}$  で教科書体の数字を映写し、

- (1) 数字の周囲の照度
- (2) 数字の大きさ
- (3) 映写幕から被験者までの距離

の三つの因子が数字の見え方とどのように影響しているかを調べ、これによって (1)、(2)、(3) のうちのどれか一つが定まっているとき、例えば 普通以上にはつきり見えるためには、他の二つの因子をどのようにすればよいか等を知らうとする。

実験方法: 第一実験 (1)、(2)、(3) のおのおのに次のように2水準ずつをとり、視力 (眼鏡をかけている者については矯正視力) 左右  $1.0$  以上の者について直交配列表によって 64 回の実験を行った。

- (1) 数字の周囲の照度  $0.2 \text{ lx}$   $22.0 \text{ lx}$
- (2) 数字の大きさ  $\left\{ \begin{array}{l} \text{高さ } 4.55 \text{ cm} \\ \text{幅 } 3.5 \text{ mm} \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} \text{高さ } 3.40 \text{ cm} \\ \text{幅 } 2.6 \text{ mm} \end{array} \right\}$
- (3) 映写幕から被験者までの距離  $9 \text{ m}$ ,  $11 \text{ m}$

評価は次のようにきめ、小数点以下1桁までとる。

- 非常にはつきりしない  $-2$
- すこしはつきりしない  $-1$
- 普通に見える  $0$
- 普通よりもすこしはつきり見える  $1$
- 非常にはつきり見える  $2$

第二実験

- (1) 数字の周囲の照度  $0.2 \text{ lx}$ ,  $10.0 \text{ lx}$ ,  $22.0 \text{ lx}$
- (2) 数字の大きさ 第一実験と同じ
- (3) 映写幕から被験者までの距離  $3 \text{ m}$ ,  $7 \text{ m}$ ,  $9 \text{ m}$ ,  $11 \text{ m}$

の場合について、第一実験と同様に、見え方 (連続変量) を小数点以下1桁までとって、 $-2$  から  $2$  ま

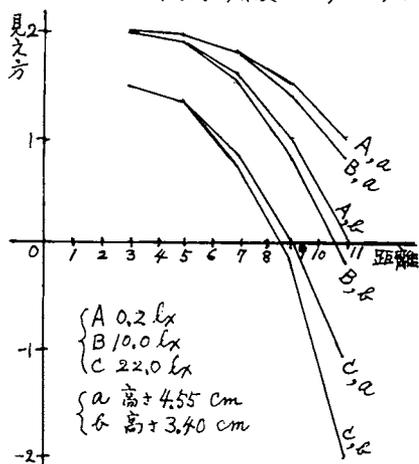
での数として表わした。なお、第一実験、第二実験ともに被験者は大学生38名であった。

結果: 第一実験から、用いられた (1) 数字の周囲の照度 (2) 数字の大きさ (3) 距離のいずれについても見え方に有意水準5%以下で有意差が認められた。また、第二実験から、グラフを個人別に画けば、下に示すような形になる。ただし、視力の大小によって、折れ線の経路が異なり、また各部分の線分の傾きも異なる。これから次のことがいえる。

(1) 数字とその周囲の照度および数字の大きさが一定のときには、被験者が幕の近くから遠くへ移動するにつれて、はじめは見え方がきわめてわずかに低下し、次第に激しく低下して行く。そして、視力の弱い者程先に見え方が激しく低下する。

(2) 数字の照度のいくつかの値について実験しておくとき、例えば、視力  $1.0$  以上の人が映写幕から何m以内で普通以上に見えるためには、数字の照度がいくらのとき (これは映写機の焦点距離が一定であれば、映写幕から映写機までの距離とランプの明るさに関係する) 数字の大きさとその周囲の照度かどうであればよいか

したがってフィルム上の数字の大きさとフィルムの高さかどうであればよいか



※(連絡先: 長野市西長野町 信州大学教育学部)

# MCC Baby Test にあられた事例的研究

——小児患者の精神発達を中心に——

高 嶋 正 士

(共立女子大学 家政科)

疾病やその他の身体的諸条件が乳幼児の精神発達に大きな影響を与えることは、これまでの諸研究で明らかである。

本研究の目的は、島田総合病院小児科を訪問した2ヵ月から24ヵ月までの乳幼児を対象に、とくに小児科医が診断上、ベビーテスト実施の要ありと認められた乳児に、テストを行ない、疾病と精神発達との関連性を吟味検討しようとするものである。

方法：MCC乳幼児精神発達検査を使用し、テスト結果をおとして、乳児の現在までの生活史を調査分析し、おもな事例の一部を報告する。

MCCベビーテストは、周知のように、母親と子どもの相談問題（*Counseling*）を解決するために作成された「乳幼児精神発達検査」であって、単に乳幼児の発達検査法だけを目的とするものではなく、かれらの行動の、しかも発達状況を明らかにするとともに、発達偏向の予防と矯正に役立つものであり、また、人格形成の基礎である乳幼児期における正しい養育態度を広く啓蒙し、指導の指針を与えるものとして、5年の歳月を費して作成されたものである。

(事例1) 大〇木〇子 女 S.40.6.25日生。  
(検査当時1年11ヵ月26日) 本児は6月上旬、*diarrhoea* のため小児科を訪問、その3ヵ月前に名古屋から転居す。父(自業)28歳、母26歳時の第1子、母親は神経質傾向が強く、向性検査結果、V. Q78である。出生時の体重2,200g、早産であったが、出産後の発育状態良好であるも、1年未滿まで疾病とくに下痢が激しかった。人工栄養で、離乳始期7ヵ月、言語始期は確実にとらえられなかった。5ヵ月1週目に初めてねがえりをみせた。本児はいっけん虚弱にみえ、当該月齢をさげ18ヵ月系列の問題から実施してみた。テスト全体をおとして、反応がき

わめておそかった。18ヵ月以降の問題には命令や言語に関するものが多いため、とくにその遅滞がみられた。18ヵ月問題は辛じて合格、20ヵ月、22ヵ月ともに4問の合格、24ヵ月「箱に立方体を入れる」の1問のみ合格、26ヵ月以降の問題は1問の合格もなかった。満2年の現在もなお、おむつから脱皮できない状態にあり、母親とのカウンセリングをおとして、十分に対象関係に疑問が生ずる。父は自業のため、同居人15名を要し、母親は家事多忙、あわせて転居による環境の変化に適応できず、母親自身ノイローゼたることを訴えていた。検査結果、MA21;6、DQ90である。歩行開始11ヵ月目は、むしろ本児の印象から早すぎるほどである。

(事例2) 田〇〇子 女 未熟児 S.41.7.23日生。(検査当時11ヵ月26日)9ヵ月早産、難産のため帝王切開す。父(船員)36歳、母32歳時の第2子。出産時の体重1,750g、出産後の発育状態不良、食事きわめて少量、現左の体重3,000g、人工栄養、離乳始期6ヵ月、生齒11ヵ月、最近ようやく「おすわり」ができる程度である。出生と同時に保育器の中で35日経過す。6ヵ月系列の問題から実施してみた。6ヵ月—4問、7ヵ月—5問、8ヵ月—4問、9ヵ月—1問の合格、10ヵ月以降全部不合格。本児もとくに命令や模倣、学習に関する問題ができず、ことばは「マーマー」(ウマウマの意味)のみで、身振りはほとんどみられない。家庭にあっても運動動作がなく、ほとんど反応を示さない。検査結果、MA8;0、DQ67であった。

以上の事例から、未熟児の精神発達の遅滞、対象関係の不十分、養育態度の偏向などが早期に発見でき、また、身体的発育の遅滞や疾病に原因する精神発達の障害を診断し、両者の関連性を把握することもできる。

# 幼児期における同一視

八重島建二  
(津田塾大学)

目的:我々は、父-母-子関係状況における同一視が、子どもの人格形成過程にいかなる意味をもつかを研究している。所で、幼児の同一視を直接測定する事は問題があるので、CATの技法を示唆とし、幼児に心理的距離の近い動物の親子関係状況に、現実の親子関係が投射されるとし、まず刺激動物の選択を試みた。鈴木(1966)は、内外の古典的童話や代表的絵本に登場する動物43種ととりあげ、動物が物語の中でも一定のイメージと、幼児が物語を離れて動物に抱くイメージとの間に関連があるか否かをみた。動物の文脈上のイメージと単独のイメージの間には、一定の明確な関係はないが、後者は比較的共通しているので、我々は鈴木刺激動物を中心として、それらと親との機能的関連を検討する事にする。

手続及び結果:1)対象 幼稚園年長男女児各100名  
2)実験期 1966年11~12月 実験I 3)材料 9×12cmの画用紙に黒サインペンで描いた刺激動物カード53枚。4)方法 刺激動物の好悪を強制分類させる。2試行。5)結果 幼児の動物の好悪は、性差を平滑化してよい。実験II 3)表1より、好性刺激動物リス・燕・キリン・馬・亀、嫌性刺激動物狼・蛇・蜂・蝙蝠・狐を送る。4)刺激動物が父母いずれの感じがするか強制分類させる。2試行。5)嫌性動物は、男女児を問わず、父選択の傾向(男児の蜂は例外)。ii)好性動物は、高序列のリス・燕・キリンは、男女児を問わず、母選択の傾向。低序列の馬・亀は、女兒は母・父選択相拮抗し、男児は逆転。実験III 3)前と同じ。4)幼児に理解できる人格特性として、表3の5対の形容詞を用意、各刺激動物につき、強制的に二者択一させる。2試行。5)嫌性動物は男女児を問わず、強い・怖い・男らしい・意地悪・やば感じを選択する傾向。ii)好性動物は、高序列のリス・燕・キリンは、男女児を問わず、弱い・やさしい・女らしい・親切・いい感じを選択する傾向。低序列の亀は、男女児を問わず、弱い・やさしい・男

らしい・親切・いい感じ、馬の場合は、女兒は亀と同傾向だが、弱い-強いは拮抗し、男児は逆転。(iii)いい感じ-やば感じは、好悪に対応する。

要約及び討論:1)リス・馬・亀・狼は夫々個性があり、同一視テストの刺激動物として適当。2)刺激動物の好悪は、いい感じ-やば感じに対応。3)父・母選択とそのイメージとの関係は、次表のとおり。

	リス	オオカミ	カメ	ウマ
女	やさしい親切 母: 女らしい 弱い	父: 強い 男らしい 怖い 意地悪	母: 親切 やさしい 男らしい 弱い	母: カメと同じ (弱いと除く)
男	同上	父: 同上	父: 同上	父: 同上 強い

4)親イメージの分化過程の図式を仮説する。

(親イメージの原型)

$$\left( \begin{array}{l} \text{母親イメージの} \\ \text{原型} \end{array} \right) - \left( \begin{array}{l} \text{母親イメージの} \\ \text{原型の対極} \end{array} \right) = \left( \begin{array}{l} \text{父親イメージの} \\ \text{第一原型} \end{array} \right)$$

$$\left( \begin{array}{l} \text{原型的母親} \\ \text{イメージ} \end{array} \right) \left( \begin{array}{l} \text{派生的母親} \\ \text{イメージ} \end{array} \right) = \left( \begin{array}{l} \text{父親イメージの} \\ \text{第二原型} \end{array} \right) \left( \begin{array}{l} \text{原型的父親} \\ \text{イメージ} \end{array} \right)$$

(第一派生的父親イメージ) (第二派生的父親イメージ)

表 1

	オオカミ	ヘビ	ハチ	コウモリ	キツネ	ゾウ		
男女児平均	-78.5	-72.75	-71.75	-70.25	-69.5	+76.75		
	イヌ	ネコ	カメ	ウマ	ウサギ	キリン	ツバメ	リス
	+78	+80.5	+80.75	+80.75	+81	+81.75	+83.75	+88.75

表 2

	リス	ツバメ	キリン	ウマ	カメ	キツネ	コウモリ	ハチ	ヘビ	オオカミ	
女	父	8	21	30.5	42.5	4.9	73.5	76	73	81.5	91.5
女	母	9.2	7.9	6.95	57.5	5.1	26.5	2.4	27	18.5	8.5
男	父	20	37.5	26	63.5	66	73	72	53	6.9	8.9
男	母	80	62.5	74	36.5	34	2.7	28	47	31	11

表 3

		強い-弱い	やさしい-こわい	男らしい-女らしい	親切-心悪	いい感じ-やば感じ					
女	リス	17	83	92.5	7.5	9.5	90.5	91.5	8.5	91.5	8.5
	ウマ	47	53	84	16	60.5	39.5	87.5	12.5	85.5	14.5
	カメ	21.5	78.5	83.5	16.5	60	40	86	14	80.5	19.5
男	オオカミ	97.5	2.5	4.5	95.5	95.5	4.5	9	91	9	91
	ハチ	61.5	38.5	29.5	70.5	80.5	19.5	35.5	64.5	2.9	7.1
	リス	16	84	90	10	27	73	91.5	8.5	91.5	8.5
男	ウマ	63.5	36.5	78.5	21.5	73	27	79.5	20.5	7.9	2.1
	カメ	22	78	89.5	10.5	72.5	27.5	86	14	8.9	1.1
	オオカミ	96.5	3.5	5.5	94.5	95.5	4.5	11	8.9	10.5	8.9.5
男	ハチ	61.5	38.5	31	6.9	7.2	28	3.6	6.4	2.9	7.1

注1) 鈴木淑子 1966. 幼児の同一視に関する研究 東京家政大学卒業論文 未公開  
(附記: 本研究は、東京家政大学助手鈴木淑子、同学生北川正子との共同研究の一部)

# 課題解決状況における役割の遂行

— 小集団活動の研究 —

○ 谷口 佐子  
(お茶の水女子大学)

●目的: 課題解決を通して人間関係の発展が望まれる活動では、リーダー(L)は、L・メンバー(M)・課題(P)の関係と総合的にとらえ、発展の方向を見出すことにより、方向性に関して主導的にふるまうことが必要とされる。そこで今回は、その総合把握への1つの手回りとして、集団課題状況におけるM・P間のMのPへのかかわり方を構造化することを目的とする。

●対象および方法: 1年間継続指導(1週=1時間・年間30回)による母子集団活動(幼児・母・L)を構成している母親グループ(母6名・L3名)を対象としている。資料として、テープによる活動記録を用い、その分析と進めながら考察を行はう。

●課題解決とは: 本論文の課題とは、Mから自発的に出てきた日常生活の問題と、集団=全体化ししものである。解決とは、課題として全体化された問題を話しあうことにより、日常生活での具体的なふまわりを集団で作りあげていく過程の結果であり、集団活動の成果としての意味をもっている。

●課題解決過程の典型: 課題は、①課題提出(個から集団へ) ②課題の全体化(集団における共通課題の成立) ③課題展開(課題の一定方向への動き) ④課題解決という段階を通して展開する。1年間の記録から、③→④の過程を分析し、解決過程のク類型を抽出した。

型	内 容	図 式
A	課題をいくつかの段階に分け、その各段階で共通課題にはおから解決へ向う。	
B	課題に肉して各自に成立している課題場面のうち、一つの場面を全体化し、その内容が拡大され、他の場面を包含しおから解決へ向う。	
C	課題と共通の問題点を、含む別の課題を話しあうことにより、解決へ向う。	
D	課題の原理を明らかにしおから、解決へ向う。	

大 梶 優子  
(お茶の水女子大学)

課題を構造化し、明確化することにより、課題の解決へ向う。	
課題に肉して各自の考えを公表することにより、解決とする。	
課題に関する知識を各自に確立させることにより、課題の解決をはかる。	

●典型におけるMの役割遂行の型: 課題解決過程の7つの典型をあげておまじ、今回は、A型・B型・C型に肉して、Mの役割遂行の型を分析する。そのために、各典型をさらに3つの段階(導入・展開・終結)に分け、そのこの活動をまとめると、次の表の如くである。

	A 型	B 型	C 型
導 入	課題の概念的側面を明確化	全体の課題に肉連した各自の課題提出	課題→原理→典型に移調
展 開	課題の現象的側面を集団の課題として深める。	問題の内の1つを拡大し、深める	典型的場面と集団の課題として深める。
終 結	具体的な格し方と考えを。	具体的な格し方と考えを。	典型的場面と課題に移調(おから具体的な格し方考えを)

本論文では、課題解決状況にMがどのようなかかわっているか、役割からとらえる。役割は、社会や集団における地位と関連して考へることもおまじるが、ここでは、「人間の活動に位置づけ、状況における他人の肉体的位置のとりお」と定義する。各段階において成立している役割遂行型の種類は、次の如くである。

- 過去の・現在の・未来的;
  - 対己的・対人的・対物的;
  - 観客的・客観的・補助自的;
  - 一者的・二者的・三者的;
  - 個人的・集団的・総合的;
- (この研究は、松本康平教授の指導のもとに活動している。「児童集団研究会」の協力を得て、行はわれている。) (東浩生; お茶の水女子大学、児童臨床研究室)

# 図形分割テストからみた幼児の思考

○喜田 文子  
(日本大学 文理学部)

小保内 虎夫  
(日本大学 文理学部)

目的：本研究は、知覚に基礎を置く思考を取りあげ、幼少児童が、図形分割テストの遂行に際して、どのような誤答をなすかを通して児童の想像力、思考力の特質を明らかにし、またその発達経路を究明しようとするものである。

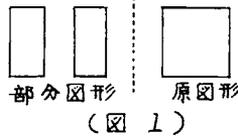
手続：実験材料は、新制田中B式知能検査の下位テスト第3問を図1で示すように、分割の仕方を変え、テスト作業の原則は同一であるが、構成単位図形の位置や数を変えることにより作業の難易度を変化させたもの。(図1cf)

テストの示数は、知能検査に順じた。実験は個別に行ない、試行回数は各図形とも3回にし、それ以後は不能とした。刺激呈示順序は、ランダムなもの(α)、難易度に従うもの(β)の二種。対象は幼児(20名)小1、2年児(81名)特殊児童(10名)精導児(10名)。

結果と考察  
解答された図形を正答の見地から整理し、次のような結果をえた。

図2は、グラフの横軸にテスト図形の困難度を示し、縦軸に通過率を表わしたもので、図には幼児、小1、

2年の通過率が示されている。これによると容易なテスト問題では、年齢を異にする3群とも成功した差が認められているが、困難なテスト問題では差が大きく



なる。今A3並列にあげると、90度に交叉する2矩形から、正方形を構成することは幼児にとって難しい。次にB図形群では、部分図形の数が多くなりこれが問題解決を困難にする。C図形群では、部分図形の数が多くなること、部分図形の構形と三角形を合して矩形を構成するという新しい操作が加わることで、困難にする。いづれの場合でも幼児は現実知覚するものに引きづられ、図形を想像的に転置したり、図形関係を抽象して他に移すことができぬため解決不能に陥る。いまいった思考の働きを同走(identification)と呼ぶことにする。

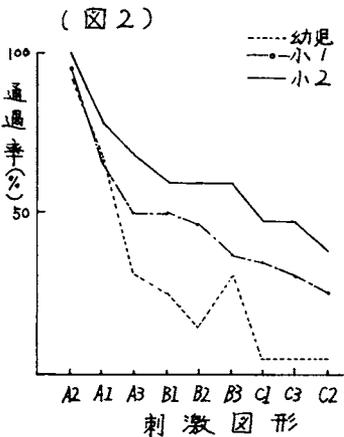
分割する際、部分同走が可能な場合、つまり原図形との共通部分がある時は解決され易い。斜方向の転置は、一般に困難である。また部分図形のうち、面積の大きい図形が早く着目される。試行回数による効果はある程度認められているが、複雑図形Cの場合、幼児にはほとんど認められなかった。

以上の諸傾向は、(β)の実験条件についても同様である。しかし(α)と違い、易より難への順に与えられたため、この条件下では練習効果が現われた。

誤答から思考の発達的特徴をとらえてみると、幼児においては、知覚に左右されること大で、著しく具体的で混然としているが、小2年児にもなると、対象から離れて徐々に図形の持つ意味、役割を抽象する思考が可能になるようである。また幼児にみられた二重境界現象もほとんどみられなくなった。

直接順向再生の効果：誤答の分析からいえることは部分図形の配列、位置などの素材に規定され、その支配から脱皮できない。その結果、部分図形を原図形にそのまま模写してしまう。つまり小保内が順向再生と呼ぶ描き方、およびそれに順ずる描き方が多く検出された。

(連絡先) 武蔵野市吉祥寺2ノ6 小保内



# 線図形の象徴性に関する実験的検討

井田睦美 小保内虎夫 浅井正昭  
(日本大学文理学部) (日本大学文理学部) (日本大学文理学部)

## 目的

従来、線図形の象徴に関する研究は、Lundholm, Poffenberger, Krauss, 松岡武, 小保内虎夫, 古牧節子, 宮崎美轟らにより行われているが、本研究は、SD法作成の手續に従い、線図形のもつ感情表現性を組織的に研究することを目的とする。

## 方法 (実験 1, 2, 3.)

本研究は、3つの実験から成っている。

実験1. 刺激図形の作成。小保内・松岡の「色彩象徴テスト」に使用されている41個の刺激語を被験者に示し、それらのコトバをもっともよく表現すると思う図形を自由に描かせた。被験者は日本大学学生228名。

実験2. 図形へ感情を表わす抽象語共感覚水準に関する実験。実験1で作成された図形を無作為に配列して、41個の刺激語から受ける感じをもっともよく表わすと思われる図形を選択させた。被験者は日本大学男子学生700名、白百合女子大学学生300名、精神病院入院中の分裂病患者50名、計1050名。

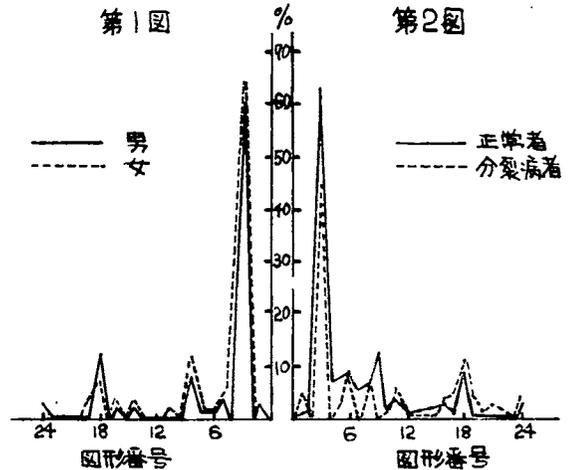
実験3. 実験1において作成された図形がどのような象徴内容をもつかを調査するための自由連想実験。模造紙に刺激図形を墨書し、各図形を60秒ずつ提示し、その間に図形を見て思い浮かぶコトバをいくつでも書かせた。被験者は日本大学学生100名。

## 結果および考察

実験1. 各刺激語に対して被験者が自由に描いた図形の要素を分析して、全体の80%以上の共通性をもつ要素をもとにして、刺激図形、合計24個を作成した。

実験2. 図形へ感情を表わす抽象語共感覚水準に関しては、顕著な男女差は認められなかったが、一般に女子は男子に比べて共感覚水準はステレオタイプを示し、2つの様相間の結合は単純さを示している。分裂病患者と正常者群とを比較しても、両群の間には顕著な差

異は認められなかった。第1, 2図は、刺激語「友情」に対する、正常男女および正常者と分裂病患者間の図形選択の結果を示したグラフである。



実験3. ノーブルの考え方に従えば、各図形に対する連想語数が多いほど、その図形の有意味度が高いと想定される。本実験の結果でも構成要素の複雑な図形ほど象徴性の高い連想語が出現しており、連想語の種類も多い。単純な図形は、図形の形態と連合する反応語が多く現われており、連想語の種類は少ない。

## 結論

本研究を通じて、無意味線図形の象徴性は、被験者間にかぶり高い共通性をもっていることが明らかにされた。正常な男女間には図形とコトバとの間の共感覚水準には顕著な差異は認められなかった。精神分裂病患者と正常者との比較についても同様であるが、分裂病患者は構成要素の同じ図形の場合には複雑な方の図形を選択する傾向が見られた。本実験の結果を従来の諸研究と比較すると結果にはかぶり一致した傾向が窺われた。

(連絡先) 東京都練馬区関町 2の1 199

# 留守家庭児童の問題 I

栄島 和子  
(筑紫女学園短期大学)

目的：ここでは、「両親またはこれにかわる者が、家を離れて働く日数が、1年間に180日以上に達し、ことごと学校から帰宅しても、親の帰宅まで監護する者がいないで放任されている児童」を留守家庭児童とする。「両親が家を離れて働いていても、かわりの者が監護している家庭の児童」は、一般共稼家庭児童として別に扱う。これに対して、「母親が職業にたずさわることなく、家にいる家庭の児童を普通家庭児童と称する。このような意味での留守家庭児童と普通家庭児童とを比較し、心理的な違いがあるのかを見て、留守家庭児童、さらに両親が職業にたずさわっている家庭の児童全般についての問題を分析してゆく予備的資料を得ることを目的とする。

方法：福岡市教育委員会の調査資料で、留守家庭児童が多いとされている福岡市南部N十学校、西部M十学校の5年生全員約380名のうち、留守家庭児童32名と普通家庭児童32名を対象に、田研式不安傾向診断検査(GAT)、集団TAT検査、生活環境診断検査を実施し、そのあと教項目の質問をした。普通家庭児童は、以下の点で留守家庭児童と等質になるように、ひとりずつ対をつくることにより選んだ者である。したがって留守家庭児童群と普通家庭児童群は、以下の点で、ほぼ等質に行っているはずである。①性、②知能③親(年令・教育的水準・父親の職業)、④同胞(教、出生順位)

結果：GAT偏差値、TAT偏差値、生活環境診断検査得点を、主な項目について示す。

GAT偏差値

	学習	知的	孤独	自罰	過敏	身体的	恐怖	衝動	全般
留守家庭児童群	4.5	4.4	4.7	5.1	5.0	4.8	4.5	5.2	48.5
普通家庭児童群	1.6	1.8	1.8	2.0	2.1	2.6	2.0	1.8	15.6
留守家庭児童群	3.8	4.0	4.0	4.9	4.6	3.9	3.6	4.3	45.0
普通家庭児童群	1.9	1.7	1.8	1.0	1.7	1.7	1.5	2.6	9.4

一般(総)不安偏差値の分散は、両群において有意

な差がみられた。(F=2.73, df=31&31, P<0.02) 平均は、留守家庭児童群が普通家庭児童群より大きい。統計的には有意ではない。(t=1.07, df=31&31, 0.4<P<0.6) 下位尺度の平均は、それぞれ留守家庭児童群の方が普通家庭児童群より大きい。

TAT偏差値

	欲 求				領 域			
	権力	愛情	承認	所属	独立	社会	家庭	自己
留守家庭児童群	48.5	50.2	48.1	50.7	50.5	51.3	50.7	46.5
普通家庭児童群	6.2	25.7	7.7	10.3	8.7	10.7	11.2	10.4
留守家庭児童群	47.5	51.9	45.1	48.7	50.1	49.6	51.1	48.6
普通家庭児童群	8.9	36.5	14.9	10.4	10.8	9.7	10.5	9.9

欲求の中では、愛情の項、領域では、家庭と自己の項の偏差値が、留守家庭児童群より普通家庭児童群が高く行っている。

生活環境診断検査得点

	父との関係		母との関係		その他の家族との関係		家庭環境	学習環境
	父との関係	母との関係	父との関係	母との関係	その他の家族との関係	家庭環境	学習環境	
留守家庭児童群	17.8	19.5	15.1	17.8	10.1	17.8	10.1	
普通家庭児童群	5.4	6.5	2.8	5.4	4.4	5.4	4.4	
留守家庭児童群	16.8	19.3	14.6	20.1	11.1	20.1	11.1	
普通家庭児童群	9.3	7.8	6.5	4.4	2.9	4.4	2.9	

家庭環境の項の分散の差は有意ではない。平均の差も有意とは云えない。(t=1.77, df=62, P<0.1)

考察：全体として、両群の間に顕著な差はみられなかったが、留守家庭児童群に望ましく行いと思われる傾向がみられるので、その中で特に望ましく行い傾向ともつ者の、その傾向を生じる要因を分析した。性、年令なども考慮するつもりである。なお、本調査に平行して、一般共稼家庭児童、および両親が家で仕事をしている家庭の児童についても検討をすすめているので、その結果と合わせて、両親が職業にたずさわる家庭において、そのことごと、ことごとどのような心理的影響を与えるのかを見てゆきたい。

(連絡先)福岡市赤坂3-4-35 (75)9086



# 某騒音地区児童の性格傾向について [I]

児玉省(日本女子大学・成徳女子短期大学)

藤井孝子・坪井美知子・水野恵美子・有藤孝子

(日本女子大学)

**目的:** 飛行機発着の騒音下にさらされている東京都下某地区(A)の児童をとりあげ、その騒音が児童の心理にいかなる影響を与えているか検討しようとして一昨年より5年の計画で発足した研究のオニ年目の報告である。

**研究方法と経過:** A地区小学3・6年(各67名)、中学2年(40名)、対照地区(B)の同一学年を同数とりあげた。オニ年度の基本調査により身体的・知能的面はほぼ標準、環境面は低所得者家庭が多く、かぎっ子が42%。仮説として、もし騒音の影響があるとすれば性格、特に情緒的な面: 作業及び学習、感覚特に聴覚的機能などに表われることの可能性を想定し、オニ年度においては問題の存在につき、なんらかの手ばかりを得ることを目的として、手近に行いうる調査実験の方法をできるだけ多く実施した。

**オニ年度結果:** 内田クレペリン検査では高学年女子の作業量が少ない。握力検査では連続8回施行の方法をとって根気強さ、忍耐力などの面をとらえようとしたが、8回前に放棄者が多く、且つ全力傾倒しない非努力型も多かつた。迷路検査では作製した問題が難しすぎた為、はっきりした結果が得られなかった。語量連想検査では情緒的な反応語が多く並びに願望を表明することばかりが多かつた。情緒不安検査(児玉がMPIIからTaylorの不安検査などを参照して作製した2項選択型)では高学年に對人・自己不安・攻撃の面をコントロール群(B地区)との間に有意差がみられ、対象児童の不安感情・攻撃性がコントロール児童より高いことが見い出され、特に男児童に對人不安が高かつた。

**オニ年度の研究目標:** 一年度の研究からは対象児童が情緒的に不安度が高いことが示されたわけであるがこの不安がなんによるかを確かめるために、オニ年度においては(1)児童の生活環境、とくに家庭環境を調べ、対象地区(A)とコントロール地区(B)の家庭環境の比較を行い、その上になつて(2)情緒不安検査(3)児童の性格像の分析

を深めるために対象児童のロフテラ・ソウ性格検査(4)各種音響条件下における学習作業実験、(5)対象・コントロール児童3年の聴力検査を行った。

**結果:** (1)情緒不安検査

(表)各内容別有意差のみみられる項目数  
(Area: B地区6年の男・女別) 初年度・2年度の比較

年度	不 安 感									
	自己	身体	対人	自然	家庭	社会	合計	攻撃性	合計	B地区6年の方が高い項目数
小学3年	1	1	1	1	1	1	2	1	3	
小学6年	2	2	1	1	1	1	5	1	6	
中学2年	3	1	1	1	1	1	4	3	7	1
小学3年	5	2	2	3	2	1	15	13	28	
小学6年	1	1	1	1	1	1	3	2	5	1
中学2年	1	1	1	1	1	1	1	9	10	
小学3年	2	1	1	1	1	1	4	6	10	1
小学6年	1	2	1	1	1	1	4	3	7	
小学3年	1	1	1	1	1	1	2	1	5	3
小学6年	1	1	1	1	1	1	4	2	5	

(1) A地区3年対6年の比較では3年の方が6年より不安傾向が高い(特に自然不安)。(2) 攻撃性では3年女子が6年女子より高い。(3) A地区6年対B地区(コントロール)6年の比較(表I)では初年度とオニ年度を比較してみると不安・攻撃性共にその項目数が減っている。(4) 初年度の研究ではB地区には不安傾向は余りみられなかったがオニ年度の結果では少数項目ではあるが不安傾向があらわれている。つまり両地区の差が縮まってきている。(5) 中学を年度別比較するとかわりではあるが攻撃性・自己不安にオニ年度では有意差のある項目数が増加している。初年度にみられなかったものが不安傾向の展開のようにみえる。以上のべたことか(6) A地区の低学年及び中学生に初年度では不安傾向がみられなかったことから6年くらいになつて堆積的に不安が展開するものとし、中学ではfrustration-toleranceが展開する可能性があること仮説をたててみたが、いづれもこの点が確認されむしろ逆に小学3年にすでにかなりの不安・攻撃性が表われている可能性があることを示し、又中学生においてもトランスは展開しないので小学期以後、依然不安・攻撃傾向の継続していることを思わせるものがある。(連絡先: 児玉省)

# 某騒音地区児童の性格傾向について [II]

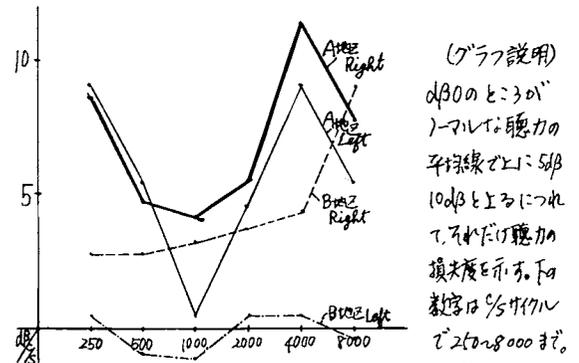
Ⅲ)ロールシャッハ検査結果:(A地区児童29名)反応内容や感情分析から、かなり不安・攻撃的傾向が濃厚である。内容では「ジェット機が火を吹いている」「怪獣が火を高く高く飛んで飛んでいる」等の例がみられ、その他「オモリあげ羽球等の反応頻度が高い。これらの反応は普通地域では航空機と結びつくとは限らないが、この地域では航空機に結びついていることが明らかであった。又これらの反応に於て愛憎感情で感情的態度を質問して、これに感情的にAnxiety, Hostility, Unpleasantnessなどを含まれていることが明らかになった。又これらの不愉快な感情内容のもの、これ以外の感情内容のものに比べ高頻度で出現しているところから、ロールテストを通じて対象児の性格像は普通地域児童よりも感情的に不安・攻撃性を多く包蔵している可能性が考えられる。対象児を増加して検討したい。これ以外の反応で特徴的なものは樹木・山・川・水などのコネクトが多いが、これは対象地区の周辺の自然を反映したものである。

Ⅳ)各種音響条件下における学習実験:騒音下の教室の児童がどのような影響を受けているかを2回の実験によって確かめることは可能であるが、航空機騒音や他の騒音・音楽と比べて、いかなる影響を与える可能性があるかを考察する為実験を行った。

ジェット機騒音(100%)+音楽(100%)+空白(100%)+ジェット機(100%)  
 車・トラックの音(100%)+空白(100%)+音楽(100%)+音響(100%)  
 建築工事(100%)+トラックの音(100%)+空白(100%)+音響(100%)  
 などの組合せのテープを制作し、これをステレオで再生し、各音響下で田中式、DATの筆記作業、WISCの類似・符号問題等を4クラス児童に教室で別々に実施した。

実験結果:学習平均成績は空白時間短く可なり、騒音の影響が消えぬうちに次の作業が開始される、可能性極めて判定し難いため、明らかになったことは(1)ジェット機騒音下の成績が他の騒音及び空白音楽下における成績より上廻った。(2)3年生の問題6年生の問題でその平均成績はX<sup>2</sup>で5%の有意差、(3)静かな音楽下でさえジェット機騒音下より能率が低かった。(4)日常慣れている騒音が学習能率を下げないどころか、むしろこれ以外の音の方が学習能率を下げたことになった。アンケートの結果からも音が気にならない学習はやり易かった、が圧倒的であった。(5)航空機騒音が子供に於て一種の中毒症状的な結果を生じさせているのではないかと考えられた。

Ⅴ)聴力検査:A・B両地区小学生3年児童各15名(計30名)リオンのAA27型聴力計で検査した。



グラフから次の推定が可能である。(1)A地区児童はB地区児童に比べて聴力損失が大きい。聴力損失は平均値において1000%, 8000%を除く全サイケルでA地区児童が高く最大7.0dB (R.5.3dB, L.1.0dB) 4000%。(2)中央値では全サイケルにわたってA地区の児童が高く最大7.8dB (R.7.0dB, L.8.6dB) 4000%。(3)4000% R.1:X<sup>2</sup>で5%, 4000% L., 2000% L.でX<sup>2</sup>, 10%で有意差があり、A地区児童の聴力損失dBが高い。(3)両地区の個人別聴力損失型を比較すると、R.L.共に騒音による聴力損失型(4000%において聴力損失dBが大きくなり、この点でV字型を示す)がB地区にも3.4例みられるがA地区においては左・右共に15例中1/2~3/5の者に認められる。(4)これが直ちに航空機騒音による聴力障害であるといえなくても航空機騒音下の児童に損失者発生率が高い可能性を認めることが適当である。(5)難聴はdB 20以上の損失からになっているが、このグラフでは高聴低聴のところから難聴のスタートする典型的な傾向ではないかということである。

総括: [I]情緒不安検査:不安傾向は小学3年ですでに表われてきている。A地区6年とB地区6年の差は一年目と比べ縮まってきた。中学においては一年目にくらべA地区とB地区との差がでてきた。Ⅴ)ロールシャッハ検査:航空機と関連づけられるような反応がみられ、Anxiety 的な方法で見られるように、微妙な不安傾向があらわされた。Ⅵ)各種音響条件下における学習作業実験:航空機騒音に於ける一種の中毒症状がみられた。Ⅶ)聴力検査:航空機騒音によると思われる聴力障害発生傾向がみられた。

連絡先 児玉渚

# 認識と行爲の關係の一研究

清水 幸子  
(お茶の水女子大学)

立場は個人間の關係的存在であり、個人も集團も關係における個人であり集團である。従つて個人が望ましい發展をすることを、個人において自分自身を伸ばすことであると同時に、個人と他人との關係をも伸ばしていくことを意味していなければならぬ。集團の成員としての個人は成立してゐる關係の担ひ手であり、各個人は關係経験を共有し得る。また、この關係体験は、それぞれの成員によつて異なり落差がある。この落差が、個人間關係における緊張をしばしば生じさせる。關係の担ひ手によつて相互に關係を發展、變化させることができないれば、この關係は崩壊したり、停滞したりする。また、集團における特定の成員が脱離することによつて、集團の緊張が高められることもしばしばある。このような時には、脱離した成員が關係に参加して、他の成員と共に關係を發展させる担ひ手となることが望ましい。人間關係の變化、發展の法則として關係弁証法を考へてゐる。このような望ましい關係認識、關係体験が成立してゐないところに、神経症の問題、偏見の問題、固定的認識の問題をとも生じてくると考へられる。本研究の立場から「神経症」について認識と行爲の關係を述べれば、主として、心理的葛藤における、その個人の認識と行爲が協調的に機能しなれない不一致の状態として捉えられ、「偏見」については、變化可能な新しい状況に即しての認識と行爲が不可能で、ある階層的構元によつてつくられるかたよつた固定的認識と行爲の問題として捉えることが出来る。また、神経症について、これを偏見との關係で述べれば、主として、偏見が、新しい状況において機能可能な場合にみられる不安の問題として捉えることが出来る。

目的は個人間關係における、認識と行爲の關係について研究を行なう。個人が變化し集團も變化すると同時に、個人と集團の關係も變化する。この關係の動向における法則をみいだすことが最大の目的であり、個人

と集團が、この關係状況にどのように規定され變動していくかを、個人と集團の特殊な關係状況において把握しようとする。

方法 小学四年生95名、六年生77名、中学二年生96名、三年生99名、高校二年生100名を対象に質問紙法を実施。用意した状況は全部で六つであり、各々の状況における集團成員に関して、個人の側からの認識と行爲について、集團の側からの認識と行爲についての課題をどのように解決していくかを、選択回答して貰う。

結果と考察 各々の状況について、關係弁証法的立場からの望ましい認識と行爲の關係を捉えて、これを中心に考察を可めた。

状況の特徴によつて解答の傾向は變化してあり、個人差と共に、状況間の相違も出ている。個人優位の状況と集團優位の状況を比較すると、前者においての方が望ましい解答が多くなつてゐる。また、各個人についていくと、集團優位の認識をしてゐるものの方が、個人優位の認識をしてゐるものよりも、全体に關係弁証法的立場から望ましい行爲を示してゐる。さらに結果を個人において捉えてみると、自己肯定的や他者肯定的認識中、逆に自己肯定的や他者肯定的認識を有するものが比較してみれば、全体的には前者の認識を有するものの方が後者より多くみられる。また、これを行爲との關係でみると、前者の認識を示したものの方に望ましい行爲を選択したものが多かつた。状況間を比べると、全体に望ましい認識と行爲の成立してゐるもの、解答が固定的なもの、状況間でも答へ方がまちまちで不安定なものをどのくらいの結果を示してゐる。望ましい解答数の学年差は小学生が高学年の方に、關係弁証法的立場から望ましい解答が多かつた。男女を比較すると女の方が望ましい解答を示したものが全体に多かつた。

(連絡先：鹿児島市清水町133 泉取員住宅一号)

# PersonalityのFactorsに関する研究

湯永重次  
(埼玉大学)

I 目的—本研究ではPersonalityのFactorsのうち 1)体格、2)個人の名前、3)理想の3要素について研究するものである。

II 方法—この研究を行うに当り、著者は、研究対象として、Personalityの発達として最も重要な年齢であり、かつego意識の最も新しい年齢に当る15才(中学3年)、17才(高校2年)及び19才(大学1年)の男女学生、生徒を以て、この研究に用いた。同時に著者は、著者の事例研究より、この統計的研究を吟味した。

III 結果—I 研究対象—与野市立東中学校3年(260人)、与野市立南中学校3年(173人)、浦和市立高筆学校2年(470人)、盛岡市立高筆学校2年(243人)、弘前大学1年(97人)、山形大学1年(20人)、埼玉大学1年(40人)、島根大学1年(82人) 2時期—1966年4月

3 検査用具—PF INVESTIGATION(REVISED TEST)Pは4項目48問から成り、体格、特におい体格、身体的魅力、身体的欠陥及び服装のPersonalityの発達への影響について調査するものである。PF INVESTIGATION(REVISED TEST)Nは3項目23問から成り、名前がPersonalityの発達に影響することについて調査するものである。特におい名前の、好ましい名前、名前への反応を調査する。PF INVESTIGATION(REVISED TEST)Iは、少年少女のPersonalityの重要要素としての理想を調査するものである。4 調査結果—体格(PHYSIQUE)—おい体格—PF調査(改訂検査)Pを中学3年生(男女)及び高校2年生(男女)に実施したところ、中学生の37.2%、高校生46.5%が自分の体格をよいと考えている。体格のよいという理由として、(1)身長は平均より少々高い、(2)体重は身長に比べて、(3)身長と体重との間も普通である、(4)健康であるなどをあげている。これに反し、中学生の62.7%、高校生の53.4%が自分の体格を悪いと考えている。その悪いと考えている理由として、(1)極端に身長が高い、(2)極端に痩せている、(3)背が低く、ずんぐりしている、(4)不健康であるなどをあげている。—身体的魅力—自分はPhysical attractivenessを持っていると考えている中学生及び高校生は、その理由として、(1)健康である、(2)体力がある、(3)体全体が用心深い、(4)歯がきれいである、(5)髪がきれいである、(6)用心深く咳をするなどをあげており、自分は身体的魅力を持っていないと考えている中学生及び高校生は、その理由として、(1)脚が短い、(2)脚が肥って大きい、(3)口や唇が大きい、(4)歯の並びが悪い、(5)ひどく明るい顔つやなどをあげている。—身体的欠陥—この年齢の少年少女が最も困らせているphysical defectsは、(1)目がよく見えな、(2)疲れやすい、(3)筋肉のけいれん、(4)悪臭のある息をするなどをあげている。—服装—少数のものが服装や髪に注意していない。そしてそれと「いや」だと思っている。それが高校生になると、「いや」と思うことが一層多くなる。

IV 考察—おい体格、悪い体格—少年少女の体格、特におい体格の大きさと身体的魅力は、少年少女に対する他人の反応に影響し、それによって少年少女の自我への態度、即ち少年少女の行動に影響する。例として体の小さい少年は、よい体格を持った少年より、いつか彼を抜いてやうける。このような取扱いは、彼の自我感を傷つける。著者は、著者のPF調査の結果から、魅力的な行動を作り出す理想的な身体特性の目録と個体とつて何がなるような身体的特性の目録を作成することが可能である。

(連絡先) 埼玉県与野市中里町31

## 調息調心に関する心理学的研究(73)

## 禅とカウンセリングの心理学的研究(4)

古賀良子

(九州大学文学部)

悟りは認識体系の転回だと言われる。参師問法はこの悟りへ導くクライアント—セラピストのカウンセリング関係であり、知覚領域の再構成を指向するという点で、Rogersらと一致するものをもつ。個人の世界にとって自己は最も重要な部分を占めるものの一つであり、従って自己知覚のあり方は、そのパーソナリティのあらゆる行動に対して重要な位置を占めると考えられる。この自己知覚のあり方という点から、いわゆる建設的な人格の変容と、禅において起るものとは比較研究して行くことができればいい。

1961.62年、高良らによって坐禅修行者の自己意識の評価の分析を通して、その人格適応性の側面の検討がなされた。自己の行動は、意識的自画像によって導かれるが、この意識的自己在行動のガイドとしての役割を健全に果たするためにはその主体的内面的側面それ自体に矛盾がなく統合性を持っている必要がある。高良らはこのような自己意識の状態を測定する一尺度として、内省による現実的自己(perceived-self)と、理想的自己(ideal-self)の評価テストを採用し、もし個人の現実的行動面での適応がうまくいっていれば、その両評価間の矛盾や隔りは少ないであろうという斎藤の説を前提として、接心前後の変化を含めて検討した。接心前後の比較は非常に有効であるけれども、IS(理想的自己)とPS(現実的自己)との関係は、葛藤の存在による適応を云々することと同様に、一義的なものではない。両者の隔りと共にその位置が問題になってくるであろう。例えばISとPSとの差に関して、大、小、一致と分類されるにしても、それらがどこに位置しているかによって、差が大きても望ましい場合、差が小さくても望まざる無気力を示す場合も考えられる。また、他人による評価と組合せを考察することによって差の質やその人の自己評価の過大あるいは過小傾向を知ることができ、パーソナリティ

の特徴を把握するのに役立つであろう。さらに、ISに示される要求の質や水準が問題になれば、itemの検討も必要とされてくる。

高良らのデータによると、参禅者群の接心前のテストでは、 $S_1 \sim S_2$ の結合型が20.9%で最も多く、対照群及び斎藤による正常人のデータと同じ傾向をもつのに、接心後では $S_1 \sim S_2$ 型が10.4%から21.3%と増加して最も多く、特徴的である。このような中庸水準へ集中する傾向は、禅における覚者の像が“愚者のごとく”あることをあわせると、itemが日常的なものであるれば当然考えられることである。従って、一般に中庸水準にある場合とは多少意味が違う場合も考えられる。一般人の場合、諦らめや無気力の介入も考えられるが、禅の場合は、さまざまな世俗的な効能を自分の身につけることに無関心になるということが考えられる。つまり、自己を有能な魅力的な存在として評価しようとする傾向や、そのような価値に向って自己を開放してこうとする欲求から解放されていくことが考えられる。従って、item次第によっては禅者のISとPSが中庸水準に落着かず、両者の差が大きくなりしかもPSが下方に位置づけられることも十分予測されるのである。以上より、接心後の中庸段階への移行を、接心に参加することによって指向された理想と現実との一体化の反映と一義的に解釈するだけでは問題が残る。これを解決する一方法として、われわれは、Y-女性格テストやPFスタテ、ロールシャッハテストなどを利用して、自己知覚という点からの一般的な人間行動に関する研究を行うとともに、禅における悟り及び悟った人の意識に関する事例史及び理論、禅の理想などの研究から、今(1)の尺度を作る必要があると考える。なお、この作業を遂げることには、禅師によって記述されている二元的思考の超越、その対象知覚の具体的な姿をとらえることに留意したい。

# 調息調心に関する心理学的研究(74)

## 信と行に関する心理学的研究(4)

川 島 啓 子

(九州大学 文学部)

禪における人格の変容ないしその統一、高度な精神療法とみなして、それを、その信仰、即ち人格的完成への欲求と、それに基づく修行との関係を通して、そこに働く諸要因を明らかにしようとしてきた。

これ迄、禪、ヨガ、仙道、自律訓練法、分割的能動的催眠法、森田療法などの、精神療法ないし高次のそれとみなされる一連のものを比較検討してみると、そこには共通した2要因が認められる。即ち、1、いずれも、人格の向上又は健康を旨として修行、訓練、作業などの、ある時間を要する遂行過程を持ち、その過程を経て、人間の統一が得られると考えられる。2、そこには、積極的ないし消極的集中という心的要因が働いている。ここに於て、禪の特徴である積極的集中に注目した。

そこで、これ迄の実際的研究をふりかえって、その問題点をとり出し、今後の具体的研究方向を定めるに、筆者は、これまで主として3つの実験を行なった。1は、細字書を用いて、それを心身相関的観察から、呼吸とH.T.Eとその指標として実験した。これは、観息禅の一種と考えられる。これを心理的側面から見ると、細字書は非常にactiveな注意集中を要するけれども、又かなりの訓練が必要と思われる。従って当実験の場合、約1ヶ月間練習した時、期待される結果はなかった。この種の実験は、内容的にかなり複雑であり、条件のコントロールも困難である。2、同じ観察点はあるが、内観を主題として、言語暗示と、身体的成長との関係を見た。方法としては、自律訓練法の最終段階の“腕が重い”を使った。この場合、公式へのpassiveな注意集中を要するが、又、これだけではあまりに不協的な心身関係をみる事が問題となる。3、催眠により—即ち、被験者は非常にpassiveな態度をとることになる—修行の内容をかなり簡潔にして、それが暗示として与えた時、その時々の影響が、生理的

に現われるか否か、血量を指標として実験した。

以上の実験研究を総合してみると、activeな構えを持っていても、その対象が適切でないもの、passiveな構えであって、その心身関係をあまりに不協的に求めているもの、passiveな構えであって、しかも対象があまり適切でないものという不備な欠かす指摘される。そこで、最初に対した禪に、禪における人格の変容の問題として、それを信と行の関係に於てとらえようとする場合、activeな構えを持って、しかも対象が適切で、かなりの期間継続して実験できるものを設定する必要がある。

ここで禪の場合について考えると、ここではやはり悟りが一番問題となる。その正体は、実際に悟った人にしかわからない。わからぬままに、修行者はそれへの強い願望を持って、それを求めて坐するのである。そこで悟りへの動機を与えるものとして一般に用いられるのが看話禅では公案である。公案は修行者と精神の葛藤状態に陥らせる。その解明に没頭している。いわゆる三昧の境地が、悟りに達する適切な状態を与えるのである。こうして行は信を強直し、更に信は行を強化する。一方、黙照禅では、疑念がそれに対応する。しかしそれは禪に依らぬ。例えは、念仏宗、修験道などにあつても、それらの行における三昧の境地は、禪の場合と同じ効果をもたらす。しかしこの場合公案を用いるのには非常に特殊な、その公案は一般性があり、方法的に分類されている。

そこで前の問題にかえって、被験者は積極的な集中態度をとらせる様な対象を考える際、上にあげた公案や石崖禪の公案観を利用する事も考えられる。これに適した公案は、矛盾法、投送法—つまり、一時的に論理活動や概念活動を遮断するものであろう。ここでは当然、被験者の態度のコントロールが大きな意味を持つ。

# 調息調心に関する心理学的研究(75)

## 情意機能の心理学的研究(12)

池上 龍太郎  
(九州大学 文学部)

これまで禪の姿勢的要因を解明するため、とくに同一姿勢の保持における生理心理的諸変化について検討してきた。本実験においては、視的注意集中及び姿勢の差異の効果を代謝の測定を通して検討するとともに、これまでの実験の結果と併せて、行的要因である姿勢の統制とそれにより生じる意識状態の解明を行うためになされたものである。

方法: 実験Ⅰ. 被験者(男子大学生5名)は、(Ⅰ)5分間静かに坐位(あぐら座)したのち代謝が測定された(平静時代謝), 引続いて一桌凝視するように教示され10分後に再び代謝が測定され(注意集中時代謝), 測定中も凝視は続けられた、(Ⅱ)一桌凝視と平静時の測定順序を逆転させる、の2条件をそれぞれ別の日に行うよう指示された。実験Ⅱ. 被験者(男子大学院学生4名)は、30分間仰臥安静したのち代謝が測定され、引続いて30分間半跏趺坐、及びあぐらの各姿勢をとり、開始5分後、及び開始30分後の2度にわたって代謝が測定された。各被験者は、各姿勢の条件を一日一回交互にそれぞれ3回づつ計6回行い、得られた3回の平均値を代表値とした。これらの条件は、基礎代謝を測定すると同様に早朝(8時~10時)におこなわれ、被験者は朝食抜きで実験に参加した。なお、温度調節のためエアコンディショナーが使用され、室温は一定に保たれた。

両実験ともに、フクダ式基礎代謝測定器により代謝が測定され、各条件の測定時間は約5分間で、分時酸素消費量の比較に基づいて検討がなされた。得られた結果は、実験Ⅰにおいて、初めに測定された代謝量を1とした比率で各条件における増減が検討され、実験Ⅱでは、仰臥安静後の代謝を1として、各姿勢の諸変化が検討された。

結果: 表Ⅰは、実験Ⅰにおける5名の平均値を示したものであり、条件Ⅰ、Ⅱともに1%水準で有意であ

る。これによれば、代謝は条件試行の順に減少しているが、条件Ⅰの減少が大なるため、注意集中時に代謝が減少しているといえる。この実争はこれまでの実験の結果より得られた、構え(注意集中)を取る方が重心の変動が少ないという争突と考え合せると興味深い。

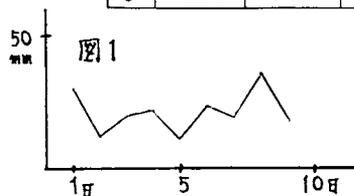
実験Ⅱでは、全般的にあぐら、半跏趺坐ともに、仰臥安静時の代謝に比してその値が大きい。また、あぐら座では代謝は時間的経過とともに有意に減少しており( $P < .01$ )、半跏趺坐では時間の経過に伴う変化はみられていない(表Ⅱ)。これらの相違は、姿勢の差異による効果と考えられるが、同一被験者による重心の変化は8日間にわたる連続測定においても必ずしも一定の傾向を示していない(図1)、とりわけ被験者の条件に対する心的構えの強化により重心の変動が減少することからしても、半跏趺坐という姿勢そのものが、上記の問題に何らかの役割を演じていることが予測される。この実争は更に総合的に検討する必要がある。

表Ⅰ

	平静時	注意集中
条件Ⅰ	1.00	0.85
条件Ⅱ	0.96	1.00

表Ⅱ

Ss	あぐら		半跏趺坐	
	5分後	30分後	5分後	30分後
A	1.09	1.02	1.08	1.07
B	1.21	1.11	1.08	1.10
C	1.05	0.96	1.00	0.89
D	1.11	1.02	1.11	1.06



# 調息・調心に関する心理学的研究(76) 精神統御に関する心理学的研究(16)

山岡 哲雄  
(九州大学)

I. 坐禅中の脳電図については、すでに笠松(1959)、平井(1960)らにより、これが、 $\alpha$ 波を中心とする徐波化高電圧化の傾向を有することが明らかにされてくるが、その心的状態の解釈については、かれらも、これを脳電図の一般的知見から推して、大脳皮質の興奮水準の低下による意識機能の低下と示すと考えた。

これに対し、著者は、禅における行の要路の分析と、この行の要路にもとづく意識機能の変化を種々の様式の注意集中という心的構入の統制と、筋緊張、呼吸の調整という身体的統制の面から検討し、これによって脳電図がどのように変化するのか、またおしく、坐禅における行の主要因が、内的注意の集中であり、これによって意識に特殊な変化が起すること明らかにした。

今回は、この禅において生ずる特殊な意識状態について、I, II, IIIの考察を行う。

II. これまでの研究において、特に注目すべき点は、この内的注意の集中が、多くの遂行過程の円に見出されること、これら遂行過程において、その継続時間の延長(持続)、同一遂行過程の反復によって、内的注意の効果が大きくなり、且、容易となること、即ち、意識的行動から無意識的、自発的行動へと推移するとともに、脳電図においては、 $\alpha$ 波の増大が観察されることである。

このプロセスを、呼吸の統制について観察すると、図1-a-bの通りである。これは、呼吸を呼気・吸気・停止の3時相に分け、この時間比を同一に規則化する課題を反復して行う場合、呼吸の比率は、反復の後期ほど規則化し、脳電図の波も、同一継続時間の後期、反復の後期に至るほど、その出現率を増大せしめることが分った。

視的注意の集中において、脳電図の波は、同様の傾向を示すが、10分間の視的注意集中の前後のフリッカー反応値は、表1の通りであり、統計的有意性は、

有しなすが、集中前に比し、後には、その値は高まる傾向を示した。

一オ これら注意集中実験に用いられた被験者の内、同年6月から'66年9月までの2年間、特に多くの注意集中実験に用いられた3名の男子大学生の2年間の閉眼安静時脳電図の波の出現率の推移は、図2に示した通りであるが、3名の被験者は共通して、閉眼時 $\alpha$ 波の一時減少と、その後の作踏的増大を示した。これは、脳電図の波の不安定性か、長期的集中によるものと考えうるが、他の被験者に2つの例の観察されなかったことから、後者である可能性が大きい。

III. これらの傾向が、意識のいかなる特殊性を示すかについては、今後の研究に待たねばならぬが、広く稀薄な意識野と、注意集中による狭く濃厚な意識野を対置することにより、上述の特殊な意識状態は、意識野の狭まるに依るものと考えられる状態であり、究極的には、意識と、無意識を越えた状態へ至るプロセスであることを示唆される。

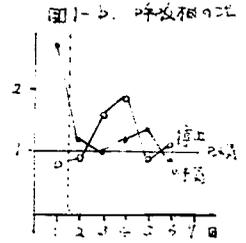
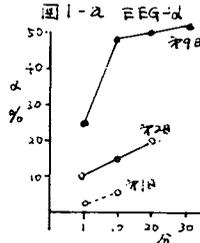
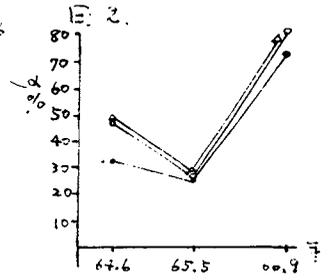


表1 フリッカー値  $T=0.76$

試	前	後
I	40.3	41.3
II	42.3	43.1
III	41.5	40.5
IV	30.5	40.2
V	38.0	40.0
VI	47.0	42.3



# ESPと生理周期との関係について

長田一臣  
(日本体育大学)

大谷宗司  
(防衛大学校)

目的：ESP値の変動と身体的変化との間に関係があるのか、ないのか、もしあるとすれば「どのような」組み合わせにあるのか、「月経」(MENSES)と「基礎体温」(Basal Body Temperature B.B.T)とを指標としてこの間の対応関係をさぐる。

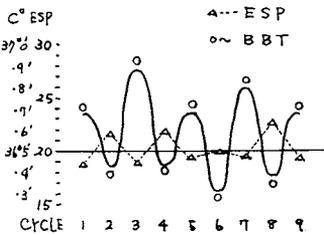
## 実験

- (1)期日：1966年11月～1967年7月
- (2)用具：ESPカード2組、婦人体温計1個
- (3)対象：MK(20 Unmarried)～BBTとESP  
YO(28 married)～MENSESとESP
- (4)場所：自宅
- (5)手続：1)テストの形式は4-run 2)テストは毎日/同一時刻に実施する 3)テストの方法はシャッフルして裏向きに重ねられたカードをDT法で推察して答えを記入してゆく(時間の制限はしない)。4)BBTは、運動、飲食、精神感動など体温に影響する因子がわからない時、語り毎朝覚醒時に床中において婦人体温計を用い口腔検温する。5)月経については開始から終了迄をマーク併せて心身状況を記入しておく。

## 結果

[I] BBTとESPの関係 (Fig. I)

### BBTとESP



という中心の体温をも示している。両者の関係は図にみられるように浮象的な変替現象を示した。即ち、BBTが高まったとき(高温期という)にはESP値がチャンスと下廻り、BBTが低くなったとき(低温期)

Fig. Iにおいて、20の線はESPカードによるテスト試行100回における確率出現数を示すと同時に婦人体温計の0V目盛(摂氏/度の間を20等分して読み易く刻まれた排卵指示目盛)の20(36.5°C)

にはESP値がチャンスを上廻るという現象がみられたのである。(本実験はまだ継続中で、その後の周期においてもこの関係は依然として保たれている)  
(註)高温期とは0V目盛24(36.7°C)以上を指すか何人差があり被験者は20以上と主張したか24に拠った。

## [II] MENSESとESPの関係

(Fig. 2)

被験者における月経期間は5日間で、平均21.6日の間隔で極めて規則的に周期をくり返した。Fig. 2は7回にわたる月経期間の平均曲線である。図は平均相を示すものであるが、各々の期間におけるESP値の傾向もこの平均相

から余り脱逸していない。つまり、こゝにみられる相は被験者の月経期間におけるパターンと考えてよい。

被験者は月経前には非常に心身違和に見舞われるのが常で精神的に極なウツ状態に陥入ることが多い。月経開始と共にそれは消失し徐々に平安を取り戻す。1日、2日は強い睡気におそわれるのが常態である。但しこの時期はESP値がFair successを感ずるか又はそれに近い値を出すことが多い。

## 考察

ESPという人間の無形の感覚と最も原始性を保有する生殖という物体的機能にまつリズムとの間に、この実験を通して何らかの組み合わせらしきもの一端をかいま見えたことは興味あることであつた。

BBTについては高温期は不安定相で低温期は安定相とする研究(新潟大学藤氏)があり、精神健康度が高温期には不調となり低温期には好調になるという研究(女子系大堀井氏)やその他の諸研究の結果と合わせてかなり積極的な示唆を与えるようにおもわれる。尚個人差が考えられるので更に研究してゆきたい。(連絡先)東京都世田谷区豪徳寺2-14-10-145 長田

# 残像を Target とした ESP 実験

大谷 宗司

(防衛大学校)

目的: ESP 実験において用いられる Target を大きく分けると、物理的対象と心理的内容となる。前者の場合は clairvoyance、後者は telepathy として操作的に区別される。本実験においては、ESP の Target として、心的内容ではあるが感覚的経験を伴ったものを用い、その効果と心的内容と物理的対象の存在する場合 (GESP 条件) とを比較しようとした。

方法: 実験者と被験者とは同室に位置し、両者の間に衝立を置く。衝立中央にはトレーシング・ペーパーを張った窓がある。(これを通して相手の側と見ることは不可能) 被験者に対して次の様な指示が与えられる。「実験者は agent となり、衝立中央のスクリーンに或図形を心的に project しようとして、project の開始時に合図をしますから、すぐスクリーンを見て、その図形の形と色とが何であるかを guess して記録用紙に記入して下さい」 Target としては形と色とが用いられるが、形は □ と ⊞ の短冊型、色は赤と緑とあり、1つの図形は一つの形と一つの色を持つ。これらは random な順序で Target とされる。Target の順序は、実験者と独立に助手によって乱数表をもとに準備される。1 run: 20 trials, 1 session: 2 runs, 1 series: 4 sessions, 被験者4名。実験順序: ラテン方格法。実験者は色紙(赤及び緑)を巾 1 cm, 長さ 4 cm に切り白色の台紙に貼ったものを補助とする。各色共2組作り、1つを縦、他は横にして用いる。実験者は、被験者に合図をする前約 30 秒、図形を見続け、合図と共にスクリーンに視線を移す。即ち被験者の guess の間残像を見ている。(AI 条件)更に、合図した後も図形を見続ける (I 条件) を加え、両者は又 random に用いる。この 2 条件は被験者には教えない。

結果: 次表に見るように、残像を Target にした場合に“色”に、実験者が実際の図形を見ている場合においては“形”に適中が集中している。(形について

I, AI 間の差は  $CR_d: 2.29, P: .021$ ) 特に被験者 D 及び K2 に於てはこの傾向が著しく、I, AI 各条件内における形-色の適中率の差は有意である。(CR<sub>d</sub>: 3.146, P: .0016; CR<sub>d</sub>: 2.584, P: .0097)

Condition \ Subject		D	K2	M	Ka	Tot	Dev.
AI	Shape	30	36	41	40	147	-13
	Color	45	49	37	43	174	+14
I	Shape	45	47	48	36	176	+16
	Color	38	31	39	42	150	-10

考察: ESP 実験においては、単なる心的内容を Target とした場合 (pure telepathy) でも ESP 効果が存在することが報告されている。clairvoyance 条件と、telepathy 条件による ESP 効果の差異については、一致した知見が得られていない。又、Target として、意味を持つ言葉を用いても ESP 効果が検出されている。本実験においては、GESP 条件と、客観的対象は欠くが感覚的興奮が agent の内部に存在する条件の間の差異を見ようとしたのであるが、ここに得られた結果はその解釈を困難にするものである。又、実験の操作の上では、例えば、被験者が guess をしている時に、agent 側に存在するものが残像であると仮定しているが、ESP には displacement の事実が存在し、被験者がどの Target に自己の ESP 能力を向けようか不定であり、又、被験者が ESP impression を受容した時期が Target の提示の時期と一致しているか否かの保証はない。従って、この実験で意図したことが、実験操作の上で満足に実現されていたかどうかを明瞭に言うことはできない。

しかし、ここで I, AI 条件間に見出された差異は、この両条件の存在することは被験者に知らされていなければいけぬから、agent の側の差異に帰せらるべく、この結果は、少くも agent の心的条件の差異が被験者の ESP 受容に影響を与えるものであることを示していると理解することが出来る。

# ロールシャッハテスト Mスコア について

—— その質に関する一考察(その一) ——

武藤直義

(福岡県精神衛生センター)

○楠 峰光

(福岡県精神衛生センター)

**問題：**ロールシャッハテストのMスコアは内容的にみれば自己概念が投射されているという仮説がある。この点に関して H. Rorschach は内容分析的に M を伸長運動型と屈曲運動型に分けて個人の性格の型を示すものとし、また Z. A. Piotrowski は複数の M を個人が同時にみた場合、それらが協働しているとみるか、反協働しているとみるかは、その個人の社会的適応、不適応と深い関連をもっていると報告している。もしそれが妥当性の高いものであれば反応した M の内容性質を調べただけでその個人の性格類型なり 適応 不適応の程度なりを予測する正確な手段とまり得るであろう。

精神力動的にはこゝろは充分に了解されるけれど実際には M は内容的にはどのような微妙な方法をみるかということも精神疾患の各群別に記録して比較・検討を試みようとするものである。

**方法：**対象は I. 精神分裂病者群(含、妄想型男女各一名)、II. I 以外の精神障害者群(含、神経症、心因反応、癲癇、精神病質、薬物中毒、その他)、III 正常者群 各30名 計90名である。

構成人員 ( )内は平均年齢

	I	II	III
男	16 (32.1)	21 (31.1)	15 (26.1)
女	14 (29.9)	9 (30.3)	15 (29.8)
計	30 (31.1)	30 (30.9)	30 (27.9)

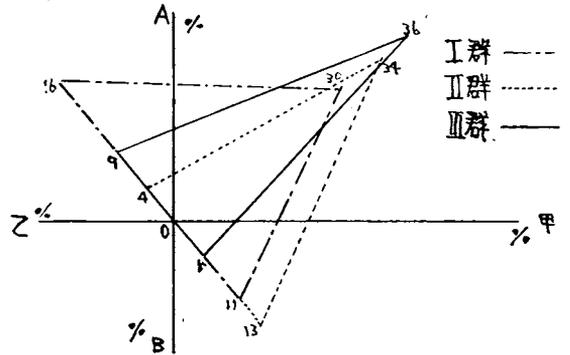
個別に R テストを施行し主として B. Klopfer の分類に従って各群毎に R, T%, M (複数) M%, F+%, を比較項目としてえらび、内容的には M を A. 伸長運動, B. 屈曲運動, C. 分類不能, 甲. 協働運動, 乙. 反協働運動, C. 分類不能に分けて記載した。

**結果：**

a)

	I	II	III
算術平均値 R	20.1	22.0	32.3
M	2.37	2.77	5.63
M%	10.9	11.9	18.3
F+%	61.1	68.9	74.8
その他		(但、F+% は二次のみ)	

b) AB. 甲乙の一致率



**考察：**量的にみれば I→III と精神障害の一揆をいふば、人格統合、一の程度に従い R, M, M%, F+%, はそれそれ増加し従来の定説を裏打ちするものとなっている。

質の検討では、X軸に協働、反協働、Y軸に伸長、屈曲の割合をとって各々図示してみた。当然のことではあるが BZ の M は見当らなかつた。

A 甲は III, II, I, B 甲は II, III, I, A 乙は I, III, II, の順に進んで H. Rorschach, Z. A. Piotrowski の各説を一応支持している。けれど全体の吉並い分類不能の M を考慮に入ると更に整備された検証が必要と思われる。

( 筆 藤 先 福岡市 箱崎貝坂 4126-1 )

# ロールシャッハ法からみた神経症の精神病理学的研究

○ 武藤直義 楠 峯光

(福岡県精神衛生センター)

目的：神経症の心理療法には治療状況におけるさまざまな心理的要因が加わっており、患者側の要因・治療者側の要因・治療者患者関係は無視できない。特に患者のパーソナリティ、治療意欲、期待、転移の問題がある。

わたくしは二重盲検法としてのPlacebo効果を併用して、患者のもつパーソナリティが治療状況にどのようなかかわりをもつかをより明確にしようと試みた。

方法：昭和39年1月より昭和40年12月までの2ヵ年間に、九大精神科外来を受診した神経症患者で、一定期間通院できると考えたもの90例に、臨床実験的な治療を施した。

まず、Placeboが投与され、1～3日の間に、症状軽快を示した、90例中の52例を対象として検討した。

性別は男性35例(67.3%)女性17例(32.7%)である。平均年齢は男性29.5、女性32.4である。臨床類型別のうちわけは、不安神経症17例(32.7%)、心気症16例(30.7%)、転換ヒステリー3例(5.8%)、強迫神経症3例(5.8%)、神経症性抑うつ状態5例(9.6%)、森田神経質5例(9.6%)、その他の神経症3例(5.8%)となる。

研究の手順は、1) Placebo効果の出現をみる。薬物がPlaceboであるとき、薬理学的効果はなく、治療に作用する心理的要因をつかむことができるからである。2) 心理療法において、自覚的改善を示し、治療者とのかかわりのよかったもの(I群)、改善を示さず、治療者とのかかわりのわるかったもの(II群)を比較しながら、次の事項について検討する。

i) 臨床類型 ii) 性別 iii) 年齢 iv) 学歴 v) 職業 vi) 居住地 vii) 結婚歴 viii) 病気の性質についての解釈 ix) 心理テスト ロールシャッハ法

結果：I群は18例(34.6%)、II群は34例(65.4%)である。臨床類型別にみると、不安神経症・神経症性抑うつ状態・森田神経質はI群にみられ、心気症・転換ヒステリー・強迫神経症はII群にみられる。

年齢に有意差はない。学歴については、大学・旧高専卒の学歴をもつものがI群に多い。居住地についてはI群に農漁村が少ない。結婚歴については、既婚のものがI群に多い。

患者が自分の病気をどう考えているかということを見ると、心理的性格的なものと考えているものがI群に多い。

ロールシャッハ結果をみると、R、R+Z、C.R、ΣC:M、F:FK+Fc、M:FMはいずれもI群が高い平均値を示す。T<sub>1</sub>はI群が早い。

つぎに、カテゴリー間の比較から、下表に示す如き両群の特徴をみた。体験型については、有意差はなかつたが両群型ではI群が多

	I 群	II 群	
体験型			ではI群が多
両群型	7(38%)	7(20%)	く、共質型は
内拡型	6(33%)	10(29%)	II群が多い。
外拡型	4(22%)	8(23%)	M≥2、FM+Mは
共質型	1(5.6%)	9(26%)	I群が多い。
M≥2、FM+M	13(72%)	6(17%)	( $\chi^2=15.3, P<0.01$ )
M≥2、FK+Fc	9(50.0%)	25(73.5%)	M≥2、FK+Fcは

II群が多い。(  $\chi^2=16, P<0.01$  )

考察：1) 不安感を主症状とする不安神経症・神経症性抑うつ状態・森田神経質はI群にみられ、心気的態度に問題があったり、複雑な心理的機制が働く心気症・転換ヒステリー・強迫神経症など病的な防衛機制が発達している神経症はII群にみられ、神経症者のパーソナリティが問題になろう。

2) II群はI群に比べて、想像力に乏しく、情緒性に欠け、対人的に共感性が少ないことから、治療者とのかかわりをとりえないとみられる。

3) 表に示す如く、M反応の少ないことは、治療効果が期待されないことが確かめられた。II群のM反応は、対人的かかわりのもてないことであろう。

(連絡先 福岡市箱崎貝塚 福岡県精神衛生センター)

## 非行少年の心的構造

松本 蕃

(九州大学 教育学部)

目的：P-Fスタディは、本来個人の独自の人格の理解方法として、人格特性が客観的に表出するところのフラストレーション場面を設け、そこから反応が特定個々の個人内の力動的関係として、把握される。私は、精神測定法の原理から、集団力等のアプローチにその法則性を示出し、非行性の性格を明らかにすることを研究目的とした。

方法：非行者は、鑑別所に来所してきたもの25名、男子で、知能指数、86~107、両親健在、収入は主として、工専夫夫、その他、下級労働としての父の収入に一定頼っており、且つ平均収入が3月前後であり、家族数が2人~4人といたるもの2対象とした。無非行者は、K大学の学生25名である。

結果及び考察：結果因子11種の障害に対する非行少年の反応の傾向は、

1) 個体の障害に対する基本的反応方向として、障害を責めるE型。

2) 自己を責めるI型

3) 自己と障害とを妥協調整するM型

に分けられ、

個体が障害場面に適応調節して行く時間的経過から見て、

1) 障害だけが表われている障害優位(O-D)の発達段階にあるもの。

2) 更に発展して、障害に対する自我の反応となる自我防禦(E-D)の発達段階に進んだもの。

3) 中には更に発展して障害に対して何等の代償的解決と要求する(N-P)処に至って完了するタイプの非行少年もある。

以下

障害と認めざるもの→自我防禦反応→代償による要求回軌による解決

と同化が可能である。

更に、障害の原因から

1) 自分以外の相手にある場合の非行少年のタイプ

2) 客観的には自分の失敗から、良心の荷重、自己の弱さによって起る非行少年のタイプ

の二種が区別される。

殊に非行少年の場合は、客観的には自己の失敗、弱さから障害を生じ、感情の混乱状態を起し、当惑、狼狽の反応が多く、I型といえるようである。しかし、自我防禦反応のEとIがあり、ここに彼等の考えと行動に不一致現象が認められる。

非行少年と無非行少年と比較して、殊に云えることは、非行少年は、標準スケールを照らしても一着大きく歪んでいることは、答め、敵意を相手に直接むける攻撃性をあらわすEが普通人の倍ちかく表出していること。それに反して自責、自己非難とあらわすIが極めて低い点である。又依存のごとく自分自らの努力で問題を解決しようとせず、人に訴え助力を求めようとする傾向が強いこと(E反応が多い事から推測できる。しかし、前半に表出していたEが、後半は反応分析欄では、減少しているところから、E反応といふんぞらそうとする傾向を示しているのがある)。

非行少年は、攻撃性E内に何けるか、外に何けるか=着択一の態度を持ち、攻撃と外にも内にもむけず、うまくはずすような無罰反応は、統整群の1/5以上も少ない。不満場面に遭遇した時に他人に対して著しい攻撃性を示すか、さむけければ、その責を自分自身に帰す、決して各助やごまかしとしないタイプへと発展して行く可能性があると考へられる。即ちEと多く表出する非行少年の群は、自分の心の中の失望や不満や欲求を相手を知ろうとすることにもとづく拒否反応を帯びている。更に依存と敵意、それにもとづく、葛藤が、非行少年のE型、M型の心的構造であろう。しかし、この結果から非行少年の人格理解の手がかりを得ただけで、心理構造の形成は、今後の研究で明らかにする必要があろう。

## 心理テストによる Cingulectomy の効果の測定

—— 施術適否の指標について ——

○生田博之 鈴木正弥 川島保之助

(名古屋市立大学) (名古屋大学) (守山荘病院)

数年来、心理テストを用いて、精神外科的治療方法のひとつである Cingulectomy の一般的影响をさぐる試みを続けてきたが、その結果、この手術方法が、それまでの諸方法とくらべて、「知的、人格的水準の低下を来すことなく精神症状を軽快せしめる」ということを、ある程度確かめることができたと思う。しかし、一方で、単純に上記のように表現するのは到底充分とは言えないさまざまな問題のあることもわかってきた。ひとつの例であるが、症状の軽快と言っても、攻撃的、衝動的傾向が少なくなり妄想も消失するといった症状面での特徴は、比較的共通に認められるものの、社会復帰という面から眺めると、当然のことながら、実際社会に復帰して常人と変わらず職業に従事しているものから、家庭内あるいは病院内で消極的な意味での適応にとどまっているものまで、そのあり方は一様ではない。また、症状の軽快のしかたにおいても同様に程度の差はある。

ところで、この種の研究のひとつの意義は、その成果も、現に患者が存在し施術の必要に迫られている病院の実践的場面に還元して、施術の効果も、より高めるのに役立つということであると思う。その意味で、施術効果の分析検討の一方では、実際の立場から、例えば施術の適否に関する患者の選別の方法と言った問題に関心をもちざるをえないわけである。すなわち、どのような患者に対してどの程度にこの手術方法の効果が期待できるか、その指標 (indication) を得たいというのが、この研究の目的である。

方法としては、残念ながらもかなり試行錯誤的なところがあるが、① 社会復帰というレベルから考えると、そこに知能のある程度の高さが必要であることは

充分考えられるので、この点をまずひとつの目安として検討し、さらに、② 医学的な側面から、脳の萎縮と施術予後の良否を検討することにした。すなわち、施術患者と、現在の精神症状、社会復帰状況などを総合して、その良否によってグループにわけ、上記の点で比較した。また、このふたつの面での相関の程度を知る意味で、脳の萎縮に関する指標を用いて、これを総合的にプロットしてみた。

その結果、施術前の脳の萎縮がある程度以上に進んだ場合は、施術の効果が、そうでない場合より劣ること、また、精神症状の軽快という以上に社会復帰の面まで考えると、患者の知能が相当問題になることが指摘された。

知能の問題などは、どちらかと言えば常識的なことからいすぎないけれども、実際に患者について施術の適否を決定する上では、具体的なひとつの指標として重要である。

そして、この種の治療効果の研究において、疾患の型、症状、進行状態その他の点でさまざまな患者群に対し、一般的な治療効果の抽出、一般的な意味での社会復帰の可能性の分析などを目的とするにとどまらず、一方では、つねに患者の個別性を詳細に把握しながらの追究を欠くことはできないと思われる。

また、この研究において、われわれは、方法や、結果の処理、考察などにおける論旨の不徹底を認めざるを得ないのであるが、この種の研究においては、不完全ながらも、現時点における現実的事態に即した追究の方向を否定し去ることはできないと考えている。

(連絡先)

名古屋市守山区守山北山 守山荘病院臨床心理室

# 相談活動における人格変容に関する一考察

岩村佳代子  
(お茶の水女子大学)

目的：教育相談活動における子どもの人格変容の手がかりの求め方について明らかにする。

方法：本研究者(副相談者)が、他の相談者(主相談者)とチームになって担当している相談事例の展開過程に即して、関係療法の立場からのべる。

## (1) 相談関係の成立

子どもA(小学1年男)の学級担任が相談を申しこみ、相談関係成立。学級でのAの行動について(集団活動からはずれる。乱暴する。蜂の絵ばかりかくなど。)問題が出される。1週間後、担任の連絡でAとその母が来所し、母は主相談者と面接。Aは副相談者と知能テストを行なう。そして、次週からAと主・副相談者による遊戯治療を行なう。この相談は、子ども、母、学級担任、主・副相談者の5人と他に精神科医の協力も得ている。その相談関係図を左に示す。Aは、家庭、

学校、医療機関などの集団関係を担って相談所に来所している。Aの人格変容の手がかりは、母とAとの関係、Aと相談者との関係、Aと学級集団との関係に求めることができる。その関係において、役割療法を展開する。(役割療法：役割のとり方を操作し、教育・治療の効果をもたらす相談技法を役割技法となづける。その方法が主として展開する治療を役割療法という。)

## (2) 相談関係の展開

人格変容の手がかりを、どこにどのように求めたかについてべる。①. 母と相談者との関係では、相談者は母のとらえている問題状況に即して、母の問題意識を明確にしたり、深めたり、ひろげたりする役割をとる。そこで母にAとの関係においてどのようにふるまったらよいかの体験や発見が成立する。そのことが母とAとの関係のあり方を変え、Aのふるまい方の変容をもたらす。②. Aと相談者との関係では、人や物

を留意するなかで、Aが主導的にふるまう状況をつくる。そこでAは、関係を変化させたり、関係の変化により自己の在り方が変わって、新しい自己の可能性に気づいてふるまうようになる。たとえば、テスト(課題)状況をつくる。集団活動からはずれるというAが、テスト(物と媒介とした相談者との関係)では、課題によってふるまえる体験をする。そのことは集団活動へ参加していきかけともなる。また、遊戯活動では、主相談者とAと物(遊具)の3つの関係を留意して展開し、(人と物と自己の3つの関係が基本的に留意されている)副相談者は参加観察者の役割で参加(Aと主・副相談者の3者関係を展開する可能性も留意されている)。ここでは、Aが状況を展開し、活動の方向性を出していく役割を担い、主相談者と物はAとの活動を促進する役割を果たす。Aは初期において、特に物との関係を伸ばすことにより、人との関係も伸びることがねらわれた。③. Aと学級集団との関係では、担任がAを学級集団に位置づける位置づけ方が変化することによりAのふるまい方が変化する。また、A自身が外での変化体験を担って学級集団でふるまい、集団関係を変えていきかけをつくることにより、更にAも変わる。

## (3) 相談関係の発展

現在：相談は継続中である。Aは、自己における過去体験との関係がうまく、現実にあるまわりの状況が見えにくかったが、しだいに物との関係がひろがり、人との関係も伸びてきている。今後、相談心理劇もとり入れて、更に関係領域をひろげ、人との関係でのふるまい方を伸ばし、集団において発展的役割の担えるあり方に変化していくことがのぞまれる。(相談心理劇：相談活動において展開される心理劇で、相談活動の日常生活への移調を容易にする技法である)

研究協力機関：東京都目黒区立守屋教育研究所相談室。

連絡先：お茶の水女子大学 児童臨床研究室

# 文化によってゆがめられる臨床的人格像の一考察 —homo arctatusについて—

相 場 均 (早稲田大学)

緒論：臨床心理学や精神病理学の理解は基本的に個人の心理的構造の把握によっている。たとえば精神病院へ入院している患者はその症状およびそこにいたるまでの経過から理解される。しかし入院の手続きはけっしてそうしたことからのみ決められるのではなく、社会とのfunctionにおいて決定される。つまりその患者をとりまく環境、社会、家族が「この人は少し変だ。さっと精神病だろ」という判断があってはじめて病院との最初のcontactがとられる。医師自身の判断もそうした社会的なものに大きく左右される。アルコール中毒とか性的倒錯(特に同性愛)については欧米のように倫理的な規範が在りないやうに憂鬱ということについても特にアメリカのように強い社会的拒否傾向がない。人間が社会に閉ざれているのでその人格像の把握の行為そのものが、すでにある種のゆがみをもつこともある。その構造を分析し考察するのがこの研究の目的となる。

研究の方法：人格像を社会的規範からとらえるひとつの方法として精神障害についての被験者のinformationをはかってみた。これには社会的な一般概念になっているphraseを50項目あげそれについての了解の程度をみる方法をとった。次に社会的距離と結婚および就職に対する情動的な態度が測定される。これに加えてそうした距離にどれだけの可塑性があるかを視覚的刺激ならびにそのillustrationによって観察した。さらに精神分裂病、躁鬱病、アルコール中毒神経症などに基すく症状あるいは性格像のdescriptionをつくりこれからそのひとつひとつが病的であると思うか、そうして病気であるとすればどんな病気であるかを判断させた。一般学生、看護婦養成生、一般看護婦、精神病院勤務看護婦と被験者とした。

研究の結果： 1. 精神障害についてのinforma-

tionは学生その他の間に非常に大きな差は認められない。特に知的なものを規準としたinformationは被験者の自身の地域的背景に多少関係をもつが情動的なもの、つまり倫理的なものが関与した場合は被験者のpersonalityに影響される。社会的距離に関して、結婚をつかってはいる場合も就職についても他の条件との中に親和性は認められなかった。たゞ患者の家族は精神障害、より近く次に精神病院の看護婦、一般看護婦、看護婦養成生、学生との順となる。精神病に対する距離よりアルコール中毒に対しての方がはるかに大きくなる。これは精神病は自分の意志に関係なくおこなと判断しているのにアルコール中毒の場合は自分の力で治せるはずなのに意志の力を使用していないというので社会的な拒否傾向が強い。2. 態度の変容に関して、精神病院の建物と患者の活動などを示す写真のprojectionとそのillustrationがかなりの変化をもたらす。illustrationなしのもの、それを併用する場合は、あつた場合の方が変化の程度も大きい。社会的な倫理的な立場に立ったillustrationほどその変容への作用は大きい。その逆の場合は写真やillustrationが非常によく出来ている場合も変化が起るにせよその割合は大きくない。3. 各精神病のdescriptionとの関係はアメリカとの比較ではdescriptionそのものに対しては受け入れやすいのに、病名がつけられるとrejectionの程度が高まっている。

考察：臨床的人格像は主としてそのdescriptionに対する解釈から社会的に判断される。アルコールやセックスについての日本でのrejectionの低さが「ルビミ」としてとられていないがアメリカでは「ルビミ」文化によって「ゆがめられている」として把握される。informationや変容の上記とかなりの親和性があると推定される。

# PROCESS SCALEによる治療過程における 人格変容の研究(第2回)

飯塚 銀次  
(東京農業大学)

目的: 過程尺度によってカウンセリングの面接記録を評定して、①過程尺度信頼性、②各尺度段階の事例収集、③尺度の日本語標準化、④心理療法における人格変容の過程を明確にしたい。特に今回は主に①と②の若手について発表したい。

方法: 研究対象は受容的場面の視覚的に示された面接記録を用いる。標本については面接記録の収集困難な現状では諸条件の配慮は極めて困難であった。母体5大生4、高中学生5、女性3、其他2の19事例(長9、短10)である。研究対象は各事例の全面接記録で、各回につき2分間程度の内容をほぼ等距離に9単位(総計約750年)を用いた。評価基準はRogerの過程尺度に(1954)に其後の研究(1959, 1961)を加えて基幹したものを用いた("学生相談"号104P)。評定者には受容中心療法に造詣深い八木由夫、西君子(江戸川研)岸田博(教育大)増田実(郡山女大)等の協力を得た。過程評定の訓練のために評定者は1967年2月20日4回合同研究会を用いた。評定は無差別と順序別に与えられ、各自定奪で行なわれた。

結果と考察: ①過程尺度の信頼性 評定者間の相関係数を求めると、第1表のように、無差別よりも順序別に与えられた方が、前者は5% 後者は1%水準で優れた有意性を示した。私は1964年に同一者が3ヶ月後再度評定して0.75を得た。HartやTomlinsonは1962に0.65~0.85の成績を示している。

②治療過程の変容過程

評定方法	相関係数
無差別	0.69-0.78 (p<.05)
順序別	0.76-0.88 (p<.01)

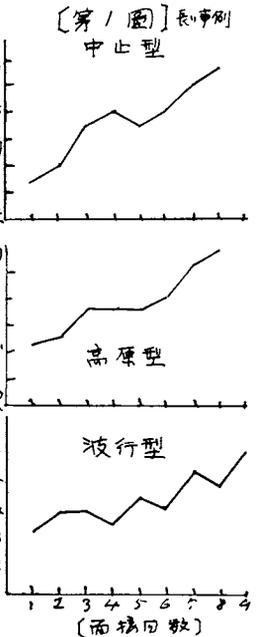
者の体験過程 Experiencing は初め固定的、非個人的、防衛的であるが、後期に至ると流動的、受容的、積極的な豊かな感情を示し、人格変容の過程がバールを脱いで鮮やかに看取せられる。治療者は自信をもって臨床することができよう。

2. 変容曲線をみると、直上型の外に多くは高原型や

中止型のように、面接場面の変遷、外部緊張の持ち込み、面接間隔の延引等により、来訪者の体験過程の進行が1時的に停滞したり阻害されたりする。これらは体験過程の直接の照合や、感情と象徴化等の相互作用の不確か等も考えられるし、また中絶過程に起因には治療成功へのあせりなどもあろうが、かかる試行が次の発展の準備である所に、曲折の意義があろう。(おん2回)

3. 低い段階から初め来訪者は、低いまで終わるから、過程評定は来訪者との関係の質と治療の可能性を平すといわれている(Roger 1961)が、今回の僅かな事例では証明も反証も得られなかつた。即ち19例のうち証明する事例は3(16%)だけで、逆に初めは低くても終りの高い事例は5(26%)で、初め高ければ、終りも高い事例は5(26%)で、その場合に低終りの低い事例は少なかった。(2例10%)

これから初め評価の高い来訪者は選択されてよかりそうだ。④長い事例と短い事例(4回以下)を比べると、面接回数と変容度には関係はないようだ。⑤初回の面接では施設の来訪者(平均3.1)は学生相談室等の来訪者(平均3.7)より1段階位低いようだ。



⑥直上型、曲折型、中止型

(連載先) 東京初世田岩巴橋丘 東京農業大学 飯塚銀次

# クライエントの経験に関する意味論的研究(II)

小川 敏通  
(新潟県立教育センター)

目的：第33回大会での報告に引続き、クライエントの経験過程の一側面、主観的意味内容の変化とその伝達性との様相をSemantic Differential法により検討し確かめる。

方法：(1)調査 日本語の意味構造に関する諸研究による35尺度、7品等評定段階尺度の質問紙。(2)対象 当教育センター教育相談室に來所したクライエント5名(母親 P)。(3)手続 調査と、カウンセリングの事前(T)、事後(T)とに2回実施(昭和42年6月~8月)。

結果：(1)個人内一貫性 評定得点について、P別にピアソンの相関係数(r)を算出したところ、0.558~0.953であり、これらには統計的な差異が認められない。(2)個人間一貫性 S別にスピアマンの順位相関係数(r)を求めた。(第1表) (3)評定得点変動 これに関して、変動差(T-T', d)を求め、因子負荷量0.50以上のS(Moral Correctness 8, Sensory Pleasure 8)16について、P別・S別・T別を3要因とする多段配置法で分析した結果、尺度内変動に対して尺度類型間変動に統計的な差異があった。(第2表) (4)評定得点の変動方向 S別にSD scoreを算出しその結果を第1表にまとめ記した。

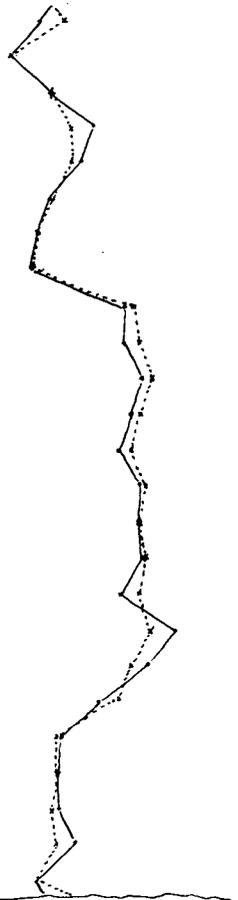
以上のことから、評定得点はほぼ一定であるが、その変動する傾向は、Moral C.とSensory P.とに属する尺度が分離する傾向にある。さらに、評定得点の変動方向は、前回の報告とほぼ同じあることが判明した。今後、さらに研究条件を整備統制し再検討する。

第1表 S別順位相関係数(r)とSD score  
(no.) : 尺度番号 (相良ら)

S(no.)	Yb		1	2	3	4	5	6	7
1(27)	.791	すぐれた							
2(43)	.975	一番じた							
3(16)	1.000	立派な							
4(19)	.722	正しい							
5(37)	.789	よい							



6(23)	.789	はつきりた
7(24)	1.000	ありがたい
8(8)	1.000	きれい
9(31)	.869	高い
10(50)	.947	するどい
11(29)	.643	安全な
12(26)	1.000	やさしい
13(15)	.899	陽気な
14(48)	.865	不愉快な
15(34)	.750	苦しい
16(49)	.975	くらしい
17(41)	.975	気持ちがいい
18(45)	.763	かたい
19(33)	.946	きらい
20(42)	1.000	黒い
21(3)	.946	みくくい
22(35)	.730	年とつた
23(17)	.530	つめたい
24(25)	.947	不純な
25(38)	.692	複雑な
26(30)	.507	積極的
27(7)	.400	ひろい
28(2)	.923	大きい
29(10)	.923	強い
30(11)	1.000	新しい



第2表 多段配置法による分析結果

	F	SS	f	MS	(F <sub>0</sub> )
尺度類型(S')	3.61	1	3.61	*	
同類型尺度間(S'')	5.68	14	0.40		
尺度内(S)	9.29	15	.		
個人間(P)	6.32	4	1.56		
交互作用(S'xP)	2.58	4	0.64		
合併交互作用(SxP)	28.70	56	0.51		
個人内(P')	37.60	64	.		
t.t.	46.89	79	.		

# 指先反応法による虚偽発見について (1)

山下素手  
(科学警察研究所)

緒言：Polygraphによる虚偽発見は、呼吸、G.S.R、血圧脈搏の3指標によっているが、新しい指標の検討として、指先反応法(こゝまぶこじした)をとりあげた。この方法はLuriaの虚偽発見法であるMotor method and Word association にヒントをえている。Luria法とは言語連想の際、指先でペロースに真結したキイを押させ、その記録をも、言語連想とあわせて指標としている。

1935年にLuria法を追試したRunkelの結果についてみると、右手指先のMotor response(運動神経反応)については、Critical語とNoncritical語とは、波型に明瞭な相違がみられたとしている。なお左手の反応については、評価しうるほどの反応はみられなかつた。Luriaが左手の記録に着しい変化を得たとするならば、それはより緊張した感情の状態に基いたものかもしれないと推論している。そして単語連想とMotor methodを結合させたLuria法は、虚偽発見の研究法として有効であると結んでいる。

指先反応法とは虚偽発見検査にあつて、被検査者の左右の手の指先は自動記録装置に連結したペロースの上にあるキイの上におかれる。そして被検査者は質問に対する返答の際、左手の指先でキイを押す。この記録と同時に、左手の記録もとられ、あわせて分析される。なお今回は反応型分類と、実事例の記録の検討を行った。

実験方法と手続：装置は指先反応測定器をもちい、手続は模擬窃盗により、Guilty群、Innocent群の2群を対象とした。質問はKS-PT方式により、「盗まれた金額」、「金種別」、「盗まれた場所」の3質問表により行った。実験場所は科学警察研究所Polygraph検査室、被験者は成人男女14名(9.6名 I.8名)であつた。

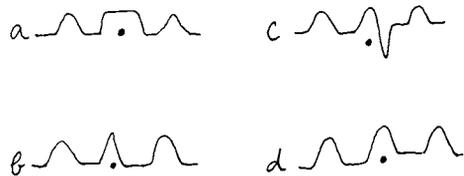
結果と考察：今回の実験では左手の指先反応は、先述したRunkelの実験と同様に評価しうるほど

の変化がなかつたので検討対象から除き、右手指先反応についてのみの結果の検討を行った。反応型の分類としては、波型の分類(図1参照)、振幅の高さの分類によつた。(1)G群とI群との特異反応型の出現の程度をみると、G群 $\frac{3}{4}$ —50%、I群 $\frac{1}{9}$ —19.7%でG群の出現の程度が高い傾向がみられた。(2)G群とI群との質問系列同の反応出現の程度をみると、G群はI群に比して、1系列目の出現の程度が高い傾向がみられた。又G群はI群に比して、3系列同の出現の程度は少ない傾向がみられた。

実事例の考察：実事例については、Polygraph検査のあとで指先反応法検査を行った。実施人員は11名であつたが、内Guiltyと思われる4名についてみると、4名中2名はPolygraph、指先反応とも同程度の特異反応が認められた。あとの2名については、検査質問中の1部の質問について、Polygraphの反応よりも指先反応に明瞭な特異反応が認められた。

まとめ：実験結果および実事例結果よりみて、指先反応法による虚偽発見の可能性について肯定的事実を提示したものとと思われる。機材、測定方法等に吟味、検討の余地があるので、今後これらの点を考慮して研究をすすめてゆきたい。

図1 波型の特異反応型



# FARNUM MUSIC NOTATION TEST

## 追試

関 雅子  
(福岡県立久留米高等学校)

### (1) 目的

最近、学校における音楽教育の現場で、特に器楽教育と重点が向けられるようになった。不十分な設備、環境の中で音楽教育、特に器楽教育を効果的に行なうためには、生徒の適性を見抜き、更に学習効果が予想通りあがっているかどうかを、正確に判断する必要がある。それについては、Seashore Measures of Musical Talentsがあるが、pitch(音高) loudness(音の強さ) rhythm(リズム) time(持続時間) timbre(音色) tonal memory(音の記憶)の六種を測定するこのテストは、いわば先天的な音楽才能を判断するテストである。しかし、音楽の能力は先天的なものばかりでなく、後天的なものによっても影響されることが多い。これについて参考になるのが、Farnum Music Notation Test(音楽記譜テスト)である。

### (2) 問題

このテストは、アメリカ人Farnumによって作られた。このテストを使うことにより、音楽教師は器楽教育を授けるのに適する生徒を選択するのに役立つし、また、器楽教育における失敗と落位者を減らすのに役立つ。これは元来アメリカの中学生の器楽の適性をはかるために考案された。しかし、内容がむずかしさからいって、日本ではむしろ高校生に適していると思われる。だが、これは実際に検討してみなければならぬ。

1. このテストは、中学生、高校生どちらにより適しているか
2. このテストによる一般中学生、高校生、音楽専攻生(音楽専門家)の能力の比較
3. このテストは男子と女子とで種々の基準が変

てあるが、その必要があるかどうか。

4. こうしたテストに対して、生徒の興味はどうか
- ### (3) 調査

#### a. 方法

このテストは40項目から成り立っている。各項目は4小節からなる短かいメロディで構成されている。すべての指示はレコードにより示される。被験者は各自4頁の楽譜を与えられる。その楽譜には、40項目のレコードにのせられたメロディが印刷されている。ただし、4小節のうち、1小節だけがレコードの原音とはリズム、音高などの点で違っている。被験者はレコードの演奏と楽譜とが違っている小節にX印をかきこむ。所要時間は正味10分くらいであるが、全部で20〜30分みておくことが望ましい。実験終了後、テストの感想を書かせる。

#### b. 整理・分析

1. このテストは読譜能力が必要である。(したがって、日本の中学1年生では、器楽に対する能力があっても読譜能力に欠ける者がいるので、その点を考慮して結果を判断すべきである。また、高校生にも充分利用できるが、高校上学年、および特別の器楽レッスンを受けた者には、実音と記譜の違いを指摘するだけでなく、実音通りに楽譜と訂正させる方法も考えられる。
2. テスト結果では、中学から高校、そして音楽経験の深い者ほど成績が良い。
3. アメリカの基準と同じく、男子より女子の方が成績が良いが、これは音楽的経験の差が要因ではないか。
4. テストに対して生徒はかなりの興味を示すし、テストの活用によってかなりの成果が期待できる。もっとテストを一般に普及するためには、レコードの改善(78回転から33回転へ、音質の改良等)が必要である。

福岡市地行東町4-290(電話 747520)

# 幼児性格行動診断検査について (1)

藤原元一  
(九州工業大学)

目的： 幼児(幼稚園児又は保育園児)が示す行動のうちから、幼児教育で問題となるいくつかの英を取り上げ、その性格行動の問題英を診断しようとした。今回は、この検査の標準化の過程の一部について、明らかにしようとした。(ここに言う性格行動とは、幼児の示すいろいろの行動は、同時に、幼児の性格を示す行動とも考えられると言う意味で、使うことにした。)

方法： 幼児教育で問題となる性格行動のうちから次の12検査項目とし、その各々の検査項目を10個の問題に分けて、検査を作成した。その問題は、幼児が日常、家庭及び園で示す具体的行動であるように留意した。検査項目は、1攻撃的、2顕示的、3非自制的、4反抗期的、5依存的、6退行的、7非社会的、8情緒不安的、9消極的、10神聖真的、11家庭への不満足、12園への不満足である。

1. 検査用紙を園を通じて家庭に配布、両親又は保護者に、園児がそれらの行動を示すか否か、二者選択を記入してもらって回収した。回収率は98%

2. 北九州市各区及びその周辺部、中津市内については代表値が得られるよう代表園を指定協力を得た。鹿児島市内有志園の資料約三千人より無作為抽出した。(500名)

	1 (500名)		2 (158名)		検査項目		目間相関関係表					
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	攻(攻撃的)	消(消極的)	家(家庭不満足)	反(反抗期的)	依(依存的)	顕(顕示的)	非(非社会的)	情(情緒不安的)	退(退行的)	非(非自制的)	神(神聖真的)	園(園への不満足)
1 攻												
2 消	.114											
3 家	.231	-.161										
4 反	.511	.166	.089									
5 依	.208	.391	-.003	.307								
6 顕	.334	-.023	.121	.366	.142							
7 非	-.071	-.292	-.144	.038	.155	.008						
8 情	.113	.200	-.022	.023	.196	.186	.052					
9 退	.222	.054	.028	.173	.248	.234	.052	.077				
10 自	.452	.022	.234	.516	.263	.437	.006	.137	.094			
11 神	.005	.054	-.022	.173	.092	.091	.113	.143	.077	.008		
12 園	.003	.331	-.029	.008	.257	-.064	.220	.204	-.085	.080	.030	

3. 年齢は、3~6大児(中津、鹿児島市については5大児のみ)

4. 地区別、年齢別、比例代表抽出を行い、検査項目、相互間の相関係数を算出した。(158名)

結果： (1)検査項目毎、問題別出現頻度%について、1.年齢別では、全般的に、比較的同じ傾向を示した。また特に問題によつては、明らかに年齢の進むにつれて減少するもの、その逆になるものも多少あったが、年齢による差の見られない問題が比較的多かった。

2. 5大児のみによる地域別比較では、地域差という程の差はなく、比較的よく似た傾向を示しているということが出来る。

(2) 検査項目毎(問題とそれをオウエイト付した)得点分布の比較について、

1. 年齢別比較によると、各年齢とも、非常によく似た傾向を示した。ただ、3大児のみ、多少ずれる場合がみられた。

2. 地域差(5大児のみ)は、殆ど認められなかった。

(3) 各検査項目間相関関係の分析

項目間相関係数のマトリックスを示すと次の如くである。これにより項目間の相関関係が知られる。

# 反応時間に関する脳波学的研究(2)

・杉本功介  
(日本女子体育大学)

・岩崎好子  
(日本女子体育大学)

研究目的: 簡単反応時間が、刺激を与えられる器官によって異なることは、ドイツのヒルシュ(Hirsh)の研究以来問題にされ、いろいろな研究者によってとりあげられている。ヒルシュは、刺激から反応までの時間は反応方法を一定にしても、大脳に近い皮膚を刺激したばあいに最も短く、聴官を刺激したばあいはやや延長し、視官に刺激を与えたばあいにはさらに延長すると報告している。

この問題はいろいろな研究者によって研究されたが皮膚刺激に対する反応時間は、光や音の刺激に対する反応時間よりも短く、光刺激に対する反応時間が最も長いということが一般に認められている。

しかし、皮膚刺激が光や音の刺激よりはやく反応できるのはなぜか、光刺激が音刺激よりおそいのはなぜかの問題は、いまだ説明されてはいない。

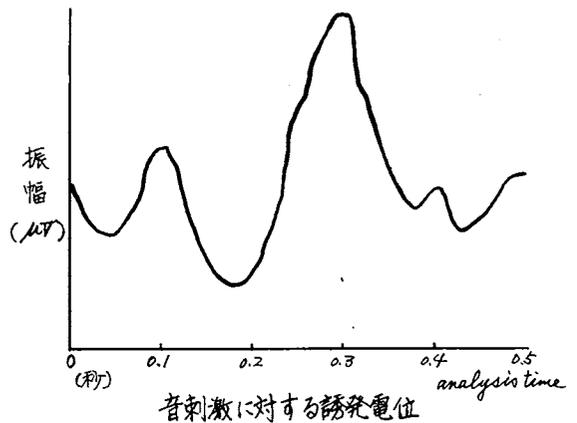
そこでわれわれは、覚醒時における脳波の低振幅速波のパターン(Jasperらは、これを脳波の“賦活化 activation”と呼んでいる)との関係を研究するとともに、刺激の種類によって脳波の賦活化パターンにどのような変化があるかをみたものである。

研究方法: (1) 皮膚刺激、音刺激、光刺激、おのおの50回の反応に対する脳波の誘発電位についての実験、(2) 皮膚刺激、音刺激、光刺激に対する50回の反応の潜伏時間の変化についての実験、実験装置は三栄測器の医用データ計算機MC-401とPG-602型ポリグラフを併用した。被験者は日本女子体育大学体育心理学専攻学生8名、脳波の誘導は覚醒時の頭頂からの単極誘導、自動分析は丘頭頂の8~13サイクルを分析した。

実験結果: (1) 覚醒安静時(閉眼時)において、*poor alpha*の状態での反応時間ははやく、変動係数も小さい。すなわち、最も activate されている状態において反応時間は最もはやいということがわかった。(2) 皮膚刺激、音刺激、光刺激に対する脳

誘発電位の50回の平均演算の結果について考察してみると、種類の異なる刺激によって誘発電位の現われかたに差異が認められた。

下図は、音刺激に対する左頭頂からの誘発電位、50回の平均加算の結果である。



これによると、0.1秒から0.2秒にかけて activate されていることが認められる。なおこのパターンには個人差のあることも認められた。(3) 刺激を發してから反応(このばあいは右々の刺激から前腕の屈筋群の筋放電までの時間をさす)が起るまでの潜伏時間のヒストグラムについても、刺激の種類によって差異が認められた。

研究考察: 刺激の種類によって誘発電位に差異があることは、今後いろいろな面から研究してみる必要がある。なお Qureton が、異なる種類の刺激を同時に与えた方が、それぞれ単独に与えたばあいよりも反応時間が短縮するといっていることについても今後の課題としたい。

(連絡先) 東京都世田谷区烏山町2160  
日本女子体育大学、体育学部

# 集団投影人格検査の日本版標準化の試み(I)

金平文二 島田俊秀 宮田知子 伊藤嘉子  
 (東京家政大学) (東京家政大学) (東京家政大学) (東京家政大学)

目的：人格検査の重要性、必要性が認められてくるに従い、種々のテストが実施されているが、現在まだその種類も少く、目的に適ったテストの選択が制限されている。集団投影人格検査(GPPT)は、再統合化原理を応用した投影的方法の人格検査で、集団を対象とした場合に、換点が比較的容易であるという特徴をもつもので、米国でかなり普及しているものである。本研究では、このテストの日本版標準化を試みることを目的としている。

方法：(1)GPPT (Group Personality Projective Test)  
 本テストは、不安、緊張の量の測定と、テスト時の被験者の欲求傾向を測定することを目的とし、不適応者またはグループの判別、非行傾向の識別、指導性の判断等に適用される。テストの基礎となっている人格理論は、人格は、外層、中間層、深層の3つに区別される認識と情緒により明確に把握されるだろうという仮説に基づいている。GPPTは、人格の中間層の把握、弁別を目的として作られている。テストは、90個の線画とそれに関連するような5項目の説明が記されている。被験者はこの5項目中適切なものを1項目だけ選択する。テストは数回の予備テストの結果、USAF飛行前隊員100名と合衆国連邦感化院囚人100名について調査し、その結果について因子分析をおこない、次の7因子を抽出し解釈の尺度としている。(1)TRQ：テスト時における被験者の不安状態を示す。(2)Nurturance：進んで専らあたろうとしたり、他人を援助する役割を演じようとする欲求を示す。(3)Withdrawal：集団での責任をさけようとしたり、個人的な社会的責任を逃れようとする欲求を示す。(4)Neuroticism：被験者が完全で時機に合った決断をすることができるか、優柔不断であるかの程度を示す。(5)Affiliation and Psychosexual Needs：(a)集団帰属の欲求、(b)男性-女性関係への欲求。(6)Succorance：(a)援助を求め

る欲求や幼見の役割をとろうとする欲求、(b)他人に対する一般的不信。(7) Total score：情緒的障害の有無とその水準を示す。

(2)調査の方法：

われわれは、GPPTを翻訳(ただし図は原版使用)し、某私立女子短大生20名、国立大男子学生200名に集団で実施した。本報告はその集計結果の一部である。

結果：(1)選択項目別にみたかたより N=201

総計 90 問中	項目数
70%以上の集中を示した項目	17
80%以上の集中を示した項目	8
1%以下の集中を示した項目	23

(2)因子別平均値と標準偏差・原版との比較

	日本人女子 N=201		米国正常者 N=710		米国異常者 N=450	
	M	σ	M	σ	M	σ
T R Q	36.6	12.4	23.2	9.0	46.2	12.2
Nurt.	7.6	2.5	9.6	2.0	11.5	3.4
With.	11.5	3.5	11.4	1.8	11.9	3.3
Neuro.	22.5	4.1	18.1	4.3	23.8	6.2
Aff.	17.3	7.4	22.4	4.4	17.3	6.1
Succ.	11.0	7.0	8.2	3.7	9.3	5.1
Raw Tot.	59.8	17.4	46.0	15.9	68.6	10.3

考察：以上、本研究の結果の一部から次のようなことが考察される。(1)反応の集中は必ずしも問題項目の不適切を示すものではないが、いくつかの項目では、翻訳にもう少し配慮を要する。(2)平均値・標準偏差とも米国正常者の値に近似している。

備考：日本人一般男子については集計中である。

# 音楽または楽音による性格診断テストの作成 (II)

共立女子大学  
玉 岡 忍

目的: 1 昨年の学会において、この構想について発表し、会員諸子の賛同と、よいアドバイスとを受けしたが、その後色々考えてもうまくまとまらず、参考文献と漢つても見つからず、全く停滞状態である。その後、キヤテルの論文: Cattel, R. B. and Saunders, D.: *Musical Preferences and Personality Diagnosis: I. A Factorization of One Hundred and Twenty Themes*. *J. of Social Psychology*, 1954, 39. を見る機会をえたので、彼の研究の要点を紹介すると同時に、私の研究への示唆、並に、その後の構想などについて述べることにしよう。

Cattel はもともと、この方面の因子分析に興味を持っていて、その因子の中の特性については余りないもので、これは参考にならない。

しかし、ある音楽に対する「好き」「嫌い」には個人差があり、Capurso のいう感情体験と Personality の関係と信じて、これによって Personality の診断ができるという立場には賛意をもてる (Capurso は次のように emotional Category を分けている a) Happy, elated, triumphant; b) Looming; c) Agitating, stimulating restlessness; d) Nostalgic, meditative; e) Reverent, prayerful; f) Sad, melancholy; g) Eerie, weird, frightening.) ただし、これらを Personality の典型的な category に結びつけるところに、その客観性と妥当性の真に問題がある。これは抽出された因子の数よりも、もっと根本的な問題である。

更に対象とされる subj. と音楽経験者、患者と普通学生とに分けているが、その比較の問題よりも、テスト作成の問題としては、広く一般の多人数による型を見出すことの方がより重要である。

終りに、使用された音楽 (120あるが) の中から若干を pick up して紹介する。

1. Bebop) "Tea for Two"
  2. Violin Concerto, move. 2. (Mendelssohn)
  3. Menuetto (Scarlatti)
  4. FARRIER'S SONG (originally sung by Irish quarry workers)
  5. Attack and Search of the House (Copland)
  6. "I know the Lord's Laid His Hand on Me." (Negro spiritual)
  7. Boogie-Woogie (Ravel)
  8. Ondine
  9. Tristan and Isolde, Prelude (Wagner)
  10. Impromptu (Chopin)
- etc.

これらの中には、クラシック、ジャズ、など色々混然と入っているが、私は1応、クラシックばかりと、ジャズばかりとに分けた方がよいと考えている。

構想予見: ① Themes としては、音楽、楽音及び楽音の音、(場合によっては具体的な騒音) などを含むべきであるが、それと Group 別または、テストの種類別におすべきである。

② 性格または Personality と表現するものとしては、Capurso のような感情体験的なものから、その type をきめるべきであるが、その前段階としては introvertive と extrovertive のようなものをも用いることも必要でないと思う。

# パーソナル・サービスにおける性格検査の試み (IV)

太田垣瑞一郎 斎藤幸一郎 吉田俊郎 山崎恒夫 平野 馨  
(慶應義塾大学)

前回の本学会大会で発表したごとく、項目の相互相関が±0.2以上の項目群(クラスター)を決定する方法にしたがって検討を行なった結果、男子については16クラスター、女子については14クラスターを作成することができた。そこで各クラスターを一応それぞれ独立の性格特性と考えて、この資料を基に、因子分析を施行した。

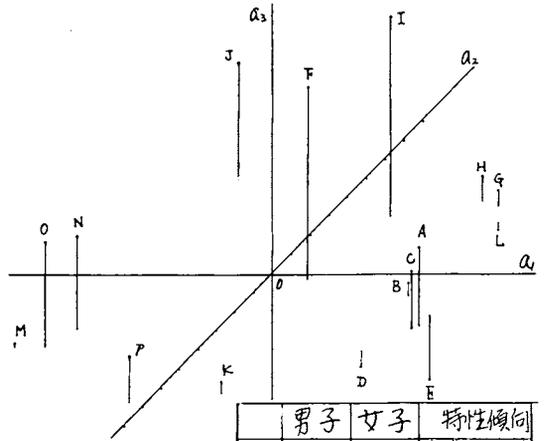
方法: 資料  $X_{ip}$  (但し男子  $n=16$ ,  $p=400$ , 女子  $n=14$ ,  $p=400$ ) について、特性間の相関行列を求め、ベクター・アナリシスにしたがって、相関値  $R$  の固有値、固有ベクトルを求めた。因子行列は、固有値の大きい順に一応4個までをとりあげて検討することとした。結果は第1表の通りである。

第1表  
因子行列

	$a_1$	$a_2$	$a_3$	$a_4$		D
A	.76	-.27	.29	-.02	.7350	.86
B	.61	-.11	.05	.45	.5892	.62
C	.74	-.28	.21	.19	.7062	.82
D	.64	-.40	-.06	.33	.6821	.76
E	.76	-.22	-.14	.27	.7185	.80
F	.16	-.03	.72	-.21	.5890	.74
G	.62	.36	.06	.16	.5432	.72
H	.54	.38	.09	.03	.4450	.67
I	.22	.33	.73	-.07	.6957	.83
J	-.47	.50	.43	-.18	.6882	.81
K	.25	-.63	.04	-.47	.6819	.68
L	.71	.23	-.03	-.22	.6063	.75
M	-.64	-.37	.01	-.13	.5635	.74
N	-.54	-.29	.35	.46	.7098	.71
O	-.58	-.37	.38	.20	.6577	.79
P	-.04	-.68	.17	-.19	.5290	.70
%	5.0612	2.2757	1.7002	1.1026	0.1397	
%	31.63	14.22	10.63	6.89		

第1表の結果にしたがって、特に各特性の方向性を重視し、第1図のごとく、方向が同じ性格特性同士を1つの因子とした。また、第3次元でとどめたことは、因子抽出率が10%を超えるものまでとしたことによる。第3次元までは、男子は56.48%、女子については56.19%の因子が抽出されている。

第1図



第2表

	男子	女子	特性傾向
I	A B C	AE BL C	感情が動機 陰うつ 気になる
II	M N O	IN J K	社会的 能動的
III	K P	D	暗示的
IV	J	H	根気がある
V	F	F	冗帳面
VI	I	G	非行動
VII	G H L	M	躊躇 非決断
VIII	D		自信の欠如
	E		斤量

結果: 以上、第2表に、男子は8群、女子は7群の因子分類が考えられる。男女のまとまりがほぼ全く同一である。

東京都港區三田 慶應義塾大学 学生相談室

# 抽象的態度と具体的態度(その8)

水口 芳明  
(香川大学 教育学部)

目的: Goldstein の抽象的態度と具体的態度を検査する五種の検査を、同一の被験者に施し、正常児の抽象的態度の発達を明らかにしようとする。

方法: T幼稚園三年保育年長組の幼児に色分類検査、色形分類検査、事物分類検査、立方体検査、棒検査の五種の検査を実施した。

結果: 色分類検査において、実験Iから実験IIIまでの15項目の問題のうち、8項目以上と抽象的態度をとつたものを、精神年齢別に整理すると、第一表のようになる。M. A. 7才以上と6才以下との間に有意差がみられた(P<.01)。

第一表

	M. A.	8才	7才	6才	5才	計
抽象的態度		3	4	1	2	10
具体的態度		1	11	15	6	33

色形分類検査において、実験IおよびIIにおいて解決できたもの、すなわち自発的に転換できたものを、精神年齢別に整理

第二表

	M. A.	8才	7才	6才	5才	計
解決できたもの		6	9	5	0	20
できないもの		3	6	11	3	23

したのが第二表である。全体として(P<.01)、7才と6才との間にも差がみられた(P<.01)。

事物分類検査においては、実験IIIつまり強制条件下における分類原理発見の正答を、精神年齢別に整理したのが第三表である。

第三表

	M. A.	白	円	煙	金	木	計	正答平均数			
分類原理		14	4	5	6	1	3	22	4.57		
何問に		6	2	2	4	6		12	0.58		
正答した		5	5	1	1			2	0.4		
たものを		3	1					0	0		
精神年齢別に整理したものが		計	4	2	6	10	13	13	3	36	0.86

一人平均の正答数をみれば、発達の傾向がみられる。さらに一人ご

ごの正答数をみると、五問、四問、三問、二問、一問の間に有意差がみられる(P<.05)。これはM. A. 7才と6才との間に差があるからである(P<.05)。次に実験I

II IIIを通じて答が抽象的だった数を精神年齢別に集計し、一人平均の抽象的答の数をみると、M. A. 7才で7.1、6才で6.7、5才で3.6で、発達がみられる。

次に立方体検査において、12問題に対し抽象的に解決したか、具体的に解決したかを、精神年齢別に整理したのが

第五表

		M	F	M+F
表である	M. A.	A C 計	A C 計	A C 計
	男児全体として	9才 29 7 36	65 19 84	94 26 120
発達の傾向がみられ	8才	54 18 72	27 9 36	81 27 108
	7才	78 18 96	35 25 60	113 43 156
(P<.01)、7才と6才との間に差がみられた	6才	23 25 48	19 27 48	42 54 96
	5才	35 13 48	3 9 12	38 22 60
計		219 81 300	149 91 240	368 172 540

の間に差(P<.001)、7才と6才以下との間に差がみとめられた(P<.001)。女兒も全体として発達がみとめられた(P<.001)、7才と6才との間に差がみとめられた(P=.05)。男女全体として発達がみとめられた(P<.001)、7才と6才との間に差がみとめられた(P<.001)。男女間に差があり(P<.01)、男児は女児より幼時において既により抽象である。

最後に棒検査において、模写の誤り、再生の誤り、一人平均の模写、再生の誤りを精神年齢別に整理したのが第六表である。精

第六表

	M. A.	N.	模写	一人平均模写	再生	一人平均再生	一人初全
誤り							
7才	18	20	1.1	3.2	1.8	2.7	
6才	23	52	2.3	8.3	3.6	5.7	
5才	2	7	3.5	1.2	6.0	9.5	
計	43	79		127			

神年齢による発達がみられる。模写の場合M. A. 7才と6才との間に差があり( $\chi^2=11.07$  P<.01 修正 $\chi^2=9.507$  P<.01)、再生の場合も差がみとめられた(P<.05)。

考察: 五種の検査のいずれにおいても発達傾向がみとめられ、いずれの検査においてもM. A. 7才と6才との間に有意差がみとめられた。

# 虚偽発見検査における呼吸波についての研究

中尾 勢津夫  
(兵庫県警察本部 科学捜査所)

目的: 虚偽の返答をしたために起る呼吸波の反応の解釈については、基線の変化、抑衝、混乱、呼吸吸気率などをもつて判定の基準としてきた。その判定にあたっては、多くは見かけによる変化を判断するもので検査者の主観と経験によるものである。そこで、より客観的でしかも数量的判定基準となり、実際場面でもうそ発見の判定基準として作用し、信頼性、科学性があるか検討を試みた。

亦云: (1) 資料は最近二年間に兵庫県で実施した虚偽発見検査で、クロウ者(検査時点でうその返答をし、裁決質問に特異反応を示す) 4名 と シロウ者(真実の返答をなし、裁決質問に特異反応を示さない) 4名 計8名を対照とした。(2) 1人の被検者には二系列の緊張最高点質問表をとり上げ、一系列の緊張最高点質問表では正順に質問したものと、逆順又は不規則順に質問したものと二通りのとうとった。質問を始めてから1分間の反応を、その質問に対する反応時間とみた。(3) 非裁決質問の数は、裁決質問の前と後、両質問と計測し、相加平均した。(4) 非裁決質問と裁決質問で除した数値の100分率を、その質問表の反応率と仮稱し、分布表作成の基礎とした。

$$\text{反応率} = \frac{\text{非裁決質問}}{\text{裁決質問}} \times 100$$

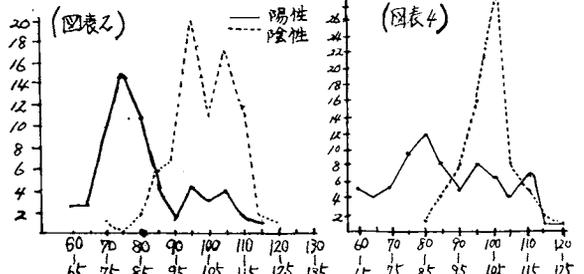
- (5) 陽性集団と陰性集団の反応率を比較するたの次のグラフの指標と分析の対照とした。
- ① 反応量(反応面積の和) …… 図表Ⅱ。
- ② 反応回数(呼吸の回数) …… 図表Ⅲ。
- ③ 反応強度(反応波形の高さ) …… 図表Ⅳ。
- ④ 反応強度の差(波形の山の最高点と最低点の差) …… 図表Ⅴ。

経過: 先ず反応率をもつて陽性集団と陰性集団の間に差異をみだらうと検討するたの名指標別の計測度数表を作成した。次に各指標ごとに陽性集団と陰性集団を比較するヒストグラムを作成した。(図表Ⅱ～図表Ⅴ) これら図表のうち反応量、反応強度をホシた両グラフに有意な差があるようなピークがみられ

るので、これらについて分析した。

(表1)

指標 反応率	陽性		陰性		陽性		陰性	
	反応量	反応回数	反応強度	強度の差	反応量	反応回数	反応強度	強度の差
60以下	10	4			17	19		
60.1 — 65.0	3		5		3	3		
65.1 — 70.0	3		4		8	5		
70.1 — 75.0	10	1	5	1	3	5		
75.1 — 80.0	15		2		4	5		
80.1 — 85.0	11	2	5	1	2	2		
85.1 — 90.0	5	6	6	4	1	1		
90.1 — 95.0	2	7	11	7	3	2		
95.1 — 100.0	5	20	23	27	1	6		
100.1 — 105.0	3	11	7	11	2	2		
105.1 — 110.0	4	17	5	15	2	3		
110.1 — 115.0	2	12	8	7	2	5		
115.1 — 120.0	1	2	1	3	2	1		
120.1 — 125.0	3	1	1		2	1		
125.1 — 130.0	1				2	1		
130.1 — 135.0				1	2	1		
135.1 — 140.0					2	3		
140.1以上	2	1	2	3	22	16		



結果: (1) 反応量に関する図表Ⅱに於いて、陽性群は反応率が100以下のものが80%を占め、中でも70~85のものが、45%を占めている。陰性群は波形がややゆるいずれた曲線となり、分散の検定で有意な差と認めWelchの方法で平均値の差の検定を行うと  $t=2.25$  となり、自由度45 (危険率5%) における  $t$  の値より大となり平均値の差に有意な差が認められた。(2) 反応強度に関する図表Ⅳに於いて、陰性群は反応率85~105の間に89%のものが集り、75~105の間に56%が集中している。分散比では有意な差は認められなかつたが、平均値の差の検定で ( $t=5.26$ ) はつまり有意な差が認められた。

## ステーション・イメージの因子分析的研究

金子信光  
(北九州大学 心理学)

山本文夫  
(RKB毎日放送 調査課)

目的: 近年、モティベーション・リサーチの研究と共に、いわゆるイメージの購買行動に及ぼす影響が大きな内題として、クローズアップされてきた。

ステーション(放送局)も企業であるからには、ステーション・イメージの内題も、それらの当然で、局に於けるイメージは、企業の商品ともいって普遍的な視察行動、その他種々のマーケティング内容についても、ある程度影響を及ぼすであろうことが考えられる。そこで、一定の尺度を用いて、各ステーション・イメージを測定し、それらのイメージを構成している基本的因子について分析を行ない、ステーション・イメージを説明しようとするものである。同時に、それらのイメージ因子と、現象の事象としてのテレビ視聴行動との連関についても分析を行なうことを目的とした。

方法: イメージ測定には、多くの心理学的測定法があるが、ここでは、14の項目からなる評定尺度を用いて測定を行なった。(各項目は、示すかいいいふかいいくないかという二つのカテゴリからなる。)

調査は、福岡市に居住する15~29歳の男女149人を対象に、電話法による個別面接調査による、2実施した。サンプリングは、国勢調査区から無作為2段抽出法による。調査期間は、結果へおたよりを防ぐため「統計調査研究会」の名称を用いた。調査実施は、41年12月。

調査結果についての因子分析は、Centroid Methodによる、2行5列(計算は、電算機OKITAC 5090Hで行なう)、回転法は、直交回転による。

結果: 14項目からなる評定尺度の因子分析の結果は、次表に示すように、3因子までで全分散の92.2%(NHKの結果)あり、26.5%(RKBの結果)を占めることが理解された。この3因子は、NHKに於ける評定及び、RKBに於ける評定のいずれの結果にも

いとも、殆ど同じ構造を示しており、イメージ空間を規定する基本軸は、いずれの局も同じものであることが認められた。

このイメージ空間を規定する各因子は、それぞれ次の項目に高い寄与量をもつた因子からなる。

因子1 = 娯楽因子

(項目) 楽しい、親しみ易い、面白い、明るい

因子2 = 权威因子

(項目) 力強い、堅実な、权威がある、伝統がある、知的な、大まかい

因子3 = 信頼因子

(項目) 信頼出来る、情報に正確、役に立つ、影響力がある

以上の因子を軸としたイメージ空間における各放送局の位置は、NHKが、最も離れた空間に位置し、他のRKB、KBC、TNCは、ほぼ一定の位置に居た。このことから、ステーション・イメージ、NHKが他局と異なる点に考慮されることが、図表の中にあり、RKBは、各因子とも(特に因子1)相対的に高い評価値を示していることが指摘された。

表. RKBに於ける因子寄与量 (回転後)

評定尺度項目	A1	A2	A3	A4	$\chi^2$
1 明るい	.467	.097	.062	-.228	.367
2 大まかい	.302	.529	-.041	.121	.488
3 情報に正確	.257	.279	.510	.009	.444
4 楽しい	.684	.091	-.032	-.218	.527
5 权威がある	.251	.450	.365	.166	.445
6 親しみ易い	.692	.018	.121	-.066	.531
7 伝統がある	.315	.602	.147	.178	.561
8 堅実な	.312	.595	.287	-.131	.589
9 力強い	.323	.500	.296	.102	.477
10 役に立つ	.299	.323	.443	-.110	.436
11 面白い	.585	-.038	.141	-.270	.497
12 知的な	.322	.314	.555	.060	.588
13 信頼出来る	.280	.314	.610	-.150	.612
14 影響力がある	.151	.330	.528	-.072	.489
$V/\chi^2 \times 100$	33.3(%)	27.8	25.4	4.6	$\chi^2 7.009$

# 白色(光源色)の弁別閾の検討

本城 和夫

(日立中研)

絶対判断で白色と感じる部位を求めると、32回大会でも報告したように色度図上である面積を有し、観測者によってその位置が異なることは容易に予想される。

一方、このような白色感域と色味の存する部位との境界は線ではなくある幅をもった環状を有すると考えられるので、この問題につき検討を行なった。

目的: 正面中央視野2°に呈示される刺激光がxy色度図上で直線的に変化する場合に、白色光と色光との弁別閾を定める。

方法および手続: 3個の電球にそれぞれ赤、緑、青の色ガラスフィルタを組合せた色光で、きせガラスを同時照射し刺激光を得る。この場合、2つの原色を一定の輝度比で固定し、残りの1つの原色の輝度を変数とすれば、色度図上の刺激光の軌跡は直線となる。したがって、赤、緑、青の原色を変数とした軌跡がそれぞれ必ず白色の部位をもつとすれば、刺激光の色の変化は赤-白-青緑、緑-白-黄、青-白-黄に大別できる。そこで、あらかじめ、必ず白色の部位を有するように刺激光の軌跡を検討し、順次、特定の軌跡上で、

“始めて白色を感じる点”および“始めて色味を感じる点”を求めた。すなわち、輝度の高くなる方向を上昇系列、低くなる方向を下降系列として各系列において“始めて白色を感じる点”および“始めて色味を感じる点”を5回づつ求めた。

結果: 刺激光の色度を算出するにあたって、刺激光の輝度は電球位置20mm間隔で測定した各原色光の輝度の値をもとにして、それぞれLagrangeの補間公式によって1mm間隔に補間して求めた。そして、互いに異なる系列の白色反応点と色味反応点の平均値を白色点とし、この白色点の標準偏差をxy色度図上の距離で求め、次に弁別閾(0.6745×6)を算出した。白色光と隣接する色光を6種類に大別して弁別閾の平均を求めたものを図1に示す。観測者別に図示した4回周辺視野を照明した場合の弁別閾は青-白-黄の系列が大きく、赤-白-青緑の系列は小さくなっている。一方、周辺視野を電球光で照明した場合の視野の輝度は4.0 asbであるが、2名の観測者では赤-白-青緑の系列の弁別閾が大きくなっている。なお、白色近傍の輝度を2.0 asb前後にするようにあらかじめ定められた実験係上、輝度変化の影響は僅かと考えて無視した。

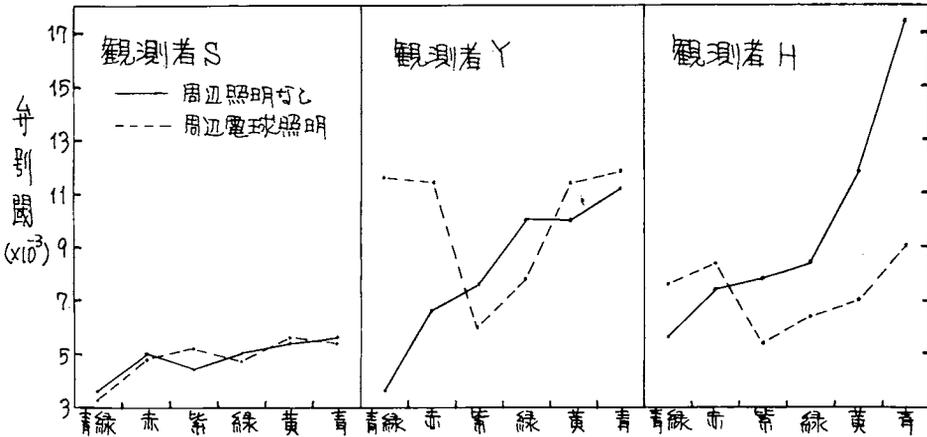


図1 白色光と色光との弁別閾(xy色度図上の距離)

東京都国分寺市東恋分産, 日立中研

# メントールの清涼感に関する研究(第2報)

— 光学異性体と清涼感尺度 —

○ 梅沢伸彥

浅井正昭

(サンスター歯磨研究開発部)

(日本大学文理学部)

**〔緒言〕** メントールの清涼感<sup>1)</sup>は歯磨をはじめ薬品、食品その他多くの商品にとって欠かせない要因である。今回は清涼感を規定しているメントールの光学的特性をとりあげた。光学的にみてメントールには光学異性体d体とl体の2種があり、経験的にl体はd体よりも明らかに清涼感が強いといわれている。そこで、l体、d体の混合物を変数として、清涼感の尺度化を試み、代用特性を求めるためのデータが得られたので報告する。

**〔実験〕** 本実験のデータは昭和42年5月～8月、サンスター歯磨研究開発部心理実験室ならびに嗜好実験室にて得たものである。

1. 尺度構成法: Constant-sum method.

2. 試料: d-メントール [d]<sub>0</sub> + 47.6, l-メントール [d]<sub>0</sub> - 48.0 の比率を 0:100, 20:80, 40:60, 60:40, 80:20, 100:0 とし、最終メントール濃度を 0.008% にしたものを試料として用いた。

3. 提示条件: ① 2% と他との一対比較を行ない、等分割点をもった 10 cm の線分上に 2% との比較値をプロットさせた。R<sub>ji</sub> 値の算出は Constant-sum method の集計法に準じた。なお、2% 同士の比較を行ない、R<sub>ji</sub> 値が必ずしも 1.00 にならないので、その比較値を個々の R<sub>ji</sub> 値から引いたものを R<sub>ji</sub>' とし最終的な尺度値とした。② 試料を約 5 cc 口中に含み、含む時間は被験者の自由とし、判断できたらはき出すよう指示した。次の比較との間隔は調査経験者およびそれに準ずる群(専門家群)は約 1 分、素人群では約 3 分間とした。

4. 被験者その他: 専門家群 5 名(女子 1 名)、新入社員を中心とした素人群 11 名(女子 5 名)で、前者は 5 回試行、後者は 3 回試行。なお実験時刻は食前食後をさせた。

**〔結果および考察〕** 1. 専門家群 5 名各 5 回の平均 R<sub>ji</sub> 値を示すと表 1 のとおりである。

表 1. 専門家群

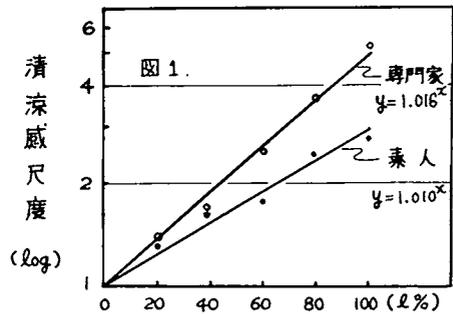
2%	20	40	60	80	100
T	6.95	8.30	12.39	18.12	26.37
X	1.39	1.66	2.48	3.62	5.27
SD	0.16	0.18	0.48	1.11	1.45
CV%	12.5	10.8	18.6	30.6	27.5

2. 素人群 11 名各 3 回の平均値を示すと表 2 のとおりである。

表 2. 素人群

2%	20	40	60	80	100
T	42.93	52.08	57.67	81.33	98.51
X	1.30	1.60	1.75	2.46	2.68
SD	0.84	1.31	0.91	1.62	1.79
CV%	64.6	81.8	52.0	65.9	73.5

3. 専門家群および素人群の清涼感尺度を示すと次の図 1 のとおりである。



d-メントールのみ(2%)の場合の清涼感を 1 と定義すると、図 1 に示されたように両群の尺度は共に対数関数になった。すなわち、清涼感の強さの対数は光学異性体の 2% (比差光度) の関数であった。この関数関係は Stevens たちが ratio-method で構成した多くの感覚尺度の関数とは異なっている。専門家群と素人群との尺度勾配の差は刺激系列間の識別度を示すものと考えることができる。なお、両群の CV 値を比較すると、素人群の値は非常に大きくなっている。

多大なご助言、ご指導をいただいたサンスター歯磨研究開発部薬理課に感謝いたします。

(連絡先) 大阪府高槻市朝日町 3-1

# 購買動機に関する研究

(1) カラーテレビに関する調査

前田嘉明 難波精一郎 吉田光雄 小阪久美 山本勝彦  
(大阪大学 心理学研究室) (株式会社 萬年社)

目的：我々の研究グループで行なっている購買動機に関する一連の調査のうち、今回はカラーテレビに関する研究報告するものである。カラーテレビの普及台数は昨年末で約30万台と推定され、その普及率はまだ数%にすぎない。カラー放送が始まってからすでに7年が経過し、年々放送時間が延長されつつある今日、カラーテレビに対する一般の関心はかなり高まっているものと思われる。こうした時点において消費者はカラーテレビに対していかなる考えか、見直しを持っているかを調べるのが本調査の目的である。

方法：カラーテレビに関する質問紙を大阪市内の白黒テレビ所有世帯の主人・主婦450名(回収384)に配布し回答を求めた。調査の実施期日は、昭和41年10月21日～27日、質問紙の構成は、(1)テレビ全般に関する意見調査、(2)テレビの視聴習慣、(3)カラーテレビについての関心度、(4)カラーテレビとその総合商品のイメージ、魅力度、(5)カラーテレビに関する意見調査、(6)テレビの購入、所有に関する実態、(7)カラーテレビの視聴経験、(8)カラーテレビに対する欲求、購入意向、購入阻害要因等であった。

結果：調査結果のうち主要点についての概要報告する。詳細は萬年社発行「アド・リポート」51号、52号、53号を参照されたい。

## I カラーテレビに対する意見

カラーテレビに対する意見項目の反応を総合してみると、先ずカラーテレビそのものに対しては一般に好意的な見方が多い。すなわち、カラーテレビは見ていて非常に楽しいと思ひ、単に白黒テレビに色がつかないだけのものという見方は少なく、その将来性についても、将来我国で非常に普及するであろうという見通しを持つものが非常に多い。しかし、現在のカラーテレビについて2つの問題が多く、その第一は値段の高いこと

である。次いで色で、現在のものも十分美しいと評する見方は少ない。さらに放送についても、カラー番組が少ないのだからカラーテレビを買ってしまふまいという意見がかなりあった。従って、将来の見通しについても、すばらしい商品だからなるべく早く買う方がよいと思うものもほとんどなく、多くは将来ますます性能がよくなり、値段も安くなるであろうから今買うのは損だ、という買控への気持が強い。

## II カラーテレビの視聴経験

カラー放送の視聴経験者は87%にも及んでいるがほとんどは飲食店、喫茶店、ショールーム等で、しかも1回30分以内が多い。その色彩が美しく感じられるものは約60%、美しくなかったりするものは約30%で、見込時のカラーテレビの色は何に近かったかでは、天然色映画、雑誌のカラー写真、映画のポスターという好意的な見方は40%。一方、新聞のカラー写真、素人のカラー焼付写真という不評は約60%で、結局カラーテレビの色彩は十分美しいとは思われていないようであった。

## III カラーテレビの購入意向に関する多重回帰分析

カラーテレビの購入意欲( $Y_1$ )、購入意向( $Y_2$ )、購入予定時期( $Y_3$ )を各目的変数とし、調査項目全体から10個の指定変数を選び、

$$Y = a_0 + a_1 X_1 + a_2 X_2 + \dots + a_{10} X_{10}$$

なる多重回帰式を求め、最小自乗法で解いた。その結果、 $Y_1$ 購入意欲に高い係数は、 $a_7$ カラーテレビの視聴意欲、 $a_6$ 色の美しさ、 $a_3$ 賢賢、買増予定、 $a_8$ 希望購入価格等、 $Y_2$ 購入意向では $a_7$ 視聴意欲、 $a_7$ 希望購入価格  $a_9$ 耐久消費財所有数、 $a_4$ 視聴回数等、 $Y_3$ 購入予定時期では、同じく  $a_7$ 、 $a_4$ 、 $a_9$ 、 $a_3$  等が高い係数となっており、予割に際して重要な変数となっている。又、重相関係数は、 $R_1 = 0.6449$ 、 $R_2 = 0.5673$ 、 $R_3 = 0.5777$  である。

# 購買動機に関する研究

## (2) カラーテレビの色の美しさに関する実験

前田嘉明 難環精一郎 吉田光雄 小夜久美 山本勝彦  
(大阪大学 心理学研究室) (株式会社 萬年社)

目的：前報告カラーテレビに関する調査は、カラーテレビは見て楽しいものであり、将来非常に普及するであろうという見方が多かったが、反面その購入に際しては、値段が高い、色がまだ十分美しいとはいえない、放送番組が少しいいマイナスの要因も多くなることがわかった。カラーテレビはその名の如く番組がカラーで見られるのが商品特性であり、カラーの良し悪しが欲求や購入意向に影響を与えることは十分考えられる。そこで我々は、次いでカラーテレビの色条件の違いが、それを視聴した時の心理状態にどのような影響を及ぼすかということに付いて実験を行った。

方法：カラーテレビ視聴実験前に、今まで視聴したカラーテレビについて質問A・Bを実施、次いで色のよくないカラーテレビ>で1局の30分番組を見せ、その後質問A・Bを実施、さうして色のよいカラーテレビ>で1局の45分番組を見せ、その後質問A・Bを実施した。

ただし、色のよいカラーテレビとは、専門の技術者により完全に調整されたテレビ、色のよくないカラーテレビとは、調整系統の色が正しくないように調整されたテレビをいう。又、質問Aは、カラーテレビを見た時の感じを評定尺度で調べるもの、質問Bは、色に対する評価、カラーテレビに対する意見、それに対する欲求、購入意向、購入阻害要因等を調べるものである。被験者は京阪神に住む年収100万円以上の世帯の主人主婦17名、実験期日は昭和42年2月19日(日)午後6時～9時であった。

結果：実験結果の概略は以下の通りである。

### I カラーテレビを見た時の感じ

色条件の違いが見た時の感じにどのような影響を及ぼすと、全体では色のよくないカラーテレビより過去経験の感じの方がよく、さうにそれより色のよいカラー

テレビに対する感じの方がよくなっている。(サインテスト1%で、色のよいCTV>過去経験>色のよくないCTV) すなわち、今まで見たカラーテレビは自然に、調和のよい、すっきりとした感じという点ではあまりない評価は受けていないが、楽しさ、魅力、興味の点でかなりよく評価されている。しかし、色のよくないカラーテレビを見せると、楽しさ、魅力、興味がぐんと下り、色についてもさびしい、不快だというマイナスの反応が出現した。ところがさうに色のよいカラーテレビを見せると、楽しさ、明るさ、華やかさ等が特によく評価され、興味、関心も強められた。色条件の良否がそのまま心理的評価にもつながり、見た時の楽しさ、楽しさは、カラーテレビに対する興味、関心と強く結びついていることが明らかになった。

### II カラーテレビの色に対する評価

実験に入る前の過去経験では、かなり美しく感じたが53%、あまり美しくなかったが47%であったが、色のよくないテレビを見込後は、かなり美しく感じたが24%に減ってしまつた。しかし、その後の色のよいカラーテレビを見込後は、非常に美しく感じたが24%、かなり美しく感じたが76%で、美しくなかったという否定的な評価は皆無となった。そして、天然色映画、雑誌のカラー写真に近いという評価を得た。

### III カラーテレビの購入意向

色のよくないカラーテレビを見込かきつて購入予定時期が特に遅れることはないが、色のよいカラーテレビを見込後はそれが若干早くなり、カラーテレビが欲しいという欲求も一段と強くなるようであった。そして、購入阻害要因としての色は、完全に調整されたカラーテレビの場合にはほとんど問題にならないうようであった。

(連絡先) 大阪市東区高麗橋5丁目35 萬年社  
心理学実験室 TEL. 06-202-2212

## 職業訓練生の選考について。

松本 洋  
(雇用問題研究会)

目的：最近の公共職業訓練所入所志願者は中卒者だけでなく、高卒者も相当数にのぼるようになった。しかもこれに対して課する入所試験の程度は中卒程度であるために、高卒者に当分の利となり、素質的にはより優秀な中卒者の入所が阻まれる状況になった。これが対策として、真に職業訓練に適した者と公正に選抜する方法として、職業適性検査を使用し、職種別合格規準を設定しようとした。これに併せて、労働省が制定している適取判定規準の可否を検討しようとした。

方法：使用職業適性検査は労働省編一般職業適性検査(加E)、毎年入所試験時に学科試験と同時に全志願者に検査のみを課し、入所者に対しては入所後に器具検査を課した。2カ年の訓練期間修了時の学科成績と実技成績とを別々に報告させ、これらと入所当時における職業適性検査成績との相関研究を行なった。学科成績、実技成績の別に修了生を上、中、下に3等分し(3等分できないときは中群を調整する)、上群と下群との適性検査成績の差が有意義である性能検査項目を選んじ、当該訓練職種に必要な性能とし、各性能とも上群の下位25%位を合格規準と定めた。そして、選定された全検査項目の70%(2項目以上5項目)を通過した者を合格者とすることにした。

いくつかの訓練職種と職種群にまとめてあるのは、5年間の資料の集積であるが、なお被検者が少数のためである。

結果：電気関係(電気、電気機器修理、電子機器修理)……学科・G 90, V 80, N 90, Q 90の3項目以上合格する=と、実技・G 90, V 80, N 90, Q 90, P 90 T 80, M 90の5項目以上合格すること。

自動車・内燃機関修理……学科・G 100, V 90, N 90の2項目以上合格する=と、実技・S 80, T 90 M 90の2項目以上合格すること。

機械……学科・G 90, V 80, N 90, S 90, 全項目合格する=と、実技・G 90, N 90, S 90, P 90 M 90の4項目以上合格する=と。

板金・溶接……学科・G 80, V 80, N 90, S 90, P 80の4項目以上合格する=と、実技・G 90, V 80, P 80の2項目以上合格する=と。

機械製図……学科・G 100, V 90, N 90, S 90, P 90の4項目以上合格する=と、実技・G 100, V 90, N 90, S 100, P 90, F 80, M 90の5項目以上合格する=と。

建築大工・木工……学科・G 90, V 80, N 80, Q 80, P 80の4項目以上合格する=と、実技・G 90, S 90, P 90の2項目以上合格する=と。

塗装……学科・G 90, V 80, N 90, Q 100, P 80の3項目以上合格する=と、実技・N 90, Q 80, S 90の2項目以上合格する=と。

(註) (1) 学科と実技とに対して別々に適取判定規準が作り出しているのは、学科成績と実技成績とが必ずしも一致しないためである。

(2) したがって、実用のために学科と実技との判定規準を一本化するとは可能である。

(3) 学科成績を考慮するため、G, V, N, Qが採り上げられる。

(4) 実技成績に付しても、被検者がまだ実務に付いたというわけではなく、学習中、訓練中であるから、矢張りG, V, Nなどの知的性能が主として考慮されることになる。

(5) 労働省制定の適取判定規準に照らしても、訓練生は修業中であるために、知的性能に重きが置かれ、手眼、指頭などの運動機能が軽視される。労働省の規準の誤りとみざるを得ず、訓練生を対象とする結果とみざるべきであろう。

(東京、千代田区神田須田町1の28、雇用問題研究会、調査相談部)

# 商品のイメージに関する研究(Ⅰ)

## —「中古車」の呼称について—

妻倉昌太郎、村井健祐、岡部 勇  
(日本大学文理学部) (梅光女学院大学)

目的:「中古車」と「中古車」にかわる新しい呼称とについて、SD法を用いて測定したイメージを、「新車」「外車」「国産車」について測定したイメージと比較考察することによって、新しい呼称を採用する一つの手がかりを得ようとする。

中古車を購入する者も、また中古車を主として扱うセールスマンも共に、「中古」という語の響きに、新車に対する何らかの「ひけ目」を感じているといわれる。このようなことから、一部の会社においては、すでに「中古車」にかわる良いイメージを持った新しい呼称が採用されつつある。

われわれは、こうした新しい呼称を採用する際、良し悪しを決定する一つの手がかりを、各呼称のイメージの占める意味空間上の位置から得られるのではないかと考えている。

方法:(1)SD法を用い、「中古車」「新車」「国産車」「外車」をコンセプトとし、イメージを測定した。被験者は、大学生1年、男女、10名である。

(2)中古車にかわる新しい呼称を大学生から求め、集まった約150のうちから、8つを選んだ。

(3)この8つの呼称—「エコノミック・カー」「レジャー・カー」「整備車」「セミアールド・カー」「再新車」「下取り車」「家族車」「ユースト・カー」—についてSD法を用いイメージを測定した。

(4)測定した各呼称(コンセプト)のイメージを、意味空間上にプロットした。

結果:第1表に示す通りである。意味空間図は省略する。

第1表:各呼称のファクター・スコア

	中古車	新車	外車	国産車	ユーストカー	再新車	下取り車	レジャーカー	エコノミック	セミアールド	家族車	整備車
E	0.2	1.6	1.2	0.8	8.5	0.8	-0.3	1.2	1.9	0.8	0.8	-0.9
P	2.0	0.0	-0.1	-0.4	-7.5	0.5	-1.9	-0.8	-0.3	-1.8	-9.4	2.2
A	1.1	-0.8	-1.1	-0.1	26.0	4.0	3.1	2.3	-1.1	-2.0	-17.3	-11.5

①自動車に関して従来から使われていた各種の名称(中古車、新車、外車、国産車)は、中古車を除いてほぼ一群をなしている。(意味空間上において)

②新しい呼称は、これら一群からとみ離れていて、しかもその位置は、互いに無関係な群をなさない。

③新しい呼称のうち、エコノミック・カーとセミアールド・カーの二つのみは、前記の一群にやや近い位置を占めている。

考察:①新車、外車、国産車の一群から、中古車のイメージかとみ離れて位置していることは、一般に言われているような「ひけ目」の表われであるとは言えないまでも他の三つに比して何らかの特別なイメージを持たれているものであるといえよう。

②新しい呼称の多くが、互いに無関係に、しかも上記一群から離れていることは、聞きなれない呼称であるということから来るイメージの確立の不十分なことによるものであろう。そしてこのことは、従来のイメージからあまりかけ離れているという点で、これら新しい呼称は「中古車」にかわるものとしては、不適ではないかと考えられる。

③エコノミック・カーとセミアールド・カーの二つが、同じ新しい呼称でありながらも、互いに近く、しかも上記の一群とやや近い位置を占めているのは、新しい呼称として採用しうる適格性の一面を示しているように考えられる。

[連絡先 東京都世田谷区桜上水3-25-40  
日本大学文理学部心理学研究室]

## 購入選択とパーソナリティ

佐久間章  
(九州大学教養部)金子信光  
(北九州大学)

目的：商品の購入選択にあたって、ある特定のブランドないし店舗に固執する傾向が、購入者の側のいかなる心理的要因によって左右されるかを知ることが、効果的なマーケティング活動を遂行する上に重要なポイントになると思われるが、本研究では、商品のブランドとその価格とが競合する事態における消費者の反応傾向と、購入態度に反映されたパーソナリティとの関連、ならびにブランドの選択傾向と同一の事態における店舗のそれとの関係を明らかにする目的で調査を行った。なお、この調査は昭和41年度に電通九州支社において行ったブランド・ロイヤルティとストアロイヤルティとの関係に関する調査研究の一部を構成するものである。

方法：調査員による戸別訪問の面接方式を用いた。本調査関係の調査票は2枚で、一枚は、洗濯用洗剤・コーラ飲料・歯みがきについて市場占有率の高い～3個のブランドを選び、各ブランドの間に仮想的な純粋の価格差を設けて、そのおのおのの場合にどれを選択するかを答えさせる場合、および福岡市市壱筆街に近郊デパートの特売場とニッパスーパーマーケットにおいて価格の同じあるいはそれぞれ異なる同一の商品を販売していると仮定して、どの店を選ぶかを答えさせる傾向とからなり、他の一枚は、買物の場面に関係のある種々の行動を表わした18個の傾向項目とフスケールの中から選んだ4項目とからなる。

調査対象：福岡市内に住む一般世帯の主婦を対象とした。被調査世帯の抽出は、電通九州支社のマスターサンプルから調査区と世帯とで二重にランダムに行なった。

調査時期：昭和41年9月

結果：商品の価格差に2段階を設け、より高価であるにもかかわらず同一のブランドないし店舗を選択した程度に応じて、ブランドないし店舗の固執傾向の得点を与えた。なお、ブランドについては、三種類の商

品について各個人の得点を総合して個人のブランド固執傾向得点とし、これを高、中、低の3群に分けた。高得点群は、2種以上の商品について2段階の価格差があるにもかかわらず同一ブランドに固執したものが少なく、低得点群は、価格差がある場合にほぼ常に安い方を選んだものが少なくなる。買物場面に関する質問項目中、70パーセント以上の被験者が肯定を定めたものの反応選択に集中した6問を除いた各項目について、高低両得点群における肯定反応および否定の反応の比率を求めた。その結果の一部を示せば、表1のようになる。

表 1

項目	肯定	高得点群	低得点群	全体	$\chi^2$	P
7	{ 肯定 39.8 29他 60.2	27.9	72.1	35.7	2.285	<.20
8	{ 肯定 49.5 29他 50.5	60.7	39.5	55.3	1.847	<.20
10	{ 肯定 64.5 29他 35.5	44.3	55.7	55.5	6.115	<.02
11	{ 肯定 46.2 29他 53.8	55.7	44.3	47.2	3.052	<.10
14	{ 肯定 57.6 29他 48.4	63.9	36.1	50.2	2.263	<.20
18	{ 肯定 71.0 29他 29.0	60.7	39.3	67.0	1.757	<.20

表1において比較的有意差が認められた項目は、10。(将来の家庭の計画をたて、空想におけるのが楽しみである)、11。(一つの品物を買うのになかなか決まらないうちを迷うことが多い)であり、個々の項目についてさらに検討しなれば、一般的に購入選択とパーソナリティとの関連を付けることは困難である。フスケールについては有意差は認められなかった。なお、ブランドと店舗との固執傾向の間には  $P < .001$  のレベルで顕著な関連が見出された。

# 工業化過程と価値意識(1)

武澤 信一

(立教大学社会学部)

**目的** この研究は、さまざまな工業化段階にある諸国につき、企業の管理者および労働者にみられる工業化に関連する価値意識の実態を検討しようとする。今回の報告は、その予テストまでの予報である。

**国際研究の問題点** この種の国際研究は、従来の研究にみられなかったさまざまな問題を提起する。

(1) 理論的枠組 言語・習慣・工業化段階を異にする各文化の分析枠組の方法論的相違、異質文化に共通な理論的枠組の設定、各関連科学間の相対的ウェイト、理論假説の精度の不足。

(2) 調査組織 リーダーシップの所在、集権と分権、研究者のステータスとその変動、研究能力と関心の調整、パースナリティ問題。

(3) コミュニケーション 研究用の共通言語、調査上の言語問題、地域的へだたりによるコミュニケーションの困難、研究期間調整の困難と長期化。

(4) 研究費 長期にわたる研究費の確保、費用算定の問題、白人報酬の調整、文部省科学研究費の国外使用制限。

これら問題の一部は、過去の国際研究の経験から分っていたので、事前に次のような方策を講じた。

(1) 調査組織の構成は、共通ディレクター2名(報告者と米国のA.M. Whitehill教授)のもとに、日・米・韓・印・比の各国より若年の研究者各1名を加えた。ハワイ大学東西文化センター高等研究所で1年間の共同研究を通じ、共通の理解を育てることに努めた。

(2) 研究方法の策定にあたっては、各国の文化的背景を反映する共同意思決定方式をとったが、十分とはいえなかった。そこで各国で予テストを実施し調整を行なった。本調査の実施は分権、集計は集権、分析は分権後集権の方法をとることとしている。

しかし依然としてコミュニケーションと研究費の問題については、問題が残っている。

**研究方法の概要** 調査方法については、次の方針

をとることとし、本調査にうつっている。

(1) 言語と方法 英語を共用言語とし、調査対象に於いて他の言語を用いる。対象は、母国・応答の可能性の真から、企業の管理者と労働者に限った。データ収集方法は、予テストの結果にかんがみ、面接・集団・郵送方式の併用をとることにしている。

(2) 価値意識の範囲 価値意識としては、現代の開発途上国における初期工業化過程に関連すると思われるものをえらび、30問を構成した。内容的には、(1)個人、(2)企業、(3)国家のそれぞれのレベルでの経済関連活動に3分してある。

(3) 価値意識のレベル 各問について2選択肢をもうけ、次の三つのレベルでの応答を求めている。(1)個人としての内的志向、(2)準集団の社会規範、(3)現実に発現する行動の予測。

**予テストの結果** 予テストの結果を方法的側面と内容的側面について述べる。

(1) 方法的側面 まず対象としては、日本(268名)、韓国(163名)、印度(150名)、フィリピン(120名)を用いた。その1/2が管理者、のこりが労働者である。面接・集団・郵送の各方法による比較を試みたが、データ収集方法による差はほとんどない。

(2) 内容的側面 応答の偏倚・識別力の不足のみられた質問項目は修正した。予テスト段階でみられたわが国のサンプルの価値意識の特徴は次の通りである。

(1) 生活態度として、あまりアサクセせず休みたい。  
(2) 実利主義的で、人格形成を忘れている。  
(3) 外国のものをとり入れ、古いものを捨てすぎている。

(4) 企業の中で自分の力で生きていくほかはない。

(5) しかし企業・上司にも一体感ほうずれている。

(6) 工業化は当然だが、社会開発へ目を向けよ。

(7) 政治には不信感・非民主性を感ずる。

(連絡先) 東京都墨田区西池袋3丁目 立教大学

# 神経症的パーソナリティに関する一考察

— 特に新入大学生の場合

(富±短大) 〇駒崎勉 (富±短大) 岡村一成

意図と目的：一口に不安の傾向とか神経症的パーソナリティといっても、その種類や発現機序は多様をさわめる。例えばかなり素質的因子をもつものが、たんなる環境異常に伴う情動障害に至るまで、そのおもむきには多様性を感ずる。ところでこの研究は、大学に入学したばかりの学生で、対人関係に著しい苦痛を感じると断言する者たちが、どんなパーソナリティをもっているか、その一面を探ろうとしたものである。この被験者たちは、とむかく毎日の通学に耐え、いわゆる病的な神経症患者は一応含まれていない。こうしたありきたりではあるが、極めて、多数、潜在している神経症的なパーソナリティは、とかくその特徴が見逃されがちである。しかしながら、一般に潜在した多数の不安に悩む人のパーソナリティを検証することはいろいろな点で意味深い。すなわち、軽度の神経症的な不適応者のパーソナリティを理解することは、典型的な真性の神経症者のパーソナリティの把握にもつながることであり、他方、実用的立場からすれば、社会に数多くみられるこの種のパーソナリティの診断は不適応発見と早期治療に役立ってであろう。本研究は上述のような意図から、ありふれた神経症的パーソナリティの特徴を探ろうとしたものである。

研究の手続：大学新入生男女283名に対して、Taylorの不安尺度検査を実施し、もつとも不安の強い14名のなかで、さらに大学に入って特に対人関係に著しい苦痛を訴えるものを10名抽出した。不安尺度の平均点は26.4である。これらの被験者に対し、ロールシャッハ検査を行った。

結果と考察：〇検査に表われた特徴をみると、(表参照) H反応の減少が特に目立つ。一般に不安の指標に使われているm, c, k, At, blなども、増加の傾向にはあるが、これらの指標は、被験者によって現われる場合と、そうでない場合があり、これらをもって、神経症的パーソナリティの本質を示すものとはいいが

たい。むしろ、これらの指標は、激しく活動する雲や煙のごとき、移り変わる情緒性、ゆれ動く不安を文字通りそのまま投影したものであり、いわば“症状の投影”である。従って、環境や内的状態などにより、出現したりしなかったりするサインともいえよう。しかしながらH反応はおもむきを異にする。ほとんど例外なく現われるH反応の減少は、そのまま人間関係に悩み、さらには人間関係を否定する神経症の本質を暗示するかのようである。とはいえH反応の減少が、たんに神経症患者にみられるような自閉性を示すわけではない。事実この被験者たちのように、たんなる神経症的なパーソナリティでは、むしろ人間関係の中に溺れ、あえて、そこに苦痛を求めているかのように思える。そこでH反応の減少は人間関係の否定も、また、そこにまでは至らない、たんなる歪をも含めて不適応の“本質を投影”したもののごとく思える。ところで、H反応の激減は神経症的パーソナリティのみならず、動機、原因の不明ないしは薄弱な凶悪犯罪者にもよくみられる。おそらくH反応の減少は、不適応者に共通したパーソナリティの特徴であり、ひろく不適応者の本質たる人間関係の歪を示しているように思える。

Rorschach Index in High Anxiety Group

Subjects				Rorschach Index							
No.	sex	age	Anx. Scale	m	c	k, Fk	At	H	pl	T.R.	
1	♀	19	22					-		-!	
2	♀	18	22	+	+	##		-			
3	♀	19	26	#		#	#	-	+		
4	♀	18	35		#		+	-!	+		
5	♀	18	32					-	+		
6	♂	18	24			+		-	+		
7	♀	18	25					-		-	
8	♀	18	37			+		-!	+	-!	
9	♀	18	19				+				
10	♂	21	22					-	+		
M.		18.5	26.4			+?	+?	+?	-!	+!	-?

連絡先 東京都新宿区戸塚町3丁目富±短期大学気付

# 潜在非行とマス・コミ(Ⅲ)

山根 薫  
(埼玉大学教育学部)

目的: 日本教育心理学会第7回大会, 日本応用心理学会第32回大会において報告した事実に関する最終結論として, 潜在非行におよぼすマス・コミの影響がどのようなものであるかを明らかにしようとする。

研究方法: マス・コミの影響としてテレビ視聴と不良雑誌の阅读とをとりあげ, それと20種の不良行為との相関を $\chi^2$ 検定によって推討した。

被験者: 4中学校1698人, 3高等学校936人の男女生徒を対象とした調査結果から学校別, 性別にそれぞれ100名ずつを無作為に抽出した。

結果の考察: 中学校, テレビ視聴と不良行為, 男で危険率/%をもって関係ありと認められるのは「喫茶店へ友達と入る」と歌謡曲, クイズ番組視聴との間, 「酒をのむ」と若い歌手の出演番組, 「カンニングをする」とクイズ, 「グループでけんかをする」と西部劇, 「異性と二人だけ遊んで歩く」と歌謡曲, ヒット曲, 「ナイフを持ち歩く」とキッス場面の多い番組, 「無銭飲食」と恋愛もの, 「家の金の持ち出し」とキッス場面, 「盛場うろつき」とクイズ, 恋愛場面, キッス場面, 「家出」と恋愛場面, テラテラ笑わせる場面のある番組などを視聴することの間においてである。その他になお5%の危険率で関係ありと考えられるものは21の場合がある。女では「家の人を黙らせて学校を休む」と西部劇, 「家出する」とテラテラ笑わせる番組の視聴との間1%の危険率, 5%では4つの場合に相関がみられる。逆に1%の危険率でその間の関連の否定されるのは「万引」とホームドラマの視聴との関係である。

不良雑誌との関係。男では「ヤング・レディ」をよむことと酒をのむ, 異性との文通, 「実話雑誌」と万引, タバコを吸う, 「笑の泉」とずり休み, 女では「ヤング・レディ」と異性との文通, 「裏窓」と異性文通, 「実話雑誌」と酒をのむ, 不良映画をみる, ず

り休みをする事とが, それぞれ1%の危険率で関連ありと認められる。5%では男で16, 女で17の場合がある。

高校生においては, 不良行為とテレビ視聴との間10.1%の危険率で「グループでけんかをする」と時代劇をみる事が深く関連しているといえる。ついで1%でその関係が肯定されるのは「異性交遊」「けんかして相手をやっつける」とそれと並品や賞金が出る番組をみる事, 「タバコを吸う」とキッス場面の多い番組を視聴することとの間においてである。2%では「タバコを吸う」と時代劇の間, 同じく5%で関連のみみられるのは, 9個の場合である。

ここどとくに目につくのは, 2%ないし5%の危険率で両者の関係の否定されるものが4個の対応であることである。女において1%で「酒をのむ」とボクシング, 2%で「カンニング」とボクシング, 「不良映画」と戦記もの, 5%で12個の相互関連がみられる。女で2%ないし5%で相関が否定される場合は16ある。

雑誌阅读と不良行為との関係を見ると, 男において「笑の泉」をよむことと異性との文通, 「実話雑誌」と喫茶店入り, 異性交遊, 不良映画, 「100万のよる」とグループでけんかをするとの間に1%の危険率で関連があるといえる。2%では「裏窓」と異性交遊, 「実話雑誌」と酒をのむ, 「笑の泉」と万引, 盛場うろつきとの間に相関がみられる。5%では8つの場合がある。女子においては, 1%では「モーターファン」とパチンコ, カンニング, 不良映画, 盛場うろつき「裏窓」とパチンコ, 酒をのむ, おどかし, カンニング, 不良映画, 「笑の泉」とパチンコ, カンニングとの間に, 2%で4個, 5%で9個の相関がみられる。

いずれが原因で結果であるかを断定はできないが, ことにみた結果によれば, ある種のマス・コミと不良行為とが深く結びついているといえる。

連絡先 浦和市高砂4-16-10

# 青少年問題 — 非行性理解の方法について

遠藤辰雄  
(九州大学教育学部)

目的：青少年問題のうち最も重要なものの一つである非行の問題について、最も普通の非行者をとりあげ、そのケース・ヒストリーの分析から、どのように非行性を理解するかについての知見を得ることを目的とする。

方法：少年後期（19歳時）に非行を犯し、現在受刑中のものなかから、最も普通の非行者すなわちレックレスのいわゆるミドル・レンジに属するもの（20例）と、同年令層の非行をしていない正常者（30例）とを比較対照した。

資料は、面接法により自由に発言させる方法に重点をおいたが、一応次の項目を含み、ロージャズの構成因子分析法にもたえ得るように努めた。

「最も普通の非行者」という意味は、精神薄弱、精神病質、神経症、精神病などの精神障害を伴わないもの、また、ヤクザ・テイヤなどの反社会的暴力組織のメンバーであったり、職業犯罪者でないものという中間群という意味である。このような中間群は犯罪者の80%を占めることが知られている。

資料には、(1)どんな家庭に生まれたか、(2)幼稚園、小学校、中学校、高校、大学などの学校生活はどうであったか、当時の家庭の状況、友人関係、先生との関係、楽しかったあるいは悲しい、面白くなかった思い出、学科の好きさ、成績、向題行動の有無、あはばその処置などについて調査する、(3)学校生活以外の生活はどうであったか、とくに職業生活、問題行動の有無、あはばその処置などについて調査する、(4)現在の心境、とくに非行観について追求する方式を含めることとした。

なお20例の犯罪者の特色は次のとおりである：主な罪名：殺人1、強姦6、傷害2、窃盗8、業務上横領3。学歴：中卒12、高校中退4、高校卒2、大学在学中2。入所直前の職業：なし10、あり9、学生1。知能指数平均：99.5（80～124）。クレペリン・内田作

業素質検査：準定型2、準々定型10、中間疑問型8。負向紙法による性格検査：偏りなし13、やや偏りあり7。

結果とその考察：(1)非行者と正常者との両群を構成因子法によって比較したところでは、社会的要因すなわち年令に相応した社会生活の技術の身につけ方、友人のタイプ、グループの一員あるいはリーダーとしての経験などの面、および教育・訓練の要因すなわち学校および家庭における「しつけ」の面に大きな差のあるものが多く、とくに自己洞察すなわち非行に対する自分自身の態度、自分で自分の行動の責任をひきうける計画性と能力の面に著しい差のあることが見出された。(2)自己洞察は、非行経歴が長いほど、すなわち非行が幼時に始まるといわれているほど、劣っている。従って、安倍淳吉氏の指摘する非行深度と関係していると推測できる。(3)自己洞察は、非行の莫の心理的動機とも平行していると考えられる。動機-非行深度-自己洞察の関係を図示すると表1表のようになる。

動機	非行深度	自己洞察	例数
偶発性(激情的)	1	0 ~ +3	1
機会性	2	0 ~ +2	5
ホワイト・カラー性	2	-1 ~ +1	3
慣習性-怠惰延食性	3, 4	-3 ~ 0	7
家出脱浪性	3, 4	-3 ~ 0	3
予謀性	4	-3 ~ -1	1
正常群	0	1 ~ +3	30

表1 非行の動機・非行深度および自己洞察の関係

(4)自己洞察は、年少者では困難であるが、洞察が可能なる年令群に属し、0以上ならば非指示的療法、責任療法が可能であり、年少者であり、-1以下では行動療法が可能であると考えられるが、なお今後の研究をまたねばならない。(連絡先 九州大学教育学部 辰雄)

## 集団療法の一方法—その2—

増野信子 ○毛呂トシ子 藤川美智子  
(初声荘病院) (初声荘病院) (初声荘病院)

入院患者の70%を精神分裂病で占めている私たちの病院では、個人精神療法・集団精神療法などいくつかの方法で精神療法的接進を試みている。

彼らは対人交流をもたが、外界に対して興味を失い、自己の世界にとじこまっているので、先ずその殻を破り、活動的にする事が必要である。

昨年は集団療法の一方法として、全入院患者の自由参加による「朝会」というものについて述べたが、今回は、病院全体(事務部門、給食部門も含む)が巻き添えして行なわれる各種の行事をとりあげてみた。私たちが、このような行事もまた、集団療法と考えているのである。

今回ここにとりあげるのは、①運動会(ゲームの要素を多くとり入れている)②サマーフェスティバル(患者自作の寸劇・ダンス・ユーラスなどで夏の夕暮をすこす)③クリスマス文化祭(各クラブの展示、発表会・演劇・講演・座談会・ゲームなど2日間をわたって行う)④春と呼ぶ心祭(各種運動競技・ゲーム・展示・演劇など一週間にわたって行う)の4種目である。

私たちが予期した効果

(1) 準備過程を通じて対人交流の糸口がつけられるであろう。

(2) 外界に対する興味を持たせ、自覚性を引き出す事ができるであろう。

(3) 集団のもつ潜在的な相互支持の中で、適当な役割をとる事によって自信を回復するであろう。

(4) 行事の準備期間を通じて、何回となく行われる話し合いによって自己の反応の仕方を見つかるであろう。

方法: 約160名の患者集団を3~4のグループに分け、各グループ毎に、テーマをもとに、内容と考え製作する。グループ内での役割は、必要に応じて種々作る事ができる。従って状態によって、適当に割り当てる事ができる。又結果は、何らかの形で採集される。治療者側の役割は、各グループ1名位ずつの看護婦

が入り、患者1人1人が、適切に自己を表現しうるように、陰の力となって援助する。が内容、作局に関しての直接的指導は、一さいおこなわず、全て患者の自主性にまかされる。

今回ここに報告するのは、これら行事の準備開始期と終了後の2時長において、患者に対しておこなったアンケートと看護婦の観察評価の結果である。

結果および考察

(1) 患者のアンケートから見ると、行事をいやがっていた人も、実際に参加するうちに、いずれの行事に於ても全体の約80%が楽しい経験と感ずるようになった。即ち行事に対する興味を示し、役割も自主的に選択する事ができた。

(2) グループに分けて行う事により仲間意識が生まれ、対人接触の機会が多くなった。

(3) 看護婦の観察評価から、行事に対する関心・集団行動・仕事のとまりなどをとり上げてみると、時間的経過と共に、関心は増し、それに伴って集団行動がより多くなされ、明るさを増して行く傾向がみられた。これは患者自身も楽しさを感ずってきた経過と平行する。

(4) 看護観察の角度を変えて、日常生活の状態について見ると、その変化は微妙であるが、積極的な方向に傾く事が見られた。

(5) 身体疲労や責任の重さを訴えた患者についての、観察の結果は、評価の高い人と低い人にわかれ、仲間意識が少なかった。

(6) 補助自我的役割をもつ看護者の働きかけが集団療法としての効果を一層高める事ができると思われた。

(7) グループのリーダーの性格特徴がグループ内の雰囲気にも影響を与えた。即ち支配的な場合は、作局はよく進むが、グループ成員は疲労や不満を訴え、民主的な場合は、作局は優秀ではないが、皆が協力的で楽しんだという傾向が見られた。

# 三才児の添寝

大脇 三恵子  
(仙台 北保健所)

目的：乳児期から一人寝の習慣がすめられているが、三才児健診時の面接で添寝の習慣が依然として聞かれる。それで、厚生省策三才児健診策を若干改めた際、添寝しているかどうかの項目を加え健診を行って一年程経過した。今度、この添寝の実態が健診更上どうあらわれたか調査をまとめ、三才児の添寝の問題の手がかりを得る事、問題点を見出す事、更に今後の健診上の参考にもしたい。

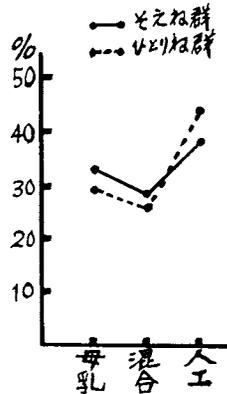
方法：昭和38年1月1日から昭和38年12月26日出生まで、昭和41年8月31日から昭和42年7月12日迄週1回行っている当保健所三才児健診に来所した1319名(男674名、女子645名)を対象とした。添寝者群207名(男子108名、女子99名)、独寝者群1112名(男子566名、女子546名)について健診票の内容について調査考案した。

結果：(1)添寝者数、1319名中添寝者は207名15.7%であった。男子52%、女子48%であったが男女差は有意でなかった。(2)添寝者の相手、母親が70%、父親17.4%、祖母4.9%、姉3.6%、兄1.9%、父母の間1.5%、兄弟の間、妹が0.4%であった。(3)乳児期の栄養、添寝者は母乳栄養33.7%、混合栄養28.6%、人工栄養34.8%に対して、独寝者は母乳栄養29.2%、混合栄養26.1%、人工栄養44.4%であった。添寝者の母乳栄養が多く、両群の栄養についてはt検定1%で有意差があった。(4)離乳完了時期、添寝者平均は14.03ヶ月、50.42、独寝者13ヶ月30.95であった。t検定1%で有意差があった。(5)習癖頻度、添寝者は34.95%に習癖が見られ、タオル等をつかひ習癖、言語不明瞭、身心症的なものが多かった。独寝者は42.47%に習癖が見られ、添寝者には比し夜尿がやや多かった。両群間に有意差はみられなかった。二つ以上習癖を有する人数は添寝者に7.7%、独寝者に6.2%であったが、これも有意差

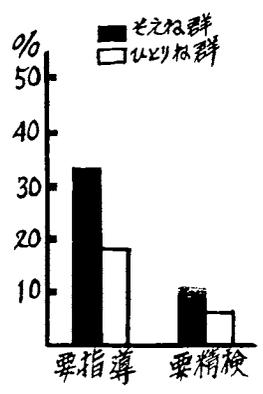
はなかった。(6)要指導、要精査検査者との比較、主訴習癖、性経歴等について特に指導を行なった人数は、添寝者69名(33.3%)、独寝者209名(18.7%)あり、t検定1%で有意差があった。ゲセル簡易検査をしない者、無答者、母親に依存的なもの等も含まれている要精査検査者数は添寝者23名(11.1%)、独寝者65名(5.8%)であった。これもt検定1%で有意差があった。

考察：添寝の相手は母親が大多数であるが、父親、祖母もあり、父親祖母の理解も重要である。添乳添寝と言う様に母乳栄養者がやや多く、乳児期からの習慣がそのまゝを続しているのも多い様に思われた。離乳完了期も全般的に1ヶ月遅れている。要指導、要精査検査者が多かった事は、添寝者には母子関係の問題のみならず、パーソナリティ問題にも影響を及ぼしている事を示していると考えられる。三才児健診にこの項目は適切と思われる。

才1図 そえねと乳児期の栄養(%)



才2図 そえねと要指導要精査検査者数(%)



連絡先 仙台市北五番丁十五番地

# 集団指導における母子関係の発展

○ 三宅 啓子  
(お茶の水女子大学・臨床研究室)

高橋 透子  
(お茶の水女子大学・臨床研究室)

## 1. 集団指導における母子の役割関係の変化

① 演者(子)と観客的演者(母) — 子グループの自主的・主導的な活動に、母グループが観客的に参加する。 — ② 演者(子)と演者(母) — 子グループと母グループが相対的に独立しながら関係を結び、集団どうしの演技・活動が展開する。 — ③ 補助自我的演者(子)と補助自我的演者(母) — 子グループと母グループとが、相対的に独立しながら、相互に、他の集団の媒介的存在となりながら、自集団としても、独自の役割をもつ活動を展開する。 —

## 2. 集団指導における対外集団関係の変化

	1 期	2 期	3 期
全体	他集団を、自集団外集団と区別する。	他集団を他集団として区別する。	他集団と操作しうる集団として区別する。
前期	ぼくとお母さん	他集団の確認	他集団との機能的交流発展
中期	ぼくとお母さんたち	他集団の理解	融合集団における機能的操作
後期	ぼくたちとお母さんたち	他集団との範囲	融合集団における関係操作

(お茶の水女子大学・児童集団研究会、1966)

## 3. 集団指導における実際例(1966年度、お茶の水女子大学・児童集団研究会・資料より)

### 1) 1期中期 → 後期(たねまき活動)

① 子グループが、蕪のたねを畑にまく。子グループから、水屋さんの役割を賦与されて、母グループが、たねをまいた畑の様子を見にくる。 — 子グループの自主的活動へ、母グループが観客的参加(畑をみる) — ② お水屋さんに、畑をみてもらいながら、たねをまいた人たちが、水をもらって、ジョロで水をまく。 — お水屋さん、たねをまいた人たちの役割分化による自集団外集団の明確化。 —

③ お水屋さん、石を探してもらって、畑の石垣をつくる。 — 目標明確化・行為促進による自集団外集団の明確化。 —

④ たねをまいた人たちが、お水屋さんにお礼をいう。 — 役割分化状況における対面行為の促進による自集団外集団の明確化。 —

⑤ たねをまいた人たちにおくられて、お水さんが、母グループの部屋へ帰る。 — 役割分化状況における役割分散による自集団外集団の明確化。 —

### (2) 1期後期・母子合合活動(蕪の収穫と生かして)

① 子グループの主リーダーが、母グループへ、蕪の収穫を知らせに行く。

② 母グループと子グループが合合し、母・子の組をつくる。 — (リーダー媒介による) 集団における母子単位の確立(ぼくとお母さん) —

③ 母・子の組で、蕪のお店屋さん(リーダー)のところへ、蕪を買いに行く。 — 物媒介による母子単位(関係)の強化 —

④ 蕪を買って、好きな場所に、母子の家をとうわでつくる。そこで、蕪の使い方について話し合う。 — 領域明確化による母子単位(関係)の明確化・強化 —

⑤ リーダーが、だんだん暗くなって、夜になったことを伝える。母子は、各自の家で寝る。 — 全体領域占有状況における場面包囲による母子関係の均一化 —

⑥ あく子日の朝になる。母子いっしょに、海でも山でも好きなところへピクニックに行く。 — 場面転換・活動方向の明確化による母子関係の相互連絡。 —

⑦ 海の人たちと、山の人たちと一緒に汽車で帰り、丘の上に行く。 — 活動方向の明確化・同一行為の共有化による母子関係の統合・連絡。 —

⑧ 蕪の使い方を報告し合い、みんなで歌を歌う — 母子関係交流・交叉から融合・合一へ —

共同研究者 並木紀子 三輪幸子

(連絡先: お茶の水女子大学・児童集団研究会)

# 臨床場面における人格変容

大槻 優子  
(お茶の水女子大学)

目的：関係療法の展開している臨床場面での問題の発見およびその解決は、治療関係の発展とともに、その問題状況における個の人格変容をもたらす。

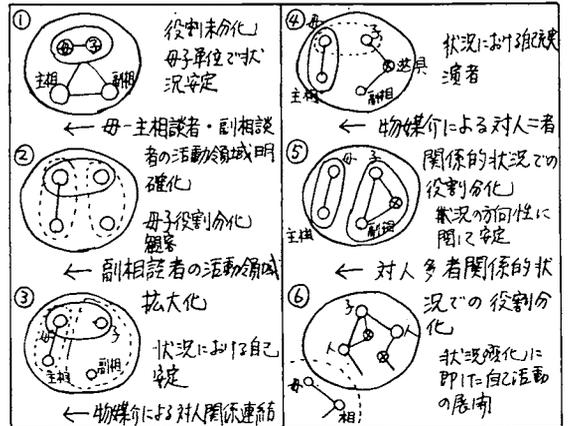
ここでは、問題状況の発展の方向に規定されて変革される「人格変容」についてのべる。

関係療法による問題状況の把握：治療関係は、一般に、被治療者のもってくる問題をうけいれることで成立し、その問題を解決する方向に展開していく。関係療法においては、「関係的存在」としての人間の基本的なあり方を確立し、その諸関係の発展との関連でその問題を位置づけ、「関係の発展を阻むもの」としてとらえる。それは、被治療者に即した問題である以上に被治療者と治療者との関係に成立した問題としての意味をもち、治療関係が発展する過程で解決へ向かう見通しの中に位置づけられる。治療関係に成立する問題状況は、その状況における個に即しての変革の方向を含めて、①対自己関係的問題状況 ②対人関係的問題状況 ③対物(課題)関係的問題状況 ④これら諸関係の複合する問題状況に類型化できる。

状況における個の人格変容：「人格」の概念は、状況における個人に焦点をあてた人間の活動の統合体系について用いられ、「状況における個の関係のしかた」と定義される。それは、自己・人・もので構成された状況において個人がどのような関係を成立させているかを意味する。ある個人の人格は、その個を含む状況においてとらえられ、その個人だけをあらわすものではない。人格は、発展的統一性および同一性をたもちながら状況の変化に応ずる可変的性質をもち、その独自性は、個の属する複雑な関連状況において形成される。状況における個の人格の変容は、その状況の発展する方向に規定され、その意味において変革の意図を含んでいる。人格の変容は、関係の発展に即して、①関係発展のははまれる状況 ②関係発展の契機となる状況 ③関係発展の展開される状況の連続状況にお

ける関係のしかたの変化の過程としてとらえることができる。

対自己関係的問題状況における人格変容：児童臨床場面全体状況の一位相としての特殊状況の展開に注目し、その関係発展に伴う人格変容過程を事例に即して考察する。この問題状況は、母親がもってきた次元では、「母から離れられない子ども」の問題として、治療関係では、その子どもの自己・人・もの(課題)との関係で構成された状況においてこの「対自己関係発展の阻まれた状況」の問題として成立している。治療関係の展開で、治療者の状況・物・人・場面などの操作による「関係発展の契機となる状況」がつかわれ、母子の役割分化・子どもの自己確立・自己発展・自己操作への対自己関係発展の人格変容がめざされた。以下、典型的な状況を抽出して図示し、発展段階を示す。



対自己関係発展の過程で、対人・物(課題)関係の発展もともに促進され、はじめ母親の提起した問題は、発展的に解決された。

本研究は、松村康平教授指導のもとに、武藤安子・黒田淑子・高田淳子との共同で進められている児童臨床研究会の活動で行なわれたものである。

(連絡先 お茶の水女子大学 児童臨床研究会)

## 福祉と矯正と心理学

奥沢良雄

(小菅刑務所)

### 福祉と矯正

二十世紀の最大の発見は社会福祉の発見であるといわれる。矯正は、犯罪者・非行者の社会復帰を目指す社会福祉に他ならない。

従来、矯正は応報的・刑罰制度の中に生れ、もともと福祉的性格を持たなかった。しかし、刑事思懐は応報から教育へ展開し、その制度面・技術面にも変化がみられつゝある。他方、社会福祉の面においても、救済的性格を脱し、その理念・対象者・方法に関して積極性が打出されてあり、犯罪者矯正は福祉の中に包含する条件を整えてきている。即ち、矯正が社会福祉であるということは、刑事思懐、社会福祉思懐の双方の発展的流れの中で確認されてきているものであるといえよう。

### 矯正の福祉性の限界

近代行刑には、人権や自主性の尊重、教育の重視、社会化の促進、人間科学の導入などがみられるようになった。しかし、こうした新しい理念や制度は伝統的互理念・制度の中で育ちつゝあるものであつて、矯正の福祉化には抵抗・制約を受ける面が多い。

矯正施設はその性格上、犯罪者に対する社会からの隔離、懲罰、及び改善という、矛盾を含む諸目的を課せられており、このことが矯正施設の社会構造を複雑ならしめている。その社会構造の特徴として、閉鎖性、権威性(特別権力関係)、均衡性(反動性、非合理性)、制限性(自主性・行動性・物品など)、均一性(共同生活、画一的処遇)、矛盾性(諸機能間の矛盾)などが余蘊なくさせられ、こうした状況の中で、特有の施設文化が形成され、この文化を背景として諸種のアリゾンコード、ロール、ステータスが誕生し、これらが絡みあつて施設内の人間行動を大きく規定し、処遇の効果に強い影響を及ぼしている。

### 矯正と心理学

こうした施設社会のマイナス面を出来る限り改善す

るための措置として、分類制度の充実、施設の特殊化・専門化(医療専門施設・分類センター等)、社会化(モデル開放施設)、教化活動の充実(カウンセリング・集団指導等)、そのための専門職員を増員などが行なわれているが、これらの多くは心理学に基礎を置き、心理学者によって実践されてきているといえよう。戦後の我國の行刑改革は、心理学の貢献を除いては語り得ないであろう。

しかしながら心理学が充分にその重責を果たしているかといえは反省すべき点もあろう。従来の矯正心理学は、どちらかといえば、犯罪行動や犯罪者の理解、施設内社会の解明、施設内における人間行動の見方等に関し、個人心理学的、或いは微視的に偏り、従つてその提案にかゝる行刑制度改革の理念・方法においても、実際の処遇技術の導入についても、充分にその効果を発揮し得ないうみを残しているように思われる。例えば、分類制度の基本ともいべき分類級別判定の基準についても、従つて收容分類制度や各施設内における分類処遇の在り方の上にも、この影響がみられると思ふし、カウンセリングに関しても矯正場面の構造を充分理解することなく行なつたり、奨励したりしてきたらしいがみられる。そして、こうしたいわば矯正心理学の理論的・確立の不徹底さが、行刑改革に対する心理学の発言力を弱めているとも考えられる。

結論的に言つて、矯正においては、心理学はもつと社会学的理論・技法を援用し、施設管理、犯罪者矯正について、社会・文化的理解を深めることによって、矯正の福祉化をより推進することができるように思われる。アメリカの矯正が、その理念・技法において社会学によつて大いに支えられている点、その矯正制度が福祉的性格の行政機構に編入され、或いは極めてなじみ人なものとなっている点に、参考とするものがあるようである。

# 過敏性の変調とその治療について

— 心情質変調治療の研究 第XV報 —

長谷川 孫一郎

(中野刑務所)

**目的と方法:** 過度の自責やひがみから、各種の妄想まで発現する人々には、心情質の過敏性の変調が認められる。その出現と消失、他の徴標との関係を事例の経過分析から、心情質問診を中心とする診断と治療の技法を確立し、過敏性の機制をあわせて考察したい。

**手続:** 6ヵ月以上の経過をみた外来100例と施設不適応受刑者200例の間診等の記録を検討し、参考のため問題中学生500例、練馬区と川崎市内の中学生の集団検診(8835-42)結果をみた。過敏性の5段階の中、周囲の動きを自分に結びつける感情を欠く(欠損状態I)、周囲の動きを自分に結びつける感情が著しい(固有状態II)、そのために悩み、社会生活に適応し難い(変調状態IIIとIV)をと、普通状態(V)の段階は省いた。心情質の14の徴標は、過敏性のほか、抑うつ、無力、強迫、自己不確実、内閉、粘着、意志欠如、即行、不安定、気分易変、顕示、爆発、爽快性である。

## 結果1: 過敏性徴標とその変調の出現率

問診の継続中、過敏性の欠損状態は、外来例の29%、受刑者例の23.5%に現れた。固有状態は外来例42%、受刑者例18%、変調状態は外来例17%、受刑者例18.5%に現れた。一般中学生では、固有・欠損状態がそれぞれ20%前後、変調状態が1~2%であり、変調出現率は年々減少している。また年令が進むにつれ、欠損状態は減少し、固有状態は女子に多く現れてくる。

## 結果2: 過敏性徴標と他の徴標との関係

過敏性の欠損状態は、外来例で無力性、受刑者例で強迫性などの欠損状態を伴うことが多い。過敏性変調は、気分易変、顕示、爆発性などの変調を伴う。とくに受刑者例では、内閉、意志欠如、即行性の変調を伴うものもある。また過敏性の重い変調には、無力性、気分易変・顕示・爆発性の高度変調(木)を伴いやすい。なお、無力性の欠損状態は、初回の問診時と他の徴標の変調の消失時にも多く現れる。

## 結果3: 過敏性変調の出現に伴う現象 (華例番号)

外来の急性軽症の8例では、被害念慮などを伴って出現し、他の徴標の変調と結びついて注意散漫、怠学、癩癖、暴行、作話、盗みなども出現する。彼らの過敏性変調は、他の変調が消失・軽快すると共に消失するが、重い変調の9例では、追跡・注察・被害・罪業・関係念慮や妄想、心気症、幻視幻聴、対人恐怖なども出現し、周囲の人や物が悪口をいい(17)、家族が他人になり(26)、泥棒と言う声がつきまとい(46)、殴りかかろうとし(50)、自らの容姿が歪んで、表に出られない(95)。彼らはその原因を一人子、欠損家庭、不良環境のせいにして、治療者に依存と抵抗の構えをくり返す。

受刑者の過敏性変調は、入所時、集団生活での孤立、反則からの独居拘禁、病舎収容、出所直前に出現し、急性のものは外来例と同様である。重症慢性の13例では、皆が嘲笑し(2)、天井から鬼が首をしめ(10)、悪夢(31, 39, 45)、心気妄想(106, 151, 196)、血統妄想(159)、卑小妄想(175, 196, 199)に苦しめられ、また激しい邪推と憎悪をもって職員に反抗、強訴する(52, 120, 175)。彼らは、過去の逆境を理由に、酒・麻薬・眼刺・賭博に耽溺したり、浮浪、ヤクザ生活をしていた者が多い。

## 結果4: 過敏性の変調消失と過敏性の欠損状態

慢性の過敏性変調は治療が長びき、周囲の人の劣者は多大である。軽快と悪化をくり返し、消失時に一時的な過敏性の欠損状態を出現する。この欠損状態が情動的自覚の喪失の場合には、その取扱い方によって、さらに慢性化するか、自立性を確立するかの分水嶺となる。そこで軽快時には、人間関係の再学習を目標とする集団カウンセリングや役割訓練も有効となる。

考察: K. Schneider らの過敏性の概念や精神病理学の妄想理論に対し、心情質変調としての過敏性の機制を、問診による経過所見から比較検討していきたい。

(連絡先: 東京都目黒区目黒本町3-8-9)

# 異質連続作業について

(作業性格検査 35)

板倉善高

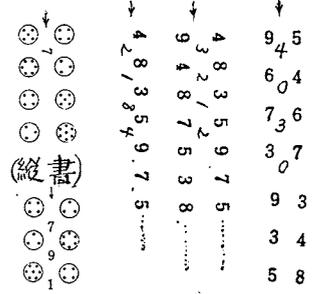
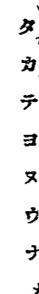
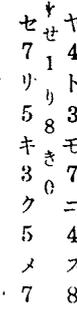
(適性研究所)

目的: 連続作業における作業量の時間的変化から、その精神的特性を捉えるはあい、作業の異質性がどのように影響するかを、過去に試みた数例によって検討する。

問題: 概念の同質化  
(練習とか学習による)

(同質)

(異質)

(連続作業名) タツピング 徒歩、ランニング 水泳	D式描線 	P式花形完成 	N式加算 (点数字) (アラビア数字) (横書) (横書) (縦書) 	V式書換 	NV式複合 	文字照合(名稱比較) 銚組立 両手協調	複雑異質 複雑同質 名稱 作業制限法
(異質要素) 同質 簡単	方向 方向と位置	二数の組合せ 七つの点数字 七つのアラビア数字と加えるの組合せ (n <sub>3</sub> ~n <sub>9</sub> , 21組)	時間制限法 視力 視力 視力 視力	時間制限法 技能 日常性格 日常性格 日常性格 日常性格	時間制限法 技能 日常性格 日常性格 日常性格 日常性格	時間制限法 技能 日常性格 日常性格 日常性格 日常性格	時間制限法 技能 日常性格 日常性格 日常性格 日常性格
(影響するもの) 作業曲線に最も 影響するもの 時間制限法 の捉え方 瞬時値の変化	体力 視力 視力 視力 視力	時間制限法 技能 日常性格 日常性格 日常性格 日常性格	時間制限法 技能 日常性格 日常性格 日常性格 日常性格	時間制限法 技能 日常性格 日常性格 日常性格 日常性格	時間制限法 技能 日常性格 日常性格 日常性格 日常性格	時間制限法 技能 日常性格 日常性格 日常性格 日常性格	時間制限法 技能 日常性格 日常性格 日常性格 日常性格

(連絡先) 松戸市松戸1267

板倉善高

# 事務機械従事者の疲労度調査に関する研究 (I)

—自覚症状とパーソナリティ特性について—

河津 健 佐野 博 中山 信夫  
(三和銀行 診療所) (関西学院大学 学生課) (関西学院大学 文学部)

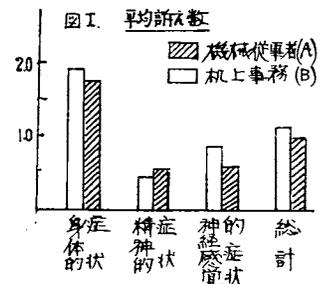
**目的:** 自覚症状調査にあらわされる疲労感の訴えが、パーソナリティ特性によって、如何に影響をうけるかを考究するの目的である。

**方法:** 大阪市内の某金融機関の計算統計センターの女子社員52名(機械従事者35・机上事務17)について、昭和41年8月に、一週間にわたって施行した一連の疲労度調査(自覚症状調査・フリッカーテスト・タッピング検査・E. M. C.)の中から、日本産業衛生協会産業疲労委員会採の、自覚的症状調査の結果と、その調査後全員に施行したY-G性格検査、P-Fステイ、内田クレペリン検査の結果を用い、事務機械従事者群(A)と、机上事務係群(B)を比較した。尚、年齢構成は右表のとおりである。

	~20	~25	~30	31~
A	20	13	2	0
B	0	15	1	1

**結果並に考察:** 表I~IVにみる訴えの多少は、各群の各症状の一回の平均訴え数(図I)より、+0.5偏差以上の場合を多い組とし、-0.5偏差以下の場合を少い組として組分けした。まず平均訴え数をみると、精神的症状を除いて、机上事務係(B群)の方が多く訴えている。このことは、同室で仕事をする両群の勤務時間の相違(A群は交替制)等による労働条件の違いが一因となっている事も考えられる。又各症状別にみると、身体的症状(表I)では、A群の訴えの多い組に、Y-G因子R,Sの得点が低く、B群では逆に訴えの多い群にSの得点が高くあらわれている。この傾向は三症状の総計(表IV)の場合にもみられる。又、神経感覚的症状(表II)については、B群の訴え数の多い組が、R,S因子に高い得点を示している。さらに、精神的症状(表III)では、B群において訴えの多い組が、Y-G因子C,O,G,R,Sに高い得点を示している。要するに、精神的症状の訴えが、他の症状の訴えよりも、パーソナリティとの関連のもとに出現しやすく、又、機械従事者よりも、机上事務に従事も

のにその傾向が認められた。尚、P-Fステイについては、E%, 0-10%の高いもの、I%の低いものに訴えの多い傾向が認められた。クレペリンには何ら有意差はなかった。



表I 身体的症状

		Y-G										P-F														
		D	C	I	N	O	G	A	R	T	A	S	S	R	E	I	M	O	D	E	D	I	N	P		
A	訴多	M	10.6	8.3	6.5	7.9	6.8	6.8	9.9	11.4	6.8	9.1	11.0	10.3	5.7	4.0	6.8	3.8	2.7	4.4	2.8					
	訴少	M	9.0	10.8	6.0	8.4	8.7	7.3	11.1	13.1	10.3	7.5	9.5	14.0	6.1	8.3	3.1	3.8	3.2	2.0	5.0	2.8				
	検定										*			*												
B	訴多	M	11.8	12.7	6.8	8.3	10.2	6.7	10.7	11.0	13.2	9.3	11.8	14.5	5.0	3.7	2.8	3.3	2.5	4.0	2.9					
	訴少	M	10.8	8.2	6.4	6.4	7.4	5.4	7.4	12.6	9.6	9.4	9.6	9.8	6.3	2.2	3.4	3.2	2.4	4.5	3.8					
	検定													*												

表II 神経感覚的症状

A	訴多	M	8.7	9.7	5.3	8.6	7.1	6.1	10.4	13.4	8.0	6.9	10.1	11.9	6.0	3.0	2.5	3.6	2.3	4.8	6.2					
	訴少	M	9.8	10.3	8.8	8.3	7.8	5.8	10.0	11.8	7.6	8.7	8.3	10.7	6.1	3.4	3.3	3.0	2.6	4.9	2.6					
	検定													*												
B	訴多	M	10.8	10.6	6.8	7.4	10.0	6.4	10.8	12.0	14.2	10.6	12.6	15.0	5.8	4.0	0.2	4.2	2.0	2.8	4.8	2.2				
	訴少	M	12.8	8.7	6.3	7.3	4.8	5.8	7.8	11.0	7.8	8.3	10.5	10.0	6.3	3.0	3.1	3.7	2.4	4.5	3.1					
	検定										*	*	*	*												

表III 精神的症状

A	訴多	M	8.8	10.4	8.0	10.0	8.0	8.4	12.2	12.4	8.6	6.8	8.2	12.4	5.7	3.9	6.2	3.1	6.2	4.6	2.6					
	訴少	M	6.7	5.3	5.8	3.7	6.7	6.2	9.2	11.7	10.0	10.7	12.0	4.7	6.3	3.1	3.4	3.4	2.6	4.4	3.1					
	検定				*	*								*												
B	訴多	M	11.5	13.3	7.3	7.3	10.5	8.8	9.5	13.3	15.0	11.3	12.0	15.0	6.3	3.7	3.8	3.2	2.8	4.0	3.2					
	訴少	M	10.4	5.2	7.0	8.0	4.8	3.6	7.0	10.4	5.3	8.8	6.4	7.2	6.1	3.1	3.7	3.7	3.5	2.0	4.3	3.2				
	検定			*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*												

表IV 総計

A	訴多	M	10.5	10.5	5.5	9.3	6.3	3.8	7.8	12.0	3.8	8.0	7.3	7.5	6.4	3.6	0.2	2.8	3.4	2.8	3.0	2.8				
	訴少	M	8.3	9.2	5.4	7.1	7.0	6.2	8.8	12.1	9.3	8.9	10.3	13.4	5.5	3.2	3.4	3.0	1.8	5.2	3.6					
	検定									*	*	*	*	*												
B	訴多	M	11.8	12.7	6.8	8.3	10.2	6.7	10.7	11.0	13.2	9.3	11.8	14.5	5.0	3.7	2.8	3.3	2.5	4.0	2.9					
	訴少	M	10.4	11.8	7.6	6.4	8.0	6.0	11.0	11.8	11.8	10.6	10.0	10.8	5.9	4.3	3.0	3.1	3.2	3.8	3.2					
	検定													*												

(注) 紙面の都合でSDは略す。

(連絡先) 西宮市上ヶ原 関西学院大学 文学部

# 安全カウンセリングに関する研究 (その1)

○ 正田 亘 豊原恒男 浜田哲郎  
(立教大学) (立教大学) (九州大学)

**目的:** 安全態度、安全関心の向上をはかるため、カウンセリング方式導入についての研究とし、その体系化をはかり、効果的な安全教育のあり方をさぐる。

**方法:** 予備調査 (1)昭和39年4月~41年3月、K電力会社の4支店(災害・事故発生事業所)の管理・監督者を対象として、安全カウンセリングに関する認識を高めるため、「カウンセリングの意義と適用の問題」などに関する啓蒙教育を行い、併せてサンプリングした災害事例について集団討議をす。 (2)災害・事故発起者(総計32人)及びその監督者と集団面接を実施し、災害の要因、とくに個人的、主観的要因の分析を行うことにより、カウンセリング方式適用の限界と、初用を調査し、本調査の基礎資料とした。

**本調査** 安全カウンセリング導入と、その体系化にあたっては、管理・監督者及び一般従業員の間接態度、安全への意識、環境に対する認知度などの実態を、二かみふさみし、方式をみ出すことが必要である。そのため、予備調査結果に基づいて、以下の調査を、昭和41年8月~9月にかけて、4事業所において実施した。〔被験者〕実験群—事故群—:管理・監督者26人、一般従業員28人、統制群—無事故群—:管理・監督者26人、一般従業員29人、計109人。〔調査項目〕A.管理監督者:①部下に対する面接態度、②権威主義的人格態度、③ヤッセル要求水準、④自己及び会社に対する認知度、⑤安全態度、⑥管理・監督者適性。B.一般従業員:①部下からみか上級の面接態度、②権威主義的人格態度、③ヤッセル要求水準、④自己及び会社に対する認知度、⑤安全態度、⑥上級の監督行動。C.管理・監督者、一般従業員をそれぞれについて集団面接。

**結果:** 今回は、予備調査の結果、就中、災害事故者とのカウンセリング的面接の分析結果から、問題点のみを報告し、本調査の結果については、別の機会で発表することとする。

(1) 災害発生要因には、遠因、誘因、直接因などが

からんでいすが、発生後の横断会報者などは原因の分析が欠如してゐることが多い。したがって、事故調査が形式的、操作的に行われるため、爾後の類似の事故防止に役立たぬことが多い。(2)事故調査のプロセスが表面的な事実調査に終始すると、発起者は被害感を覚げたい印象のみ残り、将来に対して絶望感を抱き、モラルの低下を来す。(3)企業では営業優先の意識が強いので、安全行動履行との矛盾、葛藤を生ずることが少なくない。とくに、安全より業務、営業活動を優先する管理・監督者の下で、心理的に問題をもち従業員が多い。彼らにおいて、強い緊張の招きから、事故発生条件を作りやすくなつてゐる傾向が顕著であった。(4)管理・監督者の従業員に対する人間的配慮が十分であるとすれば、事故者の反省は適切であり、会社に対して友好的態度を示すが、そうでない場合は、精神的に健康を増大し、取場への不適応が高まり、再度の事故発生に心的要因を生み出している。(5)単なる錯誤行為、誤認は個人の心理的要因や適性との無関係に起る場合がある。この対策の一環として、カウンセリング方式を導入した安全教育、訓練によって自主的な安全行動の習得をはかることが必要と認められた。

**考察:** 事故発起者にカウンセリング的面接を実施(苦情の表現の機会を与へた)しただけでも、モラルの向上が顕著に認められた。また、事故者のような負目を感じている対象者においても、かなり自由な感情が表出され、建設的意見が述べられることが検証できた。安全に関する知識的内題や技術的内題の解決、コミュニケーションの円滑さを促す場合、カウンセリング方式の導入が顕著な効果をおよぼすものであつたことが検証できたので、次の段階に研究をすすめることにした。

(注)本研究は、九州電力株式会社 労務部厚生課 安全衛生係、三好大学、山本寿一氏との共同研究の一部である。

(連絡先) 東京都豊島区西池袋3 立教大学 心理学科

# 疲労感の分析的な研究

太田垣瑞一郎

(慶応義塾大学商学部)

目的：産業疲労の主観的疲労調査は、主として、疲労時に生ずると考えられる症候項目を列挙し、該当事項の有無を反応させ、該当項目数をもつてその時々の主観的疲労の程度を知ろうとするものが用いられている(産業衛生協会、疲労自覚症しらべが一例である)。この法については、なお、項目間の関係、分類の是非、項目のウエイト等についての課題を残している。これらの解明の基礎資料を得るために、疲労感の心的構造をみようとするのがこの研究の目的である。

実験Ⅰ：(観念的疲労感の実験) 実際の活動による負荷をうけず、観念的に症候を判断せしめる場合、症候は疲労感空間においていかなる座標を占めるかを検討するものである。1) 手統一産征自覚症しらべの有する47項目を解析的にせうの最大限の項目数にまでするために次の観念から3/項目を選定した。即ち予備実験において項目内容の理解が浅いものを排し、きわめて近似質の質問をまとめ、分類(身体的、精神的、神至感覚的)内に含まれる項目数をほぼ同数とした。選定された3/項目を一対比較法により、基準項目に対し、比較項目がどの程度含まれているかを判断させ、10cmの線分上に記録させた。被験者は男子学生9名、女子学生14名、計23名である。2) 結果一 数理的模型(小倉津孝明、品質管理による)の必要とする測定値を線分上の記録位置までの距離(比率)によって得、項目間の距離行列の構成、スカラ一積行列の構成、因子分析に至り、結果のマップングに至った。その結果① 1つの固有値がきわめて大きな値を示し、他をぬきんでいることから、観念的な疲労感が構成する心理空間は一次元の尺度上にあるといえそうである。② 第1軸の固有ベクトルの正から負にいたる序列からみると、観念的分類のどれに属する項も均等に配列されているので、この軸は疲労感一般因子とおもわれる。第2次元は全体的倦怠感↔局部的表出の軸とみられ、「脱力感」を示す次元とみ

れる。第3次元は、感覚機能の變化↔筋調整不良の軸とみられ、「感覚機能の變化」を示すものとみられる。第4次元は筋調整不良↔感覚機能の變化の軸とみられ、<sup>局部的表出</sup>「自律性失調」を示すものとみられる。

実験Ⅱ：(具体的疲労感の実験) 実際に肉体的負荷の大きい作業における疲労症候訴えの程度から疲労感空間の構成と疲労感変動の方向特性を求めようとした。1) 被験者、慶大水泳日本泳法班の合宿練習および遠泳試合時の男女12名(男9、女3)を用いた。2) 手統一実験Ⅰに用いた項目に1項目を加え、32項目をランダムにならべ、各項目に5cmの線分を附した調査表をつくり、若し該当する項目があればその程度を5cmが最大限としたときの比率をもつて示すごとく線分上に記印させた。分析に使用した資料は練習量最大の遠泳(12km)日の練習前、運動直後、夕食前の測定値である。3) 結果一 ① 模型(小倉津孝明、多次元尺度法による音質評価の研究、30回時心理学会大会)に必要な測定値を各項目尺度の比率に得、因子分析の結果求められた固有値からは、実験Ⅰほど明確ではないが、ほぼ同様の解釈を得た。② 何人のベクトルを各測定時期ごとに、その集約の容態からみると、女子被験者においてそれぞれ感覚的變化および脱力感次元が朝練習直後<夕刻と著しくなる。男子の場合、1軸正(一般因子)2軸負(感覚變化)3軸負(自律性失調)の空間に向かうという形で共通である。③ 1次元尺度上で、時刻的、何人変動をみると、朝練習直後<夕刻と固有ベクトルが増大した。④ 何人の各軸の測定時刻における固有ベクトルの変動傾向は、全く調査表の訴えの総平均量と一致した。⑤ (夕刻測定値—朝測定値)をサンプルとした因子分析からも1次元固有値が大きく、この変動空間も1次元で成るとみられ、変動要因は全体的疲労感ことに思ふにかゝるごとく複雑なものである。

(連絡先) 東京都世田谷区成徳寺1丁目15-7

### 事故及び優良運転者の因子分析的研究

○古賀行彦 津井正昭  
(城西大学) (日本大学)

清宮栄一  
(国鉄労働科学研究所)

目的：警視庁においては、例年事故及び優良運転者の心理、医学的検査が行なわれているが、3、4年前にわたくし等が分担するに至ったのは、主として知的機能の検査法によって両者を比較検討することであった。併し乍らここに知的機能といっても、一般の知能検査方式の者の外に、吾々がKAMUCと自称する個人検査を導入して、そちらが事故者と優良者を区別するに如何なる程度の役割を果たすかを試みることを一つの目的とした。そちらの役割を明かにするには、他の多くの検査法は質問項目と併せて研究することが必要である。そこで東大神を医学研究室、科学警察交通研究室、日本女子大心理学研究部の協力を得て、同時に取扱された23種の差数と比較研究する機会を興えられ、23の差数間の相関行列に因子分析を適用し、レミントン・ユニバックスによって因子行列を、最終的に回転まで行って行ったのである。単純に検査を実施し、質問紙に訴えて事故者と優良者とを比較するだけでは、検査法乃至は質問紙の改善し、その効果性を明確にすることが困難である。吾々は因子分析の結果にもとづいて、漸次、事故者と優良者を区別するの確かな方法を研究を進展させなければならぬ。

方法 先ず事故者と非事故者(優良者)とを乗車体の種別によって、8種の群別に分け、知的機能のテストに関する限りにおいて、それぞれ平均値と偏差とを求めた。(1)タクシー事故者99名(2)営業トラック事故者49名(3)砂利残土事故者17名(4)オーナー事故者17名(5)タクシー優良者88名(6)営業トラック優良者41名(7)砂利残土優良者13名(8)オーナー優良者15名。研究の対象となつたものの総計338名である。こゝに詳細に各テスト・質問紙法その他の項目と各群別の結果を掲げる餘裕はないが、KAMUCと称する数種の検査法は、単純な知的機能の外にある種の情意的傾向を、決定すると言はれたいものである。他の協同研究者の取扱

つた差数4つを掲げると、1.異質図形の意見2.図形列の完成3.教のmatrix、4.線型の系列5.内面図形の意見(Kamuc I)6.字上色鏡(Kamuc 2)7.色上字鏡(Kamuc 3)8. C/C-A 9. C/C-B、10. D/D-B 11. D/D-A (Kamuc 4. 5. 6) 12. Mipp (優良点) 13. Mipp (事故点) 14. 命令 15. 規則訓練 16. 発達衛生健康 17. 教育効果、18. morale (労働意欲に関するもの) 19. 対人関係(外罰的) 20. 自己顕示傾向、21. 日常生活錯誤 22. 経験年数、23. 精神医学的診断である。

結果 こゝに事故群と優良群とを総括し各群について、それぞれ相関行列と因子分析列を用いた。因子はそれぞれ4第8因子まで求められた。次にそれぞれ因子負荷量の異なるものにつき、大観すると次がのような結果に到達する。

非事故群を特徴づける因子は、(その重要なものとして) (I) 命令(両極性) 内部的経験的因子で、日常生活における錯誤はとくに事故群の特徴である。(II) 知的因子、従来の因子は優良群と不良群とを区別するものであり、命令、経験年数は、事故群を特徴づけ、且つ精神医学的診断は、優良群意見にとって重要である。(III) 無事故的な性格はMippに依存するもの(IV) は協力的な安定性検査、moraleとして、また精神医学的診断によりて非事故群の特徴となる。(V) は放漫的因子として、事故群を摘発する役割を果し、(VI) は分析的傾向として優良群を特徴づける(VII)の独自の態度の傾向は(+)面では非事故群を(-)面では、対人関係により事故群と結びつく両極的因子である。併して(VIII)の因子は、こゝに試み的に問題として挿入したもので、それぞれ研究の必要があるか—こゝにおける因子行列の内においては、情動的解放とも呼ばるべきものに關係し、事故群と非事故群とを区別する両極的因子である。

# 人間モナドの素性相位規制について(第12報告)

正 村 史 朗

(名古屋市役所)

昨年の本学会で太陽活動と交通事故の発生との間に B. Düll & T. Düll などの研究と同じ結果がえられたことを報告したが、その後更に驚くべき相関が見出された。

Fig. 1 は太陽面爆発に伴って黒点相対数や太陽ラジオ放射電磁密度の急増がみられ、その直後に全国すべての地区で交通事故が著しく増加したことを示す。

Fig. 2 は太陽黒点相対数の年変動と交通事故のそれとの関係を示す。

Fig. 3~5 は太陽黒点相対数の日変動と交通事故の日々の増減との関係を示す。実線は実数、実線は  $\frac{a+26-c}{4}$  3日移動平均を示す。一般に太陽黒点の日々の値はかなり大きく変動するが、交通事故の件数にはそれほど大きな変動はない。しかし、両者の移動平均からの偏差は依然として密接な相関を保っていることを Fig. 5 に示す。この際チューリッヒ天文台と東京天文台の黒点相対数の相関係数が 0.51 なのに対し、前者と東京都の交

通事故件数との相関係数が 0.54 なのは注目に値する。

この様な相関は太陽からの太陽電波、紫外線、X線、宇宙線等の電磁輻射などが地磁気その他の電磁現象のみでなく、電気的な神経系のはたらきにも作用するのによるものと考えられる。

なお、参考までに、才27回本学会で発表した、太陽活動において我々の見出した  $\alpha$ ,  $\beta$  周期と Cyclothymia との関係の検証結果を1例として Table 1 に示しておく。

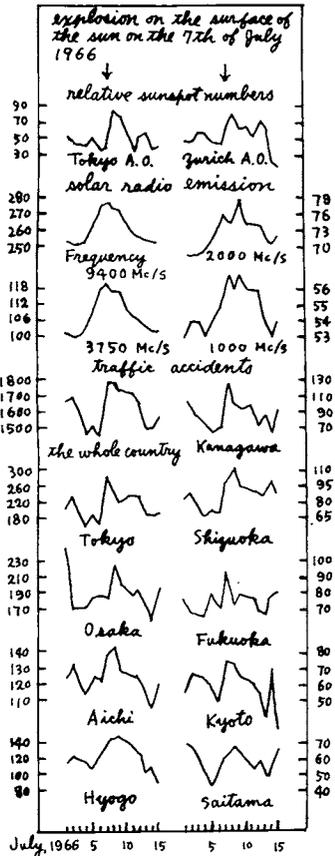


Fig. 1 Relation among explosion on the surface of the sun, sunspot numbers, solar radio emission and traffic accidents.

Table 1 Relation between  $\alpha$ ,  $\beta$  cycle and Cyclothymia

E-D-D-E	D-A-D-S	D-E-D-S	D-D-D-F	D-R-D-A
+	+	+	+	+
S-D-S-L	S-M-S-S	S-E-S-S	S-I-S-F	S-O-S-A
+	+	+	+	+
A-D-A-L	A-A-A-S	A-E-A-S	A-D-A-F	A-R-A-A
+	+	+	+	+
S-D-S-L	S-M-S-S	S-E-S-S	S-I-S-F	S-O-S-A
+	+	+	+	+
D-I-I-L	I-A-I-S	E-E-E-S	E-E-E-F	E-R-E-A
+	+	+	+	+
F-D-F-L	F-A-F-S	F-E-F-S	F-D-F-F	F-R-F-A
+	+	+	+	+
R-D-R-L	R-A-R-S	R-C-R-S	R-I-R-F	R-R-R-A
+	+	+	+	+
A-D-A-L	A-A-A-S	A-E-A-S	A-D-A-F	A-R-A-A
+	+	+	+	+

\* Significant at the 0.05 level. \*\* Significant at the 0.01 level.

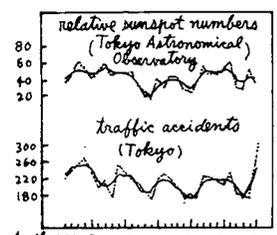


Fig. 3 Relation between sunspot numbers and traffic accidents (II)

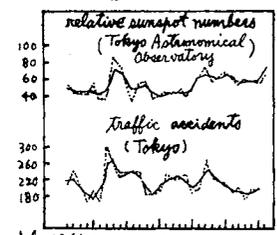


Fig. 4 Relation between sunspot numbers and traffic accidents (III)

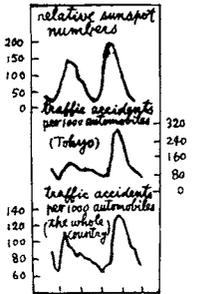


Fig. 2 Relation between sunspot numbers and traffic accidents (I)

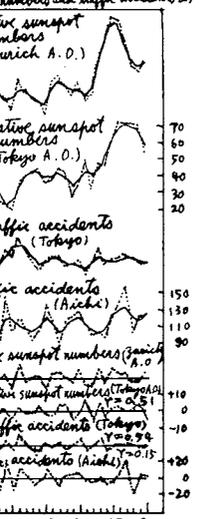


Fig. 5 Relation between sunspot numbers and traffic accidents (IV)

## 個人発表

- 教育・発達・社会・4** Native speaker による English class  
の1年間の観察記録 東京家政学院大学 永沢幸七  
目的、日本の高校生・大学生が英語（会話）を学習する際、如何なる困難点を持つかを分析する。方法、教師・アメリカ女性、毎週4時間宛、1年間継続、材料、アメリカ口語読本、入門初段用、高校生クラス、大学生クラス約10名宛、テープレコーダー及教師の記録を分析。結果、外国人が日本語を学ぶ時の結果と比較しながら分析中。
- 教育・社会・発達・5** 思考過程と発達 昭島市立成隣小学校 高橋哲也  
思考と授業過程について。  
考え方の交流と組織化と思考発展  
授業をとおしての分析  
コミュニケーションの類型化と内容分析  
知能の発達の社会的要因
- 産業・職業指導・一般・8** 中学校卒業者の定着過程に働く要因について 立教大学 藤本喜八  
昭和25年以後の中学校（栃木・千葉）卒業者男女約1000人の経歴調査に基き彼らの定着過程に働く要因の一端を解明しようとする。
- シンポジウム
- 青少年問題・3** 農村青年の宗教意識 熊本大学 葛谷隆正  
日本人は一般に、欧米人に比して、宗教意識や宗教的行動が著るしく低いと言われている。筆者は、今まで青年学徒及び都市勤労青年について、彼らの宗教意識を研究してきたが、後者は前者よりも概して意識が高い。農村青年では、それがいかようなものであろうか、三者間の関連を検討したい。
- 福祉の問題・5** 幼児の言語発達に関する研究 第3報 一言語遅滞・障害幼児の追跡調査その1— 国立精神衛生研究所 桜井芳郎  
言葉の問題を主訴として、相談室に来所した3才前後の幼児の予後を追跡することにより比較的早期における幼児の言語問題の診断、相談のあり方と指導について考察する。調査対象は国立精研精神衛生相談室来所幼児で調査方法は質問紙法による郵送調査である。
- 産業安全・2** 傷害事例調査から得たもの 鉄道労働科学研究所 清宮栄一  
目的：傷害を発生せしめた背後諸要因を解析して、有効な傷害防止対策を樹立する資料を求める。  
方法：受傷者との深層面接によって、受傷時までの心理過程を分析するとともに、受傷に影響を与えた社会的および物理的環境条件や作業形態をきろかにする。

## 特別報告

人の生き方について

九州大学文学部心理学教室 生き方研究班

これまでの研究によって、人の生き方についての個体的および環境的条件を測定するのに適当と思われる500余項目から成る「生き方調査票」CLSKを作成した。これを正常者群および不適応者群に適用して、両群がどのような項目について差異を示すかを明らかにすると共に、われわれがより良く生きるための基準条件を設定しようと思う。

公 聴 会

交 通 問 題・2 交通事故防止対策の心理学的矛盾について

大 阪 大 学 鶴 田 正 一

静態と動態における基本的人間行動の差異について対面交通、信号点滅、歩道橋、踏切道対策等について検討する。

埼玉大学教授  
医学博士 瀧永重次 著

# パーソナリティ

A5横組 200頁 720円

株式会社 三 和 書 房

本 社 京都市上京区今出川烏丸西入  
電 話 ㊟ 0788・1642 番  
東京支店 東京都千代田区神田駿河台3-3  
電 話 (291) 3 6 7 0 番

# 新しいリーダーシップ

● 集団指導の行動科学

三隅二不二著 現代の指導者像は、ソフトな民主型でもなければ「おれについてこい」型でもない……。本書は、激しい革新時代に生きのびるダイナミックな指導者の新像を描く。

# 経営の行動科学

● 新しいマネジメントの探求

R・リツカト著 経営における憤まん、憎悪、不満、哀願は、従業員から社長にまでおよんでいる。本書は一連の動機原理にもとづく行動科学的アプローチで、革新的経営体制を探索している。

# 企業内心理テストの実際

● 採用・配置・訓練・人事相談にどう使うか

田崎 仁著 企業の人事・教育・訓練には、科学的・効果的な各種テストを利用すべきだ。どんなテストを、どんなことを調べるのに使うか、その効果の信頼度は？ 実際に即して解説した。

★経営にかかわる心理学の全領域の  
現段階での最高成果をもった初の体系化・総合化!!

## 経営心理学講座

〈全5巻〉各巻 A5判上製函入  
850円・千120

第1巻 経営管理の心理学

第2巻 企業内教育の心理学

第3巻 生産活動の心理学

第4巻 製品計画と広告の心理学

第5巻 マーケティングの心理学

相良守次  
兼子 宙  
豊原恒男 編  
牧田 稔  
本明 寛

# 心 理 学

外国図書・雑誌・テスト用具

の ご 用 命 は

海外出版貿易株式会社

東京都千代田区神田司町2-21 電(292)4271

福岡・広島・岡山・大阪・京都・名古屋・横浜・仙台

博 多 の 老 舗

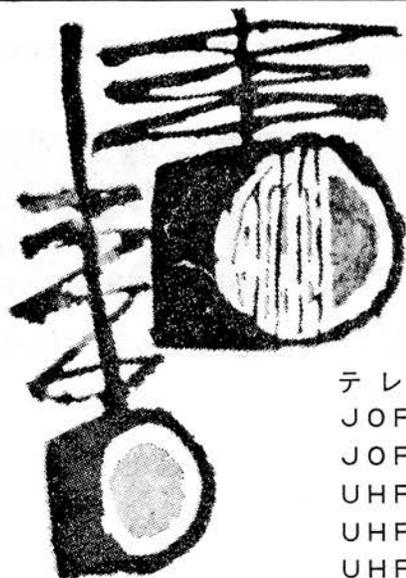
博多織・博多人形

博多織元



松 居

本 店 福岡市中洲5丁目2番3号  
福岡店 西 鉄 名 店 街  
箱崎店 福岡旅行センター内  
支 店 東京(銀座) 北九州(小倉) 別府



ラ ジ オ

JOFR 1270Kc 福 岡 局  
JOFO 1530Kc 小 倉 局  
JOFE 1060Kc 大 牟 田 局  
1060Kc 行 橋 局

テ レ ビ

JOFR-TV 4ch 福 岡 局  
JOFO-TV 8ch 関 門 局  
UHF - TV 48ch 久 留 米 局  
UHF - TV 61ch 大 牟 田 局  
UHF - TV 60ch 行 橋 局

**RKB毎日放送**

福岡市渡辺通4丁目1 電話 76 3731 (代)

# 臨床心理学講座

全4巻

予約募集中!!

第一線で活躍する臨床心理学者五十余名を動員し、臨床心理学者のハンドブックとして、各領域を網羅しながら、実際の臨床に即しての問題点、臨床的・理論的オリジナリティを盛りこんだ待望の本格的講座。 ■好評発売中!

1 臨床心理学の基礎 11月刊  
■佐治守夫・水島恵一・星野命編

2 人格診断 12月刊  
■片口安史・秋山誠一郎編

3 心理療法 既刊  
■水島恵一・村瀬孝雄編

4 臨床心理学の分野 12月刊  
■玉井収介・小嶋謙四郎・片口安史編  
各A5判・函入・1500円

日本臨床心理学会編

臨床心理学の進歩 (一九六六年版) (一九七七年版)  
⑥6 1500円 ⑥7 1700円

大山正・片口安史編

医学のための心理学 1500円

東京都文京区大塚3-20-16  
内容見本・図書目録進呈

誠信書房

学術研究に、調査資料作成に

## 定評ある 日文の心理検査

### 知能検査(個別・団体)

びねー 田中びねー式知能検査  
ウイスク WISC 知能診断検査  
ウエイス WAIS 成人知能診断検査

E I S 知能検査

田研式 知能検査

科研式 知能検査

### 学力検査(小・中・高)

小学校項目別学力診断検査  
<田研式・E I S・科研式>  
中学校新入生用学力検査  
高校新入生用学力検査

児童・生徒の心理研究専門誌

月刊 教育心理

### 性格適性・特殊検査

<新刊> 学力向上要因診断検査  
学級適応診断検査  
学書能率診断検査  
親子関係診断検査 他80種  
ロールシャッハプレツ 完備

田中教育研究所 編  
定価 160円

幼児より成人まで各種完備  
東京都台東区下谷2-3-4

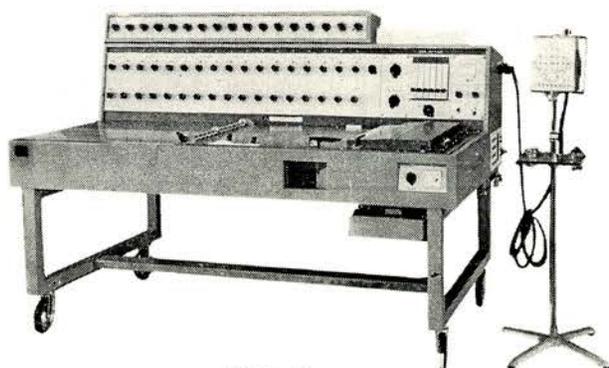
■カタログ進呈

日本文化科学社

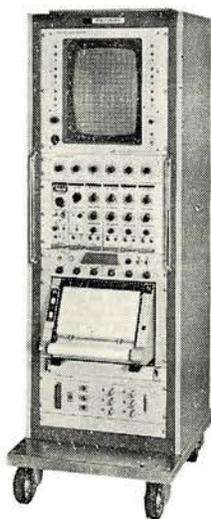
# ME

## に生きる 三栄測器の技術！

### 医用電子機器



脳波計



ポリグラフ

#### 測定対象

脳波／筋電図／心電図／血圧（観血）  
／気管内圧／精神電流現象／呼吸曲線  
／指尖脈波／単位細胞電位／心音／酸  
素飽和度／体温／呼吸流量／呼吸流速

#### 主要製品

脳波計  
脳波分析装置  
医用データ計算機  
筋電計  
ポリグラフ  
ベッドモニタ  
集中監視装置  
ハートスコープ  
心臓監視蘇生装置  
ブルスメータ  
サージカルモニタ  
音・光刺激装置  
医用テレメータ



## 三栄測器株式会社

東京都新宿区柏木1-89(伊藤ビル) TEL(363) 8251(代)

# 祝

## 第34回日本応用心理学会

### 新製品ご案内

グラスファイバー式アイカメラ  
シグマーコニットタキストスコープ  
早大式知覚行動学習実験装置  
TR-1 タイムレギュレーター  
TR クロノスコープ  
M. C. C ベビーラスト

## 竹井機器工業株式會社

本 社 東京都品川区旗の台1-6-18 電話 荏原 (782) 0782 7884・7779番  
大阪支店 大阪市東区道修町1の11(加藤ビル) 電話 北浜 (231) 5531・1741番  
新潟工場 新潟県中蒲原郡小浜町矢代田 電話 (小浜町) 131・617番